

# 令和6年度法人事業報告

社会福祉法人北ひろしま福祉会



## 令和6年度事業報告にあたり(法人としての総括)

10か年の中長期事業計画の4年目である令和6年度の事業計画策定に当たり、2030年度までの事業計画(事業活動資金収支計算書=CF、事業活動計算書=PL)の数値目標に基づき、健全な財務規律の確立を目指し取り組みを行いました。結果、資金収支差額、サービス活動収益において、当初目標を上回ることが出来ました。特に今年度の報酬改定では、障がい者支援の分野で、強度行動障害を有する障がい者等への支援体制の充実が求められることとなり、重度化にきめ細かに対応したことで、経営的な好結果につながりました。

事業については、日本ハムファイターズや関連する機関との連携を進めていくことが出来ました。就労事業所部門では、令和5年度に引き続きエスコンフィールド内のドリンクステーションの業務を受託し、利用者の就労機会の創出やモチベーションアップに繋げることが出来ました。もうひとつ令和7年度から本格的にスタートする事業となりますが、エスコンフィールドが近くにある利点を活かし、一般社団法人日本野球の社と連携し「+気プロジェクト」=100年先の野球のために、子どもたちの未来のため、障がい者の就労支援の一環として、新たな事業に取り組むことにしました。また、障がい入所施設(生活介護)に配置医師を導入し2年目を迎えますが、看護ステーションとの協働による利用者の健康管理の体制を強化することができました。特に利用者の通院が令和5年度と比較し289件減少(全体の20%削減)させることが出来たことは、支援員の利用者に寄り添う時間を増加させることが出来、サービスの質の向上に繋がっています。4年目を迎えた「看取り援助推進室」では、知的障がい分野の実践報告を法人内外に向けて行っており、生活感あふれる看取り援助の内容が刺激的で好評であり、知的障がい者支援の認知度を上げました。知的障がい者の「エンド・オブ・ライフ」についての情報等、関わりが少ない医学界にも活動報告ができた功績は大きいものと思います。人材の確保・定着の面では、新卒学生の採用は計画人員を下回りましたが、今後の生産労働人口の減少を踏まえ、特定技能外国人職員の採用(令和6年度22名)を積極的に行いました。

さて、令和6年度の決算についてですが、資金収支差額で約2億2千400万円(対前年増収増益)、サービス活動増減差額では対前年増収減益とはなりましたが約3千380万円を計上することが出来ました。会計人監査で法定福利費にかかる修正(約2千100万円)と特定技能外国人職員の採用経費(約2千400万円)を考慮すると、平成24年度以降の最高額だった令和5年度の決算数値に匹敵する結果で終えることが出来ました。

法人全体としては目標を達成することが出来ました。課題もあります。そのひとつは介護事業における稼働率の低下です。特に東部緑の苑短期入所及びデイサービスセンターヴェールについては資金収支差額予算に対し約1千万円の予算割れとなりました。また、就労事業の就労センタージョブ(製パン・弁当販売・レストラン等)は一昨年頃から続く原材料費等のコスト増や利用者減に対応することができず、利益を圧迫し当初予算から約2千万円超のマイナスになりました。今回の決算状況を踏まえ、令和7年度での立て直しに向けて取り組んでいきます。事業計画の一つである財務基盤の整備については、10か年計画で令和12年度迄に8億円の現金預金額を目標としていますので、引き続き取り組みを進めていきます。

令和12年(2030年)迄の長期計画では、SDGs(エスディーゼーズ)への取り組みを念頭に、北ひろしま福祉会の「すべての人の幸福(しあわせ)のために」という法人理念達成のため、持続可能な社会の実現と地域共生社会の実現に取り組んで参ります。

1. 長期事業計画・10年(2021年から2030年SDGsの最終ゴールの年度)

事業計画	進捗状況(事業報告)
<p>(1)幸福(しあわせ)を追求する事業展開</p> <p>①法人理念の浸透 ②サービス提供事業所の基盤強化 ③看取り援助の取り組み強化 ④切れ目のない支援体制の構築 ⑤多様な相談支援ができる体制の強化 ⑥福祉と医療の連携 守る取り組み強化と心理的安全性のある組織づくり ⑦利用者の自己決定と選択を尊重し個人の尊厳が守られる福祉サービスの提供</p> <p>(2)地域福祉の推進を図る取り組み</p> <p>①誰もが活躍できる地域活動の場づくり ②地域ニーズと社会資源を結び付けた地域活動の推進</p> <p>(3)災害に強い法人づくり</p> <p>①安心して暮らし続けられるシステムづくり ②BCP(事業継続計画)の定期的な見直しとBCM(事業継続マネジメント)の継続的な運用。 ③地域の災害時のための関係機関との協体制づくり ④被災地への派遣など広域的な活動システムづくり</p> <p>(4)魅力ある法人づくり</p> <p>①楽しい職場づくり ②人材の確保と定着に向けた取組の強化 ③地域とのネットワーク構築／社会とのつながり ④情報の積極的な活用／伝える工夫</p> <p>(5)事業を継続するためにサービス活動収益 年2.5%の成長を維持する</p> <p>①公益性に根差した事業活動を可能とするため、適正な収益の確保と安定的な財務基盤の確立 ②2021年を初年度とする10か年計画(CF/PL)の策定と法人全体及び各施設、事業ごとの計画的かつ効率的な事業運営。 ③事業を継続するためにサービス活動収益 年2.5%の成長と維持。 ④中長期計画に基づく積立金及び資金計画の作成。 ⑤会計監査人の配置による会計に関する体制の整備</p>	<p>2021年度(令和3年)から新たな10年間の長期事業計画を、大きく6の項目に分け計画の内容により、国連が定めた持続可能な開発目標SDGs17のゴールの内11項目にあてはめ作成し取り組んでいます。</p> <p>2024年度(令和6年)は10か年計画の4年目として計画に沿って事業を展開しています。個別具体的には中期計画に対する報告、令和6年度事業に対する報告、各事業ごとの報告において進捗を報告します。</p> <p>引き続き長期計画に沿った事業運営に努めて参ります。</p>

2. 中期事業計画・5年(2021年から2025年)

事業計画	進捗状況(事業報告)
<p>【基本計画】</p> <p>北広島市、北海道日本ハムファイターズ、エスコンフィールド北海道(Fビレッジ)に関係する機関との連携をはかり、施設周辺の環境変化やニーズに適切に対応した事業整理・施設整備を計画し事業展開を行います。また、社会福祉法人として公益的な事業活動を可能とするため、適正な収益の確保と安定的な財務基盤の整備に努めます。</p>	<p>北広島市、北海道日本ハムファイターズ(スポーツ&amp;エンターテイメント)、ボールパークに関係する企業等と連携を行ってきました。特に一般社団法人日本野球の社との連携では「十気」プロジェクトを共同で進めていくこととしました。財務基盤の整備については、複数の金融機関と経営の安定性を高められるよう引き続き連携を強化しました。</p> <p>※「十気」プロジェクトとは、100年先の日本の野球のために、野球の文化・環境を支え育む事業と野球だけでなく産業、環境、地域など日本のこれからの社会への貢献を視野に入れ、ひとりではなく多くの方とつながり支援の輪を広げていくプロジェクト。</p>

事業計画	進捗状況(事業報告)
<p>(1)施設整備について</p> <p><b>【中長期の施設整備計画について】</b>  2021年に就労センタージョブ及び北広島コラボの大規模な新規整備事業が完了し、2022年には利用者支援拠点を併設した新規グループホームを整備しました。引き続き必要に応じて、既存施設の修繕や整備を実施していきます。ここ数年、障がいのある方の地域での生活を希望する声が多くなっており、その声に応え続けるため、新たな住まいの場づくりにむけた整備を行っていきます。また、とみがおか、共栄の居室個室化、北広島セルフ建物の賃借契約終了後の事業の在り方について検討していきます。</p> <p>(新規施設整備)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 障がい者用グループホームの整備の検討</li> <li>② とみがおか、共栄の居室個室化整備(地域移行の確立)の検討</li> <li>③ 北広島セルフ空調(冷房)設備の新規整備</li> <li>④ 北広島セルフ建物賃借契約終了後の事業場所の検討</li> <li>⑤ 北広島市市有地についての検討(農業体験事業)</li> <li>⑥ 施設内診療所の整備についての運営</li> </ol> <p>(既存施設の修繕)</p> とみがおか及び共栄の電話装置については2023年度に交換しました。とみがおかの空調設備及び暖房設備については、防衛省の補助金を活用し、2024年度と2025年度の2年間で改修を行います。また、とみがおか及び共栄の誘導灯、共栄と北広島デイセンターのキュービクル変圧器については2024年度で交換します。外壁塗装及び自動火災報知機設備等の交換については状態を確認し必要な箇所から順次実施します。東部緑の苑についても2023年度で竣工10年目を迎えたことから、全事業所LEDへの変換を実施します。今後の施設整備に向けた資金として施設整備積立金を積み立てていきます。 <p>(1)幸福(しあわせ)を追求する事業展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 法人理念の浸透</li> <li>② サービス提供事業の基盤強化</li> <li>③ 看取り援助の取り組み</li> </ol> <p>(2)地域福祉の推進を図る取り組みについて</p> 2021年度に星槎道都大学、2022年度には一般社団法人北海道きたひろ観光協会と包括連携協定を締結しました。法人の資源を活用し、引き続き地域福祉の推進に取り組んでいきます。2023年度には、法人の事業や地域福祉資源の充実に協力いただける「北ひろしま福祉会サポーター(応援団)」の組織を作りました。地域の人々の参加や協力を得ながら、今後の活動や施設・設備整備を公的な収入だけに頼らない新たな財源として広く寄附を受けられる組織を作り、制度外の事業にも目を向け取り組んでいきます。また、介護講座、みんなde食堂、地域住民を対象としたイベントを年間計画に基づき実施していきます。町内会と情報交換し地域で求められている課題解決に向けて取り組んでいきます。 <p>(3)災害に強い法人づくり</p> 地震や風水害だけではなく感染症対策についても、新型コロナウイルス感染症のクラスターを経験した法人として、万が一の際にもスムーズに事業が継続できるよう取り組みます。また、法人サポート本部については地域防災の拠点としての役割を担うと共に、法人の事業内容や活動、役割などについての広報活動につとめていきます。	<p>2024年度(令和6年)については、北広島セルフ空調(冷房)の新規整備を行いました。また、とみがおかの空調設備及び暖房設備について、防衛省の補助金を活用し令和6年度と令和7年度にかけて改修を開始しました。障がいのある方の地域での生活を希望するニーズに応えるべく、新たな住まいの場づくりに向けて具体的に検討をしました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ニーズが高いことから引き続き取り組む</li> <li>② 利用者の希望を聞き取り可能なことから取り組んでいく</li> <li>③ 令和6年度で整備済み</li> <li>④ 北広島セルフの事業体制や市内の物件情報を収集し引き続き検討していく</li> <li>⑤ 行政と連携し引き続き情報収集を行う</li> <li>⑥ 令和6年度に整備済み</li> </ol> <p>とみがおかの空調設備及び暖房設備の改修に向けて、北海道防衛局より補助金の決定がなされ、2024年度(令和6年)に基本設計と一部工事が開始することとなりました。2025年度(令和7年)にすべての工事が完了する予定です。各施設の屋上防水シートの状況を確認し、とみがおか、共栄、北広島デイセンターについては2022年度(令和4年)に改修工事を実施しました。LEDについては令和6年に対象箇所の交換を行いました。</p> <p>個別具体的な取り組みについては各事業所ごとの事業報告とします。</p> <p>2023年度(令和5年)の下半期に「北ひろしま福祉会サポーター(応援団)」を創設し令和6年度で2年目を迎えました。多くの方の参加や協力を頂きました。令和6年度の実績と寄附金の使用計画については報告書にてお知らせする予定です。コロナ禍の2022年度(令和4年)には出来なかった、地域活動については令和5年、6年度に、地域貢献推進部が中心となって、町内会や一般市民を対象としたイベントを年間計画をたて実施しました。</p> <p>法人サポート本部は地域防災の拠点としての役割を担い、地域貢献推進部の「みんなde防災」のイベントに参画しました。</p>

事業計画	進捗状況(事業報告)
<p>(4)魅力あふれる法人づくり</p> <p>楽しい職場づくりとして、職員が安心して働くことが出来る環境の整備に取り組みます。職員の職場定着のため、給与面における処遇改善の他、人事制度や評価、能力開発、育成などトータルな人材マネジメントの制度整備に取り組み、働き甲斐のある職場づくりに取り組みます。また心理的安全性のある職場づくりや職員の安全と健康が確保されるよう労働災害防止、ハラスメント防止、メンタルヘルズに引き続き取り組みます。人材の確保については多様な職種、勤務形態、年代、育児や介護など配慮の必要な方等の中途採用にも積極的に取り組みます。2024年から在留資格が特定技能の外国人を採用し人材確保を進めていきます。</p> <p>※しまケア・・・相手に想いを伝えるコミュニケーションツール、おまかせうんチーム・・・排泄支援に関するチーム</p> <p>(5)財務基盤の整備</p> <p>公共性の高い社会福祉法人として地域での役割を継続的に果たしていく事と、ここで働く職員が安心して働き続けることが出来るよう、財務基盤の整備に取り組みます。具体的にはキャッシュポジション(手元流動性)を高めキャッシュ・フロー(資金繰り)を安定させるため、2025年度末には5億円の手元資金の確保を目指します。</p>	<p>利用者サービスの質の向上に向け、各委員会を中心に取り組みを実施しました。</p> <p>2021年度(令和3年)を初年度とする10か年計画において、2026年度末(令和8年)に5億円の現金預金額を目指すこととしました。2023年度(令和5年)の決算状況から前倒して達成しました。2031年度(令和13年)に8億円の現金預金額を目指し、引き続き財務基盤を安定させるため、複数の金融機関との連携を強化し取り組み。</p>

### 3. 令和6度事業計画

事業計画	進捗状況(事業報告)
<p><b>【基本計画】</b></p> <p>北ひろしま福祉会のすべての事業活動は、言うまでもなく法人理念を実現・遂行するためにあります。法人理念制定(令和元年)から5年が経過しましたが、まだまだ全職員が同じ方向を向いて業務に取り組んでいるとは言えません。法人の「めざすべき将来像」は法人の目的です。目的を果たすために、現状を踏まえ、組織の目指すもの、価値観、存在意義等について、全役職員が理解し共有していけるよう取り組みます。</p> <p>法人事業及び施設・設備整備については、中長期事業計画に基づき、すすめていきます。特に令和3年度に発生した虐待事業を教訓に、利用者虐待・権利侵害を絶対発生させないよう、引き続き職員教育や体制づくりに取り組みます。また、外部からの目が入る様に第三者評価やオンブズマン等の導入や事業所の日常活動への積極的なボランティアの参加に取り組みます。</p> <p>法人の抱える諸課題については、昨年実施した外部機関による職員インタビューや内部で実施したアンケートの結果を職員の声として大切に、第三者の視点と合わせて、法人全体・事業所ごとの課題を整理し、優先順位を付けて改善に向けて取り組んでいきます。</p> <p>(1)施設整備及び設備整備について</p> <p>とみがおかの空調設備及び暖房設備について、防衛省の補助金を活用し今年度と来年度の2年間で改修を行います。また、とみがおか及び共栄の誘導灯、共栄と北広島デイセンターのキュービクル変圧器の交換を行います。外壁塗装及び自動火災報知機設備等の交換については状態を確認し必要な箇所から順次実施します。近年の夏場の猛暑による利用者の健康被害のリスクが高い北広島セルブの空調(冷房)設備を新規で整備します。</p> <p>(1)幸福(しあわせ)を追求する事業展開</p> <p>①法人理念の職員への浸透を図ります。</p> <p>②サービス提供事業の基盤強化のためサービスの質の向上に向けて取り組みます。</p> <p>③看取り援助推進委員会の活動推進</p> <p>④医療と福祉の連携</p>	<p>2024年度(令和6年)は法人理念の浸透に力を入れて取り組みました。特に地域福祉を推進する役割について、管理職者自らが地域の方との繋がりを大切にする意識を高めていくために、地域福祉推進部が実施する町内会や地域イベントに積極的に参画しました。利用者虐待・権利擁護については、毎日の業務の中で気づきやヒヤリハットから虐待や権利侵害に至らないよう、職員教育や体制づくりに取り組みました。職員のハラスメント防止については、わくわくワーク委員会(法人職員の委員会)が中心となって心理的安全性のある職場づくりに取り組みました。法人の抱える諸課題のひとつである評価制度について、管理職研修を行い、面談の技術や評価ポイントについて学び、評価制度の改定を行いました。</p> <p>計画通り実施しました。</p> <p>①基本計画通り浸透を図りました。</p> <p>②選ばれる施設の条件でもある国家資格の保有率の向上に引き続き取り組みます。</p> <p>③自法人・自事業所内にとどまらず、家族や地域の方々、他の事業所も方たちとの連携を強化し取り組みました。</p> <p>④利用者の健康管理を配置医師と看護ステーションの連携により取り組みました。また協力医療機関及び訪問医療機関との連携を図りながら利用者の暮らしを支えました。</p>

事業計画	進捗状況(事業報告)
<p>(2)地域福祉の推進を図る取り組みについて</p> <p>法人理念の「地域福祉を推進する役割」について明文化して取り組みます。特に事業所での日々の業務がどのようにかわりがあるのかを明確にして取り組んでいきます。</p> <p>誰もが活躍できる地域活動の場づくりとして、地域貢献推進部の事業である「ふれあいステーションほっと」の運営サポートや、地域の方々を対象とした「みんなde食堂」、「みんなde介護」、「みんなdeスポーツ」、「みんなde訓練」などの全世代に向けた多くの活動を通して地域のしあわせづくりに積極的に取り組んでいきます。</p> <p>(3)災害に強い法人づくり</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応の経験を検証し、今後も起こりえる感染症のリスクに、経験から得たスキルや知識を今後の対策に生かし、早期に事業が再開できるための体制を整えます。</p> <p>また、安心して暮らし続けられる安全で衛生的かつ快適な利用者の生活環境・利用環境の整備に取り組みます。設置から長期間が経過した、とみがおか、共栄の誘導灯の取替をおこないます。また「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」により未実施事業所のLED化を図ります。地域貢献推進部と施設危機管理部の連携も強化し、地域の災害時の関係機関との協力体制づくりに取り組みます。また、町内会・自治会の防災訓練への参加や消防団など防災活動での関係も構築し、地域のお祭りや町内会活動にも積極的に参加し、普段から顔が見え助け合える関係づくりに取り組みます。</p> <p>(4)魅力あふれる法人づくり</p> <p>①楽しい職場づくり</p> <p>②人材の確保と定着に向けた取組の強化</p> <p>③地域とのネットワーク構築／社会とのつながり</p> <p>④情報の積極的な活用／伝える工夫</p> <p>(5)健全な財務基盤の確立</p> <p>①事業所ごとの稼働率、予算管理(事業活動収入・支出の管理)の経営分析を法人共有のスプレッドシート(全事業所が10日毎に実績報告)を活用し、目標管理を徹底していきます。</p> <p>②サービス活動収益 対2021年比115%以上を目指します。</p> <p>③昨年度から取り組んでいる法人サポーター(応援団)の寄付金募集に引き続き取り組みます。</p> <p>④会計監査人の配置による会計に関する体制の整備に取り組みます。</p>	<p>基本計画通り取り組みました。</p> <p>基本計画通り取り組みました。</p> <p>①計画通り実施しました。</p> <p>②114.8%とわずかに下回った。2021年2,651,770千円、2025年3,043,950千円</p> <p>③令和5年度に引き続き取り組み、寄附額は約7,500千円でした。</p> <p>④11月に期中監査を実施しました。</p>

## ◇職員について

### 年齢

	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	平均年齢
障がい福祉事業	88	87	71	53	27	18	41.31
介護保険事業	14	19	18	18	19	3	46.47
その他	2	12	12	9	14	0	50.12
法人全体	104	118	101	80	60	21	43.17

※令和7年3月31日現在。パート職員含む。

### 男女比

	男性	女性	合計
障がい福祉事業	163	181	344
介護保険事業	31	60	91
その他	27	22	49
法人全体	221	263	484

### 障がい者の雇用率

2.00%

※令和7年3月31日現在。パート職員含む。法人全体には法人本部職員を含む。

### 平均賃金

	北ひろしま福祉会平均	介護職員（医療、福祉施設等）北海道平均
正規職員平均月収	289,866円／月	251,200円／月
正規職員平均年収	4,263,778円／年	4,132,000円／年

※法人平均は係長以下の正職員・一般嘱託の平均。北海道平均は令和6年度賃金構造基本統計調査を参考

### 平均勤続年数・採用者・離職者

	平均勤続年数	年間採用者数	年間離職者数	離職率
障がい福祉事業	9.5	41	27	11.5%
介護保険事業	6.9	12	5	7.2%
法人全体	9	55	32	8.2%

※令和7年3月31日現在（パート職員除く）

### 福祉系資格保有人数

	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士
障がい福祉事業	108	29	8	34
介護保険事業	55	7	2	0
法人全体	163	36	10	34

※令和7年3月31日現在

### 有給休暇・リフレッシュ休暇の取得状況

	付与人数	有休付与総数	有休取得日数	1人当平均取得数	有休取得率	リフレッシュ 休暇取得率
障がい福祉事業	350	5,558	4,745	13.6	85.0%	100%
介護保険事業	95	1,481	1,239	13	84.0%	100%
法人全体	445	7,039	5,989	13.4	85.0%	100%

### 役職者の状況

	主任	係長	課長	部長	合計	構成比
男性	39	25	11	11	86	71%
女性	25	5	4	1	35	29%
全体	64	30	15	12	121	100%

※令和7年3月31日現在

### 労災件数

法人全体	25件
------	-----

### 苦情件数

障がい福祉事業	2件
介護保険事業	2件

### ◇利用者について

#### 定員・稼働率

定員	各事業報告書記載（参照）
平均稼働率	

#### 看取り援助件数

事業所	人数
東部緑の苑	29

※令和6年4月～令和7年3月

#### 入所施設の待機者数

事業所	待機者数
とみがおか	47人
共栄	30人
東部緑の苑	34人

※令和7年3月31日現在

#### 就労事業平均工賃

事業所	平均工賃	令和5年度
就労センタージュョブ	26,052円	25,503円
北広島セルプ	20,698円	20,535円

#### 行政監査・実地指導の結果

施設名	実施期日	種別	結果
ケアプランセンター	令和6年10月11日	市)実地指導	指摘事項無し
グリーンパーク北ひろ	令和7年1月16日	市・道)実地指導	指摘事項無し
ヴェール	令和7年1月22日	市)実地指導	指摘事項無し
法人本部	令和7年2月12日	市)実地指導	指摘事項無し
とみがおか	令和7年2月21日	道)実地指導	指摘事項無し
共栄	令和7年2月21日	道)実地指導	指摘事項無し

◇その他

インシデント及び事故の発生状況

	とみがおか	共栄	就労センタージョブ	北広島デイセンター	北広島セルプ	グリーンパーク北ひろ	北広島コラボ	フィットマン
インシデント	8	1	1	29	5	9	8	0
事故	3	10	1	4	2	3	1	0

	つなぐ	めーでる	東部緑の苑	東部緑の苑短期入所	ヴェール	ケアセンター東部緑の苑	看護ステーション	施設危機管理部
インシデント	2	1	123	21	15	0	5	3
事故	0	0	41	6	1	0	3	0

	機能訓練センター	利用相談センター	法人合計
インシデント	0	1	232
事故	0	0	75

※気づきメモ=ヒヤリハット、介護事業では全てインシデントとして対応

身体拘束の状況

							法人合計
身体拘束							0
虐待							0

車両事故の発生状況

	令和5年度	令和6年度
過失あり	29件	13件
過失なし	6件	2件
合計	35件	15件

	とみがおか	共栄	就労センタージョブ	北広島デイセンター	北広島セルプ	北広島コラボ	グリーンパーク北ひろ	めーでる
過失あり	0	2	1	2	1	3	2	0
過失なし	0	0	1	0	0	0	0	0
合計	0	2	2	2	1	3	2	0

	フィットマン	つなぐ	東部緑の苑	ヴェール	ケアセンター東部緑の苑	法人本部		法人合計
過失あり	0	0	1	1	0	0		13
過失なし	0	0	0	0	1	0		2
合計	0	0	1	1	1	0	0	15

※車輛確認時に発見した傷やへこみも含まれる

車両保有状況

	とみがおか	共栄	就労センタージョブ	北広島デイセンター	北広島セルブ	北広島コラボ	グリーンパーク北ひろ	めーでる
自己所有	0	0	0	1	5	0	0	0
リース	5	7	10	9	6	9	9	3
合計	5	7	10	10	11	9	9	3

	フィットマン	つなぐ	東部緑の苑	ヴェール	ケアセンター-東部緑の苑	法人本部		法人合計
自己所有	0	0	1	0	0	5		12
リース	2	3	3	4	3	3		76
合計	2	3	4	4	3	8	0	88



# 令和6年度事業報告

とみがおか



【令和6年度を終了して（総括）】

- ・施設入所、生活介護について稼働率は安定していた。
- ・重度加算は利用者82名全員となり、加算算定もその日の最大値を算定できるようにした。
- ・8月に新型コロナウイルスでほぼ全利用者の罹患、3月インフルエンザのため、一部パートの利用者が罹患した。
- ・事業計画に関しては概ね予定通りに運営出来ていた。
- ・個別でご家族の面談を実施し、今後の家族の意向や看取り援助に関する説明を行っている。
- ・施設外就労（農園作業）実施。
- ・サービス管理責任者研修参加者～1名
- ・11月にオンブズマンを受け入れ、利用者、職員への聞き取りをしている。
- ・2月に石狩振興局の実地指導があり、適正な運営との評価をもらっている。
- ・Fスタッフを6名受け入れ、業務面はもとより、日本語の習得、生活面でのサポートを行った。

【令和6年度稼働状況】

※注：            は入力しないでください。

1. とみがおか 施設入所支援

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	80	30	2,400	2,424	101.0%	在籍82名
5	80	31	2,480	2,510	101.2%	在籍82名
6	80	30	2,400	2,409	100.4%	在籍82名
7	80	31	2,480	2,501	100.8%	在籍82名
8	80	31	2,480	2,503	100.9%	在籍82名
9	80	30	2,400	2,455	102.3%	在籍82名
10	80	31	2,480	2,526	101.9%	在籍82名
11	80	30	2,400	2,446	101.9%	在籍82名
12	80	31	2,480	2,513	101.3%	在籍82名
1	80	31	2,480	2,488	100.3%	在籍82名
2	80	28	2,240	2,288	102.1%	在籍82名
3	80	31	2,480	2,505	101.0%	在籍82名
合計			29,200	29,568	101.3%	

※令和5年度 定員80名 在籍82名 稼働率 99.4%

2. とみがおか 生活介護

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	80	22	1,760	1,761	100.1%	在籍81名
5	80	23	1,840	1,847	100.4%	在籍81名
6	80	22	1,760	1,738	98.8%	在籍81名
7	80	23	1,840	1,832	99.6%	在籍81名
8	80	23	1,840	1,828	99.3%	在籍81名
9	80	22	1,760	1,777	101.0%	在籍81名
10	80	23	1,840	1,850	100.5%	在籍81名
11	80	22	1,760	1,769	100.5%	在籍81名
12	80	23	1,840	1,850	100.5%	在籍81名
1	80	23	1,840	1,847	100.4%	在籍81名
2	80	20	1,600	1,617	101.1%	在籍81名
3	80	23	1,840	1,831	99.5%	在籍81名
合計			21,520	21,547	100.1%	

※令和5年度 定員80名 在籍81名 稼働率 99.5%

2. とみがおか 短期入所

月	定員	稼働日数	月間総定員 (人)	延利用者数 (人)	稼働率 (%)	備考
4	4	30	120	50	41.7%	
5	4	31	124	46	37.1%	
6	4	30	120	51	42.5%	
7	4	31	124	53	42.7%	
8	4	31	124	41	33.1%	
9	4	30	120	53	44.2%	
10	4	31	124	45	36.3%	
11	4	30	120	42	35.0%	
12	4	31	124	40	32.3%	
1	4	31	124	21	16.9%	
2	4	28	112	40	35.7%	
3	4	31	124	39	31.5%	
合計			1,460	521	35.7%	

※令和5年度 定員4名 稼働率 59.2%

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

令和6年度事業活動収支差額予算額	139,888千円
令和6年度事業活動収支差額	178,316千円
令和6年度事業活動収支差額予算差引額	38,428千円
<p>・ 予算上の稼働率確保～施設入所・生活介護の稼働、重度加算算定については、ご家族には、帰省時間や帰省日数の協力をしてもらい安定した算定がとれていた。</p> <p>・ 超過勤務時間の削減～業務整理をして、業務時間内での記載時間の確保や記録の簡略化により、働き方の改善を図ることで超過勤務の削減に努めた。</p>	

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
権利擁護	PDCAに基づいた支援、実践 実践集作成 資源の活用	<p>・ 権利擁護の観点からの実践集を作成 根拠を見つける意思決定支援 ～これまでの思い込みや先入観を変え、個々に合わせた取り組みを検診、医療行為の際に実践し、結果につながっている。</p> <p>・ 選挙に向けた準備 ～投票場と同様の環境を設置し、過去の経験を振り返ることで、安心感をもって選挙に行っている。</p>

利用者の人生のサポート	地域移行支援 意思形成支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の意思によるグループホーム体験 ～関係者会議（居住系事業所、生活介護事業所、利用相談センター）</li> <li>～家族支援（自宅訪問、家族面談、後見制度の利用の支援）</li> <li>～利用者の意思確認</li> <li>・思いの育みを持ち、行動に移せるよう支援</li> <li>～uruoi計画参加</li> </ul>
ライフスタイルの追求	生活環境改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレのにおい対策などの居住環境の改善</li> <li>・特殊浴槽やリフトなど福祉機器の導入で利用者の安全や職員の支援環境を整えている。</li> </ul>
余暇の充実	外出支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全利用者の外出、旅行の実施</li> <li>・意思決定に基づく利用者のしたいこと、行きたいことの支援の実施</li> </ul>
社会参加を目的とした生活介護プログラム	畑作業 公園管理 施設外就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の成果を通じた社会との交流</li> <li>・農福連携（農園からの委託業務）</li> </ul>
看取り援助	家族交流会 看取り説明会 研修会開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族の意向確認を書面にて実施</li> <li>・全職員の看取り勉強会の実施</li> <li>・看取りの同意書を3名交わしている</li> </ul>
栄養ケア	ICFを用いた支援 摂食嚥下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種での会議</li> <li>・意思決定のある食事の選択</li> <li>・体重の管理等で適正な食事摂取</li> </ul>
食事支援	豊かな食事にむけて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な食事支援の確認 (介護技術検定、勉強会)</li> <li>・嚥下、窒息時の対応などの勉強会の実施</li> </ul>
医療との連携	医療ケアの構築	配置医を置き、健康管理を強化
チーム形成	しまケアの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション技法の発信</li> <li>・心理的安全性の発信</li> </ul>
健康管理	排泄ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄ケア委員会の会議参加</li> <li>・POOマスターの実践</li> </ul>

切れ目のない 支援体制づくり	短期入所、日中一時支援	・見学者を積極的に受け入れ、新規利用者の 獲得や地域ニーズの把握をする
-------------------	-------------	--

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域との連携	インターンシップ受け入れ	・インターンシップの募集
行政との連携	市役所との情報交換	・選挙にむけての情報交換 ・公園管理の共有
地域資源の活用	出張販売、理容等の調整	・ミューテ理容、理容のディスカウント

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
防災	BCM計画に基づいた運営	・備蓄の確認、災害用品の確認 ・非常食のあり方を検討

## 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員育成	事業所内研修	6月～機能訓練研修 7月～権利擁護研修 11月～感染症研修 2月～排泄ケア研修 3月～意思決定支援研修
衛生管理	OJTの実施	7月～人事考課面談 8月～人事考課面談 9月～2年目職員面談 12月～人事考課面談 1月～人事考課面談 随時～職員面談 ※事業所内組織（衛生委員会）にて情報共有、協議のもと開催 ・Fスタッフのフォローや面談を通して新しい価値観や優しい雰囲気共有できるようになった。
働き方検討	業務整理	超過勤務時間の削減

## 5. その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
支援体制構築	強度行動障がい従事者養成研修	・現在の修了者～35名
よろこびの追求	実践集作成、研修会開催	・職員の実践の可視化 ・職員同士の支援の可視化

# 令和6年度事業報告

共栄



【令和6年度を終了して（総括）】

①看護ステーションとの連携においては、【看取り介護の同意を交わす上での連携】  
 【感染症対策向上加算(新しい加算の算定)】 【医ケアの必要な方の継続利用が出来る体制構築】 成果が挙げられた。

②施設整備 手すり改修(7月)/浴室改修(8月)/眠リスクの導入(12月)(Wi-Fi環境導入/システム導入/マット導入)

③介護技術の底上げの取り組みとして、ノーリフトケアコーディネーターBASIC 年間目標通り2名合格。  
 リフトリーダー検定 1名合格。介護福祉士の喀痰吸引・経管栄養資格の取得 1名合格

④地域移行の取り組みは男性利用者1名継続しているが、地域移行に至るには本人のアセスメントに見合った環境を検討が必要。

⑤看取り援助に関して、看取り援助の同意について年間で3名の同意を交わした。個別支援計画の面談を通し、夏季40組、冬季30組の御家族が来訪され、関係性構築に繋がった。

⑥Fスタッフ育成状況  
 ・上期：F勤務(共栄で担ってもらいたい勤務)の独り立ち、  
 ・下期：令和7年3月迄にリフト検定合格、自分達主体の企画の成功、通院/外出同行、D2～Fの幅で働けるようにチャレンジしよう!!  
 以上の目標を掲げて、独自の育成ラダーを作成し取り組んだ。結果的に、概ね身につけてもらいたい項目を達成し、令和7年度からの業務の幅を広げられている。費用対効果に関してもFスタッフが入職する事により、現場の支援超勤の削減に繋がっている。

⑦年2回の勉強会の実施を達成した。

【令和6年度稼働状況】

※注：  は入力しないでください。

1. 施設入所支援（事業名 共栄）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	75	30	2,250	2,226	98.9%	現員数75名
5	75	31	2,325	2,260	97.2%	現員数75名
6	75	30	2,250	2,203	97.9%	現員数75名
7	75	31	2,325	2,266	97.5%	現員数75名
8	75	31	2,325	2,217	95.4%	現員数75名
9	75	30	2,250	2,202	97.9%	現員数75名
10	75	31	2,325	2,270	97.6%	現員数75名
11	75	30	2,250	2,169	96.4%	現員数75名
12	75	31	2,325	2,247	96.6%	現員数75名
1	75	31	2,325	2,256	97.0%	現員数74名(1名退所)
2	75	29	2,175	2,059	94.7%	現員数75名(1名入居)
3	75	31	2,325	2,275	97.8%	現員数75名
合計			27,450	26,650	97.1%	

※令和5年度 定員77名 在籍79名～75名 稼働率 99.4%

2. 生活介護（事業名 共栄）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	75	22	1,650	1,600	97.0%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
5	75	23	1,725	1,635	94.8%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
6	75	22	1,650	1,577	95.6%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
7	75	23	1,725	1,638	95.0%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
8	75	23	1,725	1,603	92.9%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
9	75	22	1,650	1,576	95.5%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
10	75	23	1,725	1,638	95.0%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
11	75	22	1,650	1,540	93.3%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
12	75	23	1,725	1,614	93.6%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
1	74	23	1,702	1,638	96.2%	セルフ利用1名、DC利用2名、外部からの共栄利用1名
2	75	21	1,575	1,430	90.8%	セルフ利用1名、DC利用3名、外部からの共栄利用1名
3	75	23	1,725	1,631	94.6%	セルフ利用1名、DC利用3名、外部からの共栄利用1名
合計			20,227	19,120	94.5%	

※令和5年度 定員77名 在籍77名(3名法人内別事業所利用 1名外部から共栄利用) 稼働率 97.5%

3. 短期入所支援（事業名 共栄）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	4	30	120	52	43.3%	
5	4	31	124	56	45.2%	
6	4	30	120	59	49.2%	
7	4	31	124	56	45.2%	
8	4	31	124	57	46.0%	
9	4	30	120	53	44.2%	
10	4	31	124	53	42.7%	
11	4	30	120	52	43.3%	
12	4	31	124	58	46.8%	
1	4	31	124	52	41.9%	
2	4	28	112	50	44.6%	
3	4	31	124	44	35.5%	
上半期合計			1,460	642	44.0%	

※令和5年度 定員4名 稼働率 44.5%

【令和6年度予算見込】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

令和6年度事業活動収支差額予算額	72,349千円
令和6年度事業活動収支差額	78,974千円
令和6年度事業活動収支差額予算差引額	6,575千円
①令和6年度平均稼働率 施設入所 97.1%(-1.4) 生活介護 94.5%(-4)	
②重度加算算定平均 55~56名 算定利用者 4月 55名→3月 60名(+5名)	
③短期入所稼働収入 年間売り上げ目標 3,960千円→5,124千円(+1,164千円)	
④入院加療による影響 約4,509千円	
⑤退所者 1名(1月1名)※常時医療ケアが必要となった利用者様が退所され、療養型病院へ転院。	
⑥職員退職者 総合職 男性2名	

【令和5年度事業計画4月～令和6年3月の進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>権利擁護 ①虐待防止会議 虐待防止、権利侵害を予防する為、年間を通して、共栄全体の気付きや課題を踏まえて検討した取り組みを実践/モニタリング/評価を繰り返し利用者様の変化、職員の変化を確認する。</p>	<p>権利擁護プロジェクト(内部委員会)を中心に事業所全体、職員個々人の取り組みを考案。 ①虐待防止について ○虐待/権利侵害を防止する為、①丁寧な支援の具体的な手法の実践、②報告しやすい風土の定着についての具体的手技を取り組みへ反映し、PDCAサイクルでモニタリング修正を行い、令和7年3月に最終評価を行う。 ○奇数月に虐待防止会議を運営職会議(係長以上)、各パート会議で年計6回実施する。 ○共栄で起こり得るグレーな支援の抽出を行い、自分達の現状の自己覚知を行い、取り組み当初から年度末の状態変化を考察する。</p>	<p>【人権侵害ゼロへの誓い/セルフチェック】 権利擁護に関する内容を毎月目標を設定し、意識的に取り組み、毎日振り返りを行いセルフチェックを実施しました。 ・毎月の「人権侵害ゼロへの誓い」の各職員の振り返りの内容をまとめた物をサイボウズで、職員間に周知している。また目標によっては、振り返りを記載する項目に「素敵や見本にした」と感じた職員とその理由」を記載し、併せて周知する事で牽制と自己覚知をする活動となった。 【会議研修関係】 会議形態としては、①運営職会議、②共栄権利擁護委員会会議、③各パート会議(4パート分)があり、毎月取り組む内容に拘りながら実践した。 ・職員の研修形式 4回 ・利用者エンパワメントを高める勉強会 1回 ・権利擁護に関わるケース検討(PDCA11月～1月) ・外部研修のフィードバック ・年度の振り返りの実践。 基本的には奇数月に権利擁護に対する知識向上を図る為の研修、実際の権利擁護における困難ケース、ユニットの課題を抽出し、実践→振り返りをPDCAで実践し、改善に繋がる、意思決定が深まる等の効果が得られた。</p>

<p>②身体拘束適正化会議 理由の無い身体拘束の防止、福祉器具使用による身体拘束適正化を図る為、年間を通して、共栄全体の気付きや課題を踏まえて、検討した取り組みを実践/モニタリング/評価を繰り返し利用者様の変化、職員の変化を確認する。</p>	<p>②身体拘束適正化について ○偶数月に身体拘束適正化会議を運営職会議(係長以上)、各パート会議で年計6回実施する。 ○福祉用具使用を推進していく反面、権利擁護/身体拘束の観点を入れた協議検討を行い、協議された内容を法人権利擁護委員会及び身体拘束適正化委員会での第三者視点での気付きや助言を頂きながら、身体拘束適正化を図る。 ○福祉用具使用の状況を定期的なモニタリングを通してその是非を十分に検討のうえ実施する。また、利用者様や家族への丁寧な説明と同意を得ながら進める。 ○共栄で身体拘束の起こり得る状態の抽出を行い、自分達の現状の自己覚知を行い、取り組み当初から年度末の状態変化を考察する。</p>	<p>【会議研修関係】 令和6年度 身体拘束フローチャートに沿って行ったホールディング事象1件あり。 ※精神的な不調もあり、入院し治療を行った。 ・偶数月に会議を実施。 ・7月勉強会・説明『身体拘束のフローチャートの確認、身体拘束を伴う福祉用具の使用計画書及び同意書等について』 ・9月、3月に、身体拘束を伴う福祉用具の使用計画書及び同意書については、モニタリングを実践しました。 ・12月 眠りスキャンを26台導入し、離床機能の部分で権利擁護の観点から、保護者説明し了承を得ながら丁寧に進めました。 令和6年度新たに福祉用具の使用を開始された方 女性 1名 ※計画書同意書作成済み 男性 2名 ※計画書同意書作成済み</p>
<p>生活介護 ①高齢期活動プログラム 身体機能の維持/向上、趣味嗜好から生まれる創作意欲・活動意欲向上と作品展示を通じた社会参加を目指す。</p>	<p>①高齢期活動プログラム ○年齢や身体状況に合わせた活動プログラムの実施(体操、ダンス、カラオケ、アダプトテッドスポーツ、入浴・リラクゼーション等) ○身体機能維持及び介護予防を目的としたプログラムの実施(機能訓練、ウォーキング、マッサージ、スヌーズレン等) ○趣味や特技を活かせる創作プログラムの実施、内部ギャラリーでの作品掲示、外部の作品展への参加(裁縫、絵画、書道等、紙類裁断作業)</p>	<p>年齢や身体状況に合わせた活動プログラムの提供を目指し、以下の活動を展開しました。 【ウゴッケル】 ・令和5年度に続き、活動の中のイベントとして、2回目のアダスポ祭りも盛況に終わり、アダプトテッドスポーツに親しむ機会を増やすことができた。ポッチャのコートやボールも準備して、活動時間にアダスポを展開しやすくし、アダスポの普及に努める事が出来た。地域行事にも参加し、社会参加にも繋がりました。 【スヌーズレン】 ・令和5年度よりも活用率が上がり、リラックス出来る空間を好む利用者が増えました。 【カラオケ】 ・参加率が一番高い活動となった。個々が楽しみながら参加し、季節行事に合わせて、カラオケを披露する方も練習に励む様子が伺えました。 【ものづくり】 ・年間で、キャップアートの作品を2点完成させることができた。職員室前の展示ボードが来客者から好評だった。利用者の得手不得手に合わせて、材料の用意等の活動の事前準備が良かった。 利用者様が参加しやすいように作業を細分化するなど工夫ができました。</p>

<p>②生産活動プログラム</p> <p>共栄内の自分以外の人の役に立つ仕事を活動にする事を切っ掛けに、生産的な活動に繋げ、利用者の活動参加意欲の向上、働く事への喜びが就労に繋がる可能性を見出す支援を目指す。</p>	<p>②生産活動プログラム</p> <p>○日用品運搬作業(トドケル)</p> <p>○生活用品ピッキング作業(共栄利用者が定期購入している、とどく商品の仕分け作業)</p> <p>○施設内売店での商品管理/販売(クマゲラ売店)</p> <p>○1回/1ヶ月生活介護担当者による会議を実施。現在の活動の実施状況についてのモニタリング、利用者のニーズを踏まえた活動プログラムの検討を行う。</p>	<p>年齢問わず、働く事へのやりがいを感じられる活動を目指し、展開しました。</p> <p><b>【トドック活動】</b></p> <p>・作業を「仕事」として捉えて意欲的に活動に参加されていました。作業環境の改善ができた事で、作業がし易くなり参加率もあがった。午前中に商品が入荷した際の手伝いも活動として確立された。参加率の高い利用者を中心に、作業慰安お茶会を楽しんでいた。</p> <p><b>【トドケル活動(日用品運搬)】</b></p> <p>・作業内容が簡単で、手軽に仕事要素のある渴望が出来る事がメリットとして大きい活動となりました。</p> <p>※クマゲラ売店は、駄菓子の仕入れを撤退した為、活動としては終了する事とした。</p> <p>定期で会議を開催し、各活動の進捗を共有しながら進める事が出来た。次年度は、+気プロジェクトの下請け作業も検討していく事としました。</p>
<p>③買い物支援プログラム</p>	<p>○月に1回~2回、近所の喫茶店にコーヒーを飲みに行ったり、自分の必要な物をお店に行く等、利用者様のニーズに合わせて実践する買い物を目的とした活動を行う。</p>	<p><b>【にじのかかるところの利用】</b></p> <p>令和5年度に続き、近隣の地域資源として手軽に活用出来、カフェで購入した物を楽しむ時間が確率されました。</p> <p><b>【ニーズに合わせた買い物の実践】</b></p> <p>年間を通して、買い物を一つの活動として展開し、一人一人のニーズを一つでも多く答えられるように実践出来た。</p>

<p>地域交流</p> <p>感染状況に配慮しながら、地域住民との交流の機会を設け、相互理解を深める。</p>	<p>○利用者の暮らしに潤いが持てるように、地域資源を利用し感染症に留意しながら出来る内容を検討する(パート単位での外出/行事企画)。</p> <p>○地域福祉の推進として、北広島市社会福祉協議会との連携を基に交通安全運動や赤い羽根共同募金ボランティア、リングプル寄贈、除雪ボランティア等の活動を行う。</p> <p>○ボールパークの近隣施設として、近隣住民としての交流活動/障害への理解促進を形にする活動を検討する。</p>	<p><b>【7月 利用者参加型の企画に積極参加】</b> 北海道知的障害福祉協会主催の【どさんこ楽フェス】に現地参加+WEB参加を実践しました。</p> <p><b>【7月 地域推進活動】</b> 江別明友荘の職員が共栄の現場実習を行いました。2名 北の酒まつり開催 職員派遣/ボランティア活動で職員を派遣し、北広島市のイベントへ参加。</p> <p><b>【9月 利用者の活躍の機会の設定】</b> 北海道知的障害福祉協会主催のみんなアートステージ部門【わっしょい☆共栄S】として出場し、2年連続の審査員特別賞を受賞した。</p> <p><b>【10月 地域推進活動】</b> 東広島市酒まつり派遣参加</p> <p><b>【11月 地域推進活動】</b> 札幌スポーツハウスを招いて、入所施設での移動販売を企画開催した。</p> <p><b>【1月 利用者の社会参加】</b> Tボール大会北の甲子園での利用者応援 ポッチャ大会へ出場(1月～2月) 地域資源を活用した活動や社会参加の機会を積極的に作りながら、交流を含めて実践出来ました。</p>
<p>行事、食事企画</p> <p>①行事を通して日本の伝統や文化に触れる機会を提供する。</p> <p>②行事企画により刺激のある1日を過ごせるようにする。</p> <p>③季節の食材を使用した食事を提供し、より豊かな生活になる事を目指す。</p>	<p>○1回/1ヶ月行事企画担当者による会議を行い、年間予定に沿って企画内容を協議する。</p>	<p>以下の内容で行事を企画し実践しました。</p> <p>6月1日(土) 長寿を祝う会 1回目 8月27日(火) 共栄夏祭り・花火大会 10月19日(土) 長寿を祝う会 2回目 10月27日(日) ハロウィン企画 12月24日(火) 共栄クリスマス会 1月2日(水) 正月企画(餅つき) 2月16日(日) 寿司企画 3月21日(土) Fスタッフ主体企画 (フィリピンのゲーム企画)</p> <p>スケジュールに沿って実行出来ました。5月にFスタッフが入職し、それからの企画の中でダンスや歌を歌って利用者様に喜んで頂く機会が多くありました。また、10月の長寿を祝う会では、書道パフォーマンスも取り入れながら職員も活躍できる機会となりました。</p>

<p>排泄ケア</p> <p>①一人一人の利用者様に合わせた排泄ケアの実践を目指す。</p> <p>②排泄ケアに関する知識の普及とトイレ環境などの整備を検討する。</p>	<p>○利用者様の排泄ケアケースの実施</p> <p>おまかせうんチーム、医療との連携により個々のアセスメントを根拠に、蓄尿に伴う疾病予防/防止に繋げる為の排尿状況のモニタリング、利用者様の快便に繋げる為の、下剤使用量の調整とモニタリングを実施し、適切な排泄ケアを実践する。</p> <p>○排泄に関わる用具を導入する※都度</p> <p>排尿コンチネンタルケアにおける、アセスメントシートの活用。</p> <p>ポータブルエコーの活用。</p> <p>○排泄ケア委員会主催の勉強会実施</p> <p>排泄に関する研修会へ参加し、職員へのフィードバックをする機会を設ける。</p> <p>○トイレ環境などの見直し/設備改善</p> <p>A、Bパートのトイレ環境の改修を検討する。</p>	<p><b>【利用者様の排泄ケアケースの実施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートで排泄ケアの見直しの必要なケースを確認し、支援、看護、栄養の担当者を招集した会議を実施し、服薬、食事、運動等の調整を行いながら改善を図りました。</li> </ul> <p><b>【排泄に関わる用具を導入し運用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータブルエコーの活用は、適宜活用しながら泌尿器疾患のケースに対し、早期に医療へ繋げる役割を果たしていました。</li> </ul> <p><b>【排泄ケア委員会主催の勉強会実施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うんチーム所属の職員が地域向け勉強会を開催し講師として実践しました。</li> </ul> <p><b>【トイレ環境の見直し/設備改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降へ持ち越しとしました。</li> </ul>
---	--	--

<p>ノーリフトケア、機能訓練</p> <p>①利用者様の要望・状況に合わせた支援の見直しを行う。</p> <p>②利用者様・職員双方が心地良いと感じられる環境作りを行う。</p>	<p>○ノーリフトケア会議の実施※1回/月</p> <p>○年間1名～2名ノーリフトケアコーディネーターBASIC資格取得を目指す。</p> <p>○全職員の法人のリフト検定取得する為の計画立案。</p> <p>○機能訓練センター/内部の機能訓練専門委員と連携して、利用者の状態変化に合わせたアセスメント、評価を実施し適切な福祉機器の導入を行う。※電動ベッド、車椅子等</p> <p>○眠りスキャンの導入 令和6年度以降の導入を目指す。※必要に応じ予算化検討。</p> <p>○福祉器具点検(1回/月) 福祉器具使用者の担当者を中心に、福祉器具の状態把握を行う。</p> <p>○支援の質を高める勉強会 リフト技術/介護技術/救命講習を企画。</p> <p>○美味しく且つ安全なとろみ剤の活用 個人々の嚥下状況に合わせ、食事形態/とろみ剤の使用内容をモニタリング。必要に応じ、医療機関での嚥下造影検査(VF)を行い正確に状態変化を確認する。</p> <p>○スヌーズレン器具の整備 生活介護担当と連携し、スヌーズレン活動の環境整備を行う。</p> <p>○ノーリフトケアの普及活動 ノーリフトケア掲示板の運用を行う。</p> <p>他法人の介護職員への実践報告/研修企画を継続企画する。</p>	<p><b>【ノーリフトケア会議の実施】</b></p> <p>・月に1度開催出来ました。利用者身体早見表を作成し、毎月の会議で男性・女性利用者様の情報共有が出来ました。情報共有を図った上で、機能訓練センターを通して身体・食事評価や安楽な姿勢に向けたベッド角度調整の相談、移乗用リフトのスリングシートのフィッティング評価、福祉器具のデモ依頼、股関節・肩回りの拘縮と両足の浮腫みが見られる利用者様に対するマッサージアプローチなどに繋がられました。</p> <p><b>【年間1名～2名ノーリフトケアコーディネーターBASIC資格取得】</b></p> <p>・BASIC資格 2名資格取得 ・リフトリーダー検定 1名資格取得</p> <p><b>【全職員の法人のリフト検定取得】</b></p> <p>・リフト検定に向けた練習を計画・リフト操作手順表を作成しフォローしました。</p> <p>リフト検定合格者 13名</p> <p><b>【身体機能の変化に合わせた介護技術と福祉用具を併用した技術の展開】</b></p> <p>・テープ式オムツの装着方法を再確認しました。</p> <p>・移乗用リフトの使用方法について、各パートミーティング内で再確認しました。</p> <p>・福祉用具を併用した技術展開に関しては、スライディングシートなどを使用したベッド上での移動や、車椅子上での座り直し方法の技術確認を行いました。</p> <p><b>【眠りスキャンの導入】</b></p> <p>・12月 眠りスキャン26台導入 眠りの質を担保する事、離床機能を使ったICT支援の実践を継続的に行えるようにモニタリングを実施しました。</p> <p><b>【福祉器具点検(1回/月)】</b></p> <p>・毎月の福祉器具点検はプロジェクトメンバー間で協力し、滞りなく実施しました。不具合があった際には、機能訓練センターと連携し修理等を行い安全に使用できていました。</p> <p><b>【利用者様が美味しく安全と思える食事の追求】</b></p> <p>・8月19日、20日、21日の3日間で職員向けにとろみ体験会を実施し、体験しながら学びを深めました。嚥下低下予防の観点で、嚥下体操を収録し利用者が楽しく予防できるように作成しました。</p> <p><b>【施設改修】</b></p> <p>・男女浴室のスペース確保を目的に改修を実施。</p> <p>・多目的トイレの手すり改修。</p>
--	---	--

<p>地域移行 社会資源の見学や体験を通して、個々人のエンパワメントに合わせて自立した暮らしを実現していく事や、自身が暮らしていく上で受けられるサポートの内容に興味のある利用者と一緒に、グループホームへの移行を目指す。</p>	<p>令和6年度以降の地域移行を1名～2名計画する。 ○月に1回、地域移行担当会議を行い、支援の方向性、進捗状況の確認を行う。 ※必要に応じて、拡大ケース会議を検討する。 ○入所利用者のニーズ調査の根拠として、法人内のグループホームの見学、行事参加、日常の暮らしの体験を実施する。 ※対象者となる方をその中からアセスメントし、意思確認を行う。 &lt;年間スケジュール&gt; 4月、5月 グループホーム体験会 6月 地域移行候補者選定 7月 地域移行に向けたプログラム策定 12月 家族/保護者を招いた最終説明と同意 1月～2月 最終準備</p>	<p>【月に1回、地域移行担当会議を行い、支援の方向性、進捗状況の確認を行う】 ・運営職会議の際に、地域移行担当係長より進捗状況の共有を行い、必要な調整を行いました。 【入所利用者のニーズ調査の根拠として、法人内のグループホームの見学】 Aパート 男性利用者1名 8月GH見学実施 10月GHかすみ・くるみにて食事体験実施。 11月GHかすみ・くるみにて宿泊体験実施。 12月GHかすみ・くるみにて宿泊体験継続（中止）。 1月GHかすみ・くるみにて宿泊体験継続 2月GHかすみ・くるみにて宿泊体験継続 3月GHかすみ・くるみにて宿泊体験継続 【家族関係者との意思確認】 ・成年後見制度利用のケースで、後見人へ本人の意思決定に至るまでの経過を報告し、本人の希望とニーズを共有しました。GHの空き状況と本人のニーズがマッチング出来ておらず、次年度以降も継続して支援していく事となりました。</p>
---	--	--

<p>高齢期ケア</p> <p>①利用者様が安心・安全に生活できる様、支援に必要な技術と知識の習得を目指していく。</p> <p>②看取り援助に向けた体制作りを行う。</p> <p>③看取り援助推進室との連携を行う。</p>	<p>○高齢期ケアプロジェクト会議の開催(1回/月)及び、ケアカンファレンスの開催(対象ケースにより、1名～2名1回/月定期開催)</p> <p>3回/年間 看取り援助に関する勉強会を計画する。</p> <p>○医療ケア・介護ケアの内容を個別支援計画に反映出来るように整備する。</p> <p>○65歳以上の方(基礎疾患のある65歳未満の方も一部含む)を主として、これからの暮らしのニーズを把握し、共栄が最期の場所の選択肢の一つとなるべく、環境・サービス・ご家族との関係の整備を行いながら、年間を通して対象となりうる方のケース検討の実践を目指す。</p> <p>○長寿を祝う会として、年間で2回(5月、10月)に企画し、御家族を招いた懇親行事を計画する。</p> <p>※懇親会の機会に、看取り推進室と連携をして家族に対する勉強会の開催など、家族を巻き込んだ取り組みを検討する。</p> <p>○日常の健康管理及び看取り介護期のケアについて入所看護ステーション、配置医との連携を強化しながら実践する。</p> <p>○ご家族への看取り援助に係る説明及び意思確認(複数回)に際し職員と一緒に面談の場に参加してもらい推進室の取り組みの理解促進につなげる。</p> <p>○職員向けの看取り援助の理解に向けた意見交換会や勉強会の開催(2回/年)に当たり内容や知識等においての助言と理解促進の役割をもって参加してもらう(他事業所への訪問も検討)。</p>	<p>【高齢期ケアプロジェクト会議の開催】</p> <p>・月に1回の定例の会議開催を達成しました。</p> <p>◎勉強会</p> <p>①高齢者についての講習会⇒7月26日(金)</p> <p>・看護師の協力もあり、例年よりも質の高い勉強会を行えました。</p> <p>②看取り援助の考え方についての勉強会</p> <p>10月2日(水)、10月5日(土)、10月6日(日)、④10月11日(金)に実施しました。</p> <p>・過去の共栄の看取り援助で行ってきた事を死生観教育・看取り援助の考え方・チーム支援という形で話をして頂く事が出来ました。参加者からは、共栄が行ってきた看取り援助について前向きな意見、感想を頂く事が出来ました。</p> <p>③人生最期の時に起こりうる機能的・精神的変化への対応の勉強会</p> <p>2月7日(金)に開催しました。</p> <p>・終末期に関する内容を実施しており、看取りアンケートの中で、終末期の対応に関して、不明な点があるといった内容から、今回の勉強会を開催しました。フローチャートなどを用意していく事で、安心して支援が行える様に整備していく。</p> <p>【看取り援助の体制の整備】</p> <p>◎カンファレンスの実施</p> <p>・介護保険の制度に習い、月に1回カンファレンスを設定しました。</p> <p>男性Y様、ご家族を呼ぶ前に共栄内の意見の統一が大事という事が分かった。今後はご家族とのカンファレンス設定後、共栄内でのカンファレンスを設定していき、専門職を含めて共栄内の見解統一をしていく。</p> <p>【長寿を祝う会の実施】</p> <p>・6月1日(土)と10月19日(土)に60歳以上の長寿お祝い(還暦、米寿など)の利用者様を対象として、御家族をお呼びして長寿のお祝いを企画。行事企画とタイアップする事で御家族様をはじめ、会場全体で盛り上がるイベントとなりました。</p> <p>・長寿の会の際に御家族と懇親会を行い、看取り援助について学んで頂く事が出来ました。</p>
--	---	--

		<p><b>【看取り援助の体制の見直し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様用の意思決定ツールを作成する事が出来た。しかし、浸透が弱く、今後の活用方法を検討する必要がありました。</li> <li>・入所看護ステーションの看護師2名をメンバーとする事で、連携が強化されました。看取りの視点もあるが、医療ケアの必要な方のケースもカンファレンスとして開催し、経過を追う事が出来ました。</li> </ul> <p><b>【意向確認書（安心ノート）の更新】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度分の更新及び、まだ書いて頂いていない保護者へのアプローチをしている。個別支援計画時に面談を実施しており、回収率も向上しました。</li> </ul> <p><b>【利用者様の意向確認】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護プロジェクトと連携は行えなかったが、意向確認書を作成する事が出来ました。別件意思決定支援で居住の選択と生活介護の選択を実施しました。</li> </ul> <p><b>【入所施設合同家族勉強会など外部の勉強会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月7日(金)、14日(金)に看取り援助推進委員会主催の元、入所施設合同家族勉強会を行っている。ご家族から様々な話を聞く機会が増えてきており、今後も行っていく事が必要と思われる。</li> <li>・外部の法人からも問い合わせがあり、看取り援助推進委員会のメンバーである、原係長・片平係長を中心に対応を行って頂いている。今後は高齢期ケアプロジェクトメンバーが担える様な取り組みが必要と感じている。</li> </ul>
--	--	--

<p>栄養ケアの提供</p>	<p>○栄養ケアマネジメントによる食事面での栄養ケア計画の作成と交付（栄養ケア計画作成は3ヶ月毎。4月と10月の個別支援計画書と合わせて交付）</p> <p>○高リスク(2週間)、中リスク(1ヶ月)、低リスク(3ヶ月)毎の個々人の状況に合わせたモニタリング期間でモニタリングを実施。</p> <p>○栄養ケア計画に沿った嚥下状態等利用者の現状に合わせた食事提供の見直し、介助方法の見直しを実施する。</p> <p>○食事は施設における生活の楽しみの一つであり、利用者個々への最適な栄養ケアマネジメントを実践し、健康面、身体面を十分に考慮した献立を立て、安心、安全、健康に生活していただけるように配慮した食事提供を行う。</p>	<p>3ヶ月毎の栄養ケア計画の見直しを行いました。</p> <p><b>【高リスク利用者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下機能の低下に伴う、食形態の変更・食事の喫食状況(咽・飲み込み)</li> <li>・体重変動をモニタリングしながら、週単位/月単位で見直した。</li> </ul> <p>嚥下機能低下で入院加療 1名 肺炎を繰り返し胃瘻造設ケース 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食嚥下についての知識を高める事と食形態について考える機会を作り、ノーリフトケア部門と協力して現場職員に対して、とろみ体験会を実践しました。</li> <li>・利用者の機能低下によりとろみ剤使用を検討している方へのアプローチとして、自尊心も考慮しながらパートでのとろみ体験会を開催し、個人が目立たないような形で、食形態の変更をアセスメントしました。</li> </ul>
<p>家族満足の追求</p>	<p>○家族への“安心”の提供のため、情報開示に積極的に取り組みます。また、面談などを通じて要望を聞き取り対応する。</p> <p>○家族と一緒にもしくは、本人や家族の意向を踏まえた、私的契約サービス(移動支援)を利用しての外出や自宅帰省を、個別の要望に応じて積極的に行う。</p> <p>○支援内容の周知を図る取り組みとして、家庭を訪問する(適宜)。</p>	<p><b>【5月～7月 安心ノートの作成】</b></p> <p>将来を見越した、利用者にとっても家族にとっても安心出来るように、意向確認シートをリニューアルし、全家族へ郵送し情報収集した。</p> <p><b>【私的契約外出による実家帰省の実施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭帰省/行き帰りの移動を有償運送サービスにてサポートした(月平均 4ケース～5ケース)</li> <li>・近郊・遠方の家庭帰省のサポート実施。 旭川1件、帯広1件、当別2件、網走1件</li> </ul>
<p>後見人、医療機関との連携</p>	<p>○利用相談センターとも連携し、医療ソーシャルワーカーや後見人、ご家族との確かつ綿密な調整を実施する。また、訪問医と個別の契約により、より個々に適した医療サービスが受けられる体制を整えていく。</p>	<p><b>【病院の地域連携室/MSWとの連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院調整/退院調整 (看護ステーションとの連携) 入院加療 名</li> </ul> <p><b>【配置医との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看取り介護の同意ケース 2件</li> </ul>

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>インターン生、ボランティア、実習生の受け入れ</p> <p>○次代の担い手に繋がられるように、インターン生の日常支援の補助業務のみならず、インターン生主体の企画にも挑戦してもらおう機会を作る。</p> <p>○実習担当の役割分担を行い、受け入れを計画する。</p>	<p>○星槎道都大学との包括連携による、インターン生の活躍の機会を設ける。</p> <p>※新規学生受け入れを計画する(現状、4年生2名、3年生6名)。</p> <p>○ボランティアや実習生の受け入れを積極的に取り組み、地域の社会資源としての理解促進を図る。</p> <p>※社副実習受け入れ委員担当 保育実習受け入れ委員担当</p>	<p>【インターン生の現状】</p> <p>・3名のインターン生が最終年となり、令和7年3月で退職となりました。次年度以降の受け入れを画策していく。</p> <p>【社福実習生/保育実習生】</p> <p>・社福実習生 1名受入</p>
<p>地域の行事への参加</p>	<p>○地域での行事や町興し事業に積極的に参加し、近隣住民並びに、市内企業との繋がりを深め、将来の自助共助に繋がられる取り組みを行う。</p>	<p>【7月 北の酒祭りへの参加】</p> <p>役員及びボランティア活動を通して職員を派遣した。</p> <p>【10月 東広島酒祭りへの参加】</p> <p>北広島観光協会と協働して、北海道ブースの運営に携わりました。</p>

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>災害、リスク、感染症への対応</p>	<p>○災害及び防犯、感染症の研修を計画し、知識と予防、防災技術の習得を推進する。</p> <p>○現実的な想定の下、年2回の災害訓練を実施する。</p> <p>○備蓄食の確認、消費期限を見据えて、訓練による消費と補充を行う。</p> <p>○感染症対策を強化する上で、手洗い/うがい100%計画、職員が感染症を持ち込まない為に、職員室内の消毒/換気(3時間に1回)を実践する。</p> <p>○事業所内の気付きメモの集計(1回/月)及び四半期末の考察を行い、事業所に潜んでいるリスクの洗い出しと対策を行う。</p>	<p>【研修及び訓練の実施】</p> <p>◎感染症</p> <p>①感染症に関する総合的な学び、吐物処理訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人形を使用して心臓マッサージや背部叩打法、ハイムリック法の練習を行い、嘔吐物処理の対応方法の確認をしている。</li> <li>・嘔吐物処理講習については、新人職員とFスタッフに行っている。10月にDパートで嘔吐が流行した際に嘔吐物処理の方法に不備が見られていた為、11月のパートミーティングで再周知している。</li> <li>・11月感染症に関する注意喚起をサイボウズメールで実施。</li> </ul> <p>②標準防護具脱着(PPEの手技)訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員とFスタッフに講習をしている。</li> <li>・2月にサイボウズメールでPPEの着脱動画を通して、職員への全体周知をしている。</li> <li>・今年度は新型コロナウイルスへの罹患者は出ていない。</li> </ul> <p>◎リスク</p> <p>①気付きメモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度、インシデントレポートで「薬」に関するものが一番多かったが、服薬方法の見直しの効果か、前年度より少なく合計で4件となった。</li> <li>・今年度は「薬」に続いて多かった「怪我」に関する気づきをテーマに実施している。</li> <li>・特定の利用者様に原因不明の痣が出来る事が多く、状況を分析し、対応策を検討する為にパート主任と共有している。</li> </ul> <p>②リスクマネジメントトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月、11月に実施している。普段のリスクマネジメントに繋がるよう、実際のパート内の写真を使用している。リスクを減らし、利用者様の不利益をなくしていく為に次年度も定期的に行う必要がある。</li> </ul> <p>③BCP運用訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月29日(水)にサイボウズメールでBCP災害マニュアルとBCP感染症(流行感染症予防)について全職員へ周知している。</li> </ul>

災害時の連携	<p>○法人BCM計画に基づいたマニュアルの見直し確認を行う。事業所でBCM計画に沿った自主災害訓練の実施。</p> <p>○地域の防災訓練への参加</p> <p>○災害時の在宅障がい者の受け入れ体制の整備。</p>	<p>防災</p> <p>①年に2回の避難訓練(6月、11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月28日(金)と11月17日(水)に実施。</li> <li>・コロナ渦の訓練で消防が不参加の自主訓練を実施していた為、次年度からは消防参加型の訓練を行う。</li> </ul> <p>②炊き出し訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月4日(木)に実施。</li> <li>・通常の備蓄食を使用して訓練を実施した為、次年度からは毎年訓練用に備蓄品を購入して使用する。また、メニューがいつも同じである為、他の備蓄食も検討する。</li> </ul> <p>③雨漏り対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月28日に枯葉が排水溝に溜まり2階ベランダより、水が溜まり浸水。時期を問わず、確認が必要。</li> </ul>
--------	--	---

### 3. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
働きやすい職場環境の整備	<p>○配置基準に応じた職員配置(生活支援員)。</p> <p>○超過勤務の削減に繋がる、業務整理/簡素化可能な記録媒体の検討。</p> <p>※プロジェクト部門統合/記録媒体(ミスヘルパー)のカスタム変更に着手する。</p> <p>○目標管理面談の進め方</p> <p>ポジティブに目標設定をしながら一人一人の職員の内なる喜びに繋がられるように、共栄で働く上で、①好奇心、新しいことへ挑戦したい内容②チームで課題解決する上で大事にしている事、③自己承認と所属意識の向上に対して自身が考えている事、を聞き取りし、個々人の実践が形に出来るに出来るように進める(係長以上の考課者)。</p> <p>○入職から数年経過した職員が、安心して働くことが出来るように、OJTにより業務を遂行していく上での問題点や悩みを聞き取り、適切な助言をする。</p> <p>○新任及び異動職員に対して、本人と業務確認を進めていく為、指導担当を設けて、マンツーマンでの業務指導及び、係長職、指導職と3者での目標管理を一定期間行い、共栄の事業計画に基づき定期的な振り返りと今後の目標の再確認を実施する。</p>	<p>【職員配置について】</p> <p>配置基準 37.6</p> <p>年度末迄の退職者 総合職 2名</p> <p>【超勤削減の取り組み】</p> <p>運営職会議にて、超勤動向を共有し、勤務の工夫や役割の工夫で超過勤務へのアプローチを行った。5月末よりFスタッフが入職した事、現状に合わせて支援配置の見直しを行った事により、令和5年度から超過勤務の減少の継続に繋がりました。</p> <p>【目標管理面談/OJT】</p> <p>課長/係長(4名)で役割分担を行い、目標管理面談を実施。OJTは、新任職員・異動職員に向けたフォロー面談を実践して月単位で確認出来るように実践。Fスタッフの入職後、育成担当とラダー作成者による定期面談を行いながら、ラダーの目標に沿った業務行動の評価を行い、上期、下期で達成目標を変えながら進め、共栄が求めている業務行動が取れるように育成出来た。</p>

職員育成	<p>○法人スタンダード研修の参加調整</p> <p>○看取り援助推進室とタイアップした看取り援助の研修の実施。</p> <p>○内部勉強会の開催(ノーリフト/介護技術/救命講習/看取り援助/感染症)</p> <p>○国家資格取得に向けた支援(社福/精神/介護)。</p> <p>○ノーリフトケアコーディネーターBASIC資格取得を1名～2名計画する。</p> <p>○介護福祉士有資格者における喀痰吸引等研修(第1号・第2号)を1名～2名計画する。</p>	<p><b>【看取り援助推進室とのタイアップ】</b></p> <p>・長寿の会のプログラムとして、家族向けの勉強会の実施/茶話会の実施。</p> <p><b>【内部勉強会】</b></p> <p>・各部門で実施。</p> <p><b>【資格取得】</b></p> <p>ノーリフトケアコーディネーターBASIC 2名合格</p> <p>リフトリーダー検定 1名合格</p> <p>経管栄養/喀痰吸引資格 1名合格</p>
職員の身体的な負担軽減	<p>○ノーリフトケア宣言の実践と啓発活動の継続。</p> <p>○福祉機器の導入と実践の継続。</p>	<p><b>【ノーリフトケアの実践、啓発活動】</b></p> <p>・ノーリフトケア部門主導で、福祉用具が身近に使用し易い工夫を講じ、スライディンググロブ携帯率、スピラディシート等を利用者玄関や介助を多く使用する方の居室に手順書と一緒に設置する等の取り組みが普及率向上に繋がりました。</p> <p>・12月 眠りスキャン26台設置。良質な睡眠へ繋がられるようにモニター分析を継続中。</p>

令和6年度事業報告  
グリーンパーク北ひろ



【令和6年度を終了して（総括）】

- ・新規入居者受け入れ～3名、地域生活定着支援2名受け入れをしていたが、年度途中の退去とプログラム期間（3年間）を終了している。※退居～3名（逝去1名）※老朽化の為1ホーム廃止
- ・支援区分の見直しと平均区分～支援区分平均4.1（令和6年度末）  
内訳：区分変更9名、重度加算5名（全45名）
- ・インシデント、事故報告～5件（服薬関係）
- ・入院:年間を通して2～4名の入院者がいた。  
理由は、高齢化による疾病や生活習慣病と怪我による入院治療が増加傾向にある。
- ・短期入所令和6年新規利用6名、夕食体験を含む体験利用5名で計11名の新規利用を受け入れ。
- ・意思決定支援実践集事業所版、法人版発刊
- ・インターンシップ生の受け入れ
- ・家族向け看取り勉強会の開催（6月10日） ・地域推進連携会議の開催(2月22日)

【令和6年度稼働状況】

※注：  は入力しないでください。

1. 共同生活援助

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	129	30	3,870	3,677	95.0%	
5	129	31	3,999	3,675	91.9%	
6	129	30	3,870	3,651	94.3%	
7	129	31	3,999	3,748	93.7%	
8	129	31	3,999	3,708	92.7%	
9	129	30	3,870	3,636	94.0%	
10	129	31	3,999	3,716	92.9%	
11	129	30	3,870	3,620	93.5%	
12	129	31	3,999	3,729	93.2%	
1	129	31	3,999	3,697	92.4%	
2	129	28	3,612	3,402	94.2%	
3	129	31	3,999	3,818	95.5%	
合計			47,085	44,077	93.6%	

2. 短期入所

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	3	30	90	85	94.4%	
5	3	31	93	92	98.9%	
6	3	30	90	90	100.0%	
7	3	31	93	88	94.6%	
8	3	31	93	88	94.6%	
9	3	30	90	97	107.8%	
10	3	31	93	90	96.8%	
11	3	30	90	93	103.3%	
12	3	31	93	82	88.2%	
1	3	31	93	72	77.4%	
2	3	28	84	64	76.2%	
3	3	31	93	83	89.2%	
合計			1,095	1,024	93.5%	

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

令和6年度事業活動収支差額予算額	55,294千円
令和6年度事業活動収支差額	64,491千円
令和6年度事業活動収支差額予算差引額	9,197千円

令和6年度は年度当初の現員数129名で予算を組んで新規利用者を受け続けてたが、現員数に届かず退去利用者も出たため定員を満たすことができず、令和6年3月末で現員数127名となり収入予算達成には至らなかった。令和7年度は1名単身型ホームへの引っ越しを予定し、空室については利用者ニーズと地域ニーズを拾い、ハード面とソフト面のマッチングを進めていく。

短期入所については、年間予算6,000千円に対し6,575千円で予算達成となる。理由は、重度障がい者の方の受入れや希望の充足を図った。将来的にはグループホームへの新規入居希望にも結びつけていき、地域ニーズの対応と地域資源としての活用される土台作りを継続していく。また、具体的な課題として、令和7年度に向けて女性の短期入所利用に向けての利用者獲得や希望調査を進めていく。

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取組み・行動計画	進捗状況
個別支援計画	意思決定支援の追求	言葉による表面化された要望への対応はもろんの事、何故そのような発言や行動をとっているのか真意に着目し、寄り添う支援の実践
生活支援	余暇及び日常生活の拡充	利用者さんの”したい”を掘り下げ、聞き取りを強化。何を求めているのか希望を叶えつつ、職員からの提案も入れ、体験、経験から余暇の拡充に取り組み、外出機会を増やし、一件実施している。 GFを9月に実施し、生活講座とのタイアップでSNSの活用方法と危険性について周知する機会を持った。
短期入所	短期入所、体験利用の受け入れ	利用相談センターとの連携により、空きが極力出ないように調整している。また、今年度契約を結ぶ方へは、稼働が低下する土曜、日曜を進めている。利用者人数も少なく静かな環境にメリットがあった。また、GHくるみの介助度が上がって来ているが、短期入所は継続しつつ、くるみの環境とかすみの環境で見学時にどちらが適していそうか見立てを立てて、受け入れを行っている。また、新規での受け入れについては、関係機関との連携及び情報収集、関係性作りを行うため事業所に訪問し、利用しやすい環境づくりに努めている。
健康管理、医療体制	機能訓練センターや医療との連携	看取り援助への取組みのため、訪問看護事業所や病院との関係性を作るために関係機関に出向き、お話を伺いながら、フォロー体制を作っていくように取り組んだ。看取り援助の取り組みを進める中で課題も出てきており、看取り援助推進委員会との連絡や職員の学ぶ機会を作るように進めてきた。
権利擁護	権利擁護、虐待防止、身体拘束に関する学習や協議機会づくり	利用者さんのケースを中心にGPエリアとかすみエリアで共同プロジェクトチームを発足し、一つのケースに取り組みを進めた。また、利用者さんの意思決定を中心に置き、本人のなりたいたい自分を一緒に考え、通所先へ利用者さんの思いや必要な支援、配慮などについての情報提供を行いながら、本人と通所先や環境の間に立って常に本人の思いに寄り添った支援を進めた。

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域活動	地域住民と関係を深める取り組み	3/22に地域推進連携会議を実施し、4つの町内会の会長さんがグループホームに来訪され、緊急時や災害時における顔の見える関係し作りやお互いのことを理解し助け合える関係性作りに取り組んだ。参加された方たちからもいろいろな意見交換がされ、R7年度の地域連携推進会議の道筋となった。
実習生・インターンシップの受け入れ	社会福祉士実習生、インターンシップ生の継続的な受け入れ	社会福祉実習1名、インターンシップ生の積極的な受け入れとして道都大学生のアルバイト、インターンシップ生を今年度4名新たに受け入れている。また、インターンシップ生への虐待防止、権利擁護に関するレクチャーも実施済み。
広報誌発行	ご家族への広報発刊	社内報及びGP通信(新任職員紹介)1件、その他利用者さん個別で近況を伝える取り組みを実施。

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
防災	避難訓練、水害想定訓練	
	防災講座、AED、救命救急講座	総合職、世話人合同で実施し、町内会役員の方へも案内を行ったが、R6年度は町内会の方の参加はなかった。
感染症	嘔吐物処理などの実践研修	感染症流行時期に実施するため上期では進捗はなく、10月実施した。

## 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
人材の定着と育成	法人内、外研修への参加	年間を通して全職員が研修に参加、派遣している。
	外国人労働者の受け入れと育成	パートナーシップ制を導入し孤立させない取り組みの実施。日本語を学ぶ時間を確保した。各月でOJTを実施し、働きやすい環境づくりを行い、事業所内でも外国人サポートチームを立ち上げた。外国人スタッフも業務に対し積極的に年度内で単独でグループホームの夜勤に入れるようになった。
計画的休暇	計画的休暇の取得	各職員希望に合わせてリフレッシュ休暇の取得とリフレッシュ以外での有給取得ができるように勤務の調整。



令和6年度事業報告

北広島デイセンター



【令和6年度を終了して（総括）】

- ・報酬改定に伴い、C3勤務を設定し一部の送迎開始時間を早めてサービス提供時間の確保を行った事により、年間収入の確保ができた。また、12月の冬季送迎時間変更で、早出職員を3コースから2コースへ減便が可能となり、職員の負担軽減が図れた。
- ・4月に3名の新規利用者が区分6の重度加算ありであったこと、年度途中で区分5の利用者が区分6に区分変更されたことにより、年度予算よりも介護給付費収入が増加した。
- ・令和6年度は職員5名の退職と1名産休入りし、職員1名を採用した。人員配置体制加算を維持するために管理者がサビ管兼務することで、配置職員を1.5:1で確保することができた。
- ・10月に地域住民から散歩中の職員の利用者支援について指摘があり、市役所への報告・調査後、不適切なケアとして判断された。現在も再発防止に向け、緊急時の応援体制が取り易いように活動中の職員人数の確保、支援力向上を図る目的で、事業所内研修やグループワークを実施、また対象職員へのOJTを実施してきた。令和7年度も事業所内研修などを実施。

【令和6年度稼働状況】

※注：      は入力しないでください。

1. 生活介護（事業名 例：施設入所支援）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	40	22	880	991	112.6%	4/1付けで峯岸様、花田様、金野様契約
5	40	23	920	1,002	108.9%	
6	40	22	880	976	110.9%	
7	40	23	920	1,015	110.3%	7/31付で葛西様退所
8	40	23	920	940	102.2%	8/31付で柳谷様退所
9	40	22	880	957	108.8%	
10	40	23	920	984	107.0%	10/1付けで大野様契約
11	40	22	880	957	108.8%	
12	40	23	920	944	102.6%	
1	40	23	920	963	104.7%	
2	40	20	800	880	110.0%	2/28付けで後藤様退所
3	40	23	920	1,003	109.0%	
年間合計			10,760	11,612	107.9%	

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果と令和7年度の具体的な取組み

令和6年度事業活動収支差額	予算：18,149千円	決算：38,824千円	差額：20,675千円
<p>令和6年度は、4月に新規契約利用者3名が当初の予定よりも区分6や重度障害者支援加算の算定ができる利用者が多かったことと、報酬改定による利用時間の報酬変動に対応して、C3勤務を設定し送迎時間を早めるなどで、利用時間の確保や、利用時間を伸ばすことができた。また、職員の退職もありながらも勤務内での職員間のミーティングができるような工夫を行ったこと等で超過勤務も抑えつつ、予算収支差額は19,944千円の増加となった。</p>			

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>外部研修、事業所内研修を通じて福祉職員としての価値・倫理の基礎構築、及び専門的な知識・技術の共有を図り、事業所の支援力向上を目指す。</p>	<p>【計画的な外部研修への参加】</p> <p>①☑動援護従事者研修への参加。 年間3名を予定。</p> <p>②☑虐待防止に関する外部研修への参加。 年間4名以上を予定。</p> <p>③☑達障がいや障がい特性の理解を深める目的での外部研修への参加。 年間2名以上を予定。</p>	<p>○外部研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動援護従事者研修に2名派遣 ①（R6年 5/29,30,6/12,1）②（R7年 2/19,20,3,5,6）</li> <li>・自閉症援助技術研究会に1名派遣（5/10）</li> <li>・4法人合同個別支援計画研修に2名派遣（7/18）</li> <li>・北海道知的障害福祉職員関係研究会に1名派遣（9/27）</li> <li>・全国知的障害福祉職員関係研究大会に1名派遣（10/2～4）</li> <li>・全道知的障害関係職員研究大会に1名派遣（11/1）</li> <li>・権利擁護セミナーに1名派遣（11/21）</li> <li>・日中活動支援部会職員研修に1名派遣（12/18）</li> <li>・障がい者虐待防止・権利擁護伝達研修に1名派遣（1/30）</li> </ul> <p>※事業所行事と日程が重なり、行動援護従事者研修への派遣は2名だけだったが、年間通して10名の現場職員を外部研修へ派遣することができた。</p>
<p>職員会議内で利用者のケース会議を職員全体で行い、支援の共有と統一を図る。</p>	<p>【事業所内研修】</p> <p>①☑部研修受講者は職員会議等で他職員へフィードバックする。</p> <p>②☑業所内委員会（係）が主催する事業所内研修を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止…4月、7月、10月、1月</li> <li>・感染症…5月</li> <li>・医務…6月</li> <li>・リスク…8月、2月</li> <li>・災害…9月</li> <li>・送迎…11月</li> </ul>	<p>○事業所内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止研修…4/16（70-チャート、支援の悩みGW）</li> <li>・感染症研修…5/28（PPE、吐物処理）</li> <li>・医務研修…6/19（窒息研修）</li> <li>・虐待防止研修…7/30（支援の事例検討）</li> <li>・リスクマネジメント研修…8/28（KYT）</li> <li>・災害研修…9/25（BCP）</li> <li>・虐待防止研修…10/16（しまケア）</li> <li>・送迎研修…12/17（冬季運転）</li> <li>・虐待防止研修…2/6（支援のジレンマ）</li> </ul> <p>※外部研修へ派遣した職員は会議等で他職員へのフィードバックを実施することができた。研修に派遣した職員は、発表の機会があることを理解し研修に参加する為、良い刺激になった。また、事業所内研修は事業所内の各委員会が計画、実施してきた。行事や他の研修等で日程が組み辛い場合は職員会議日に行う事で、ほぼ予定通りの月での開催ができた。主にグループワーク方式で話し合う機会を設けた為、役職や年齢に関係なく、自分の意見を話せる職員風土になってきた。</p>
	<p>①☑職員会議内で利用者ケースを毎月1人を全体で検討する。</p> <p>②☑対象利用者は前月の活動室リーダー会議で決定する。</p> <p>③☑一ス1人30分程度で検討できるよう会議の進め方を工夫する。</p> <p>④☑課題検討だけでなく、意思決定支援の取り組み方法の検討など、支援力向上を図る。</p> <p>⑤☑職員会議を待たずして検討必要な場合は、臨時ケース会議をその都度、関係者で集まり実施する。</p>	<p>毎月の職員会議で、ケース会議を実施できた。ケース事例は、事前に活動室リーダーで話し合い支援に悩んでいる方を中心に決定した。支援現場からの困難ケースをGWや全体で話し合い、統一した支援、理解ができることは、個人や活動室での悩みで終わらずに安心した支援につながっていた。翌月の職員会議で振り返りを行う事で成果も共有できていた。今後はファシリテーター役の職員への事前打ち合わせを重視し、話し合いの中で日常支援を深掘し、より具体的な支援の計画と実践報告に繋げていきたい。</p>

<p>安定した稼働率の確保を目指す。 (40名定員に対する平均稼働率110%)</p>	<p>①☑均稼働率110%を安定的に確保できるように毎月の会議で稼働率を報告し、職員の意識を高める。また、事業運営会議では目標稼働率に向けた検討を行う。 ②☑席が続く利用者へは電話連絡や家庭訪問を実施。 ③☑用者、保護者に安心して利用してもらえるように、月一回の通信の発行や定期的な法人SNSでの活動の発信を実施。また、送迎時の丁寧な引継ぎを意識し、事業所状況や取り組みを伝えていく。</p>	<p>各月の稼働率は上記の「令和6年度稼働状況」を参照。 目標の110%を達成できたのは、4月、6月、7月、2月の4カ月だけで、平均稼働率は107.9%となった。 退所利用者が3名いたが、2名は他事業所との併用や長期入院で今年度の通所実績がほぼ無い方だった為、稼働に大きな影響は無いと思われる。稼働率低迷の原因は、年末に感染症の広がりが見られたことや、ご家族や居住施設で他利用者の感染症に伴う休みによるものと考えられる。しかし、土曜日に行事を企画することで普段は定期休みの利用者が通所してくれる実績もあった。</p>
---	--	--

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>コミュニティサポートの一環を目指し、近隣の学校との連携を図る。</p>	<p>①☑幌養護学校共栄分校と連携し、グラウンドや体育館等の借用。 ②☑いの事業所や学校への見学会。 ③☑業所の日中活動で作成したカレンダーの配布。</p>	<p>共栄分校にプールの使用に向けて、相談してきたが使用範囲や時間等の折り合いがつかず、利用に至らなかった。日中活動では、7月に総合体育館を利用しての運動会を実施した。広い場所で体を動かすことができ、生き生きとした利用者の表情や様子も伺えた。 また、日中活動で作成したカレンダーを市内の各事業所、関係機関へ配布した。</p>
<p>地域協働の目的で北広島市のイベントに参加する。</p>	<p>①☑域貢献推進部やボランティア委員会等から情報をもらい、事業所の日中活動の目的に合ったイベントへの参加。 ②☑域のクリーン活動など、通所時間外のイベントには職員だけの参加も行う。</p>	<p>8月～11月まで月初めに散歩コースのゴミ拾い活動実施。 8月DCまつりに学生ボランティア2名が参加。 9月DCフェスタに学生ボランティア2名が参加。 12月DCクリスマス会に学生ボランティア2名が参加。 4月市役所との合同のわがまちクリーン作戦活動（市内のごみ拾い）に16名参加。 今後も日中活動と地域参加を組み合わせた活動を実施していく。</p>
<p>日中活動や年間行事では地域参加を目的とした活動展開を取り入れる。</p>	<p>①「体力」「軽作業」「芸術」の3部門毎の活動内容に事業所としての地域参加を目的とした計画を立案し、実施。 ・屋外歩行時のコースや、行事の外出先で市内の公共機関や店舗を利用。 ・リサイクル活動の古紙回収先を増やす、また新規作業の開拓。 ・市内イベントでのアート活動作品の出展。</p>	<p>日頃の体力活動の成果として、ゆにガーデン外出を行い、園内の散策を実施した。広い敷地内だが、グループごとで景色を楽しみながら散策することができた。 芸術活動として、9月にはJR北広島駅のエルフィンパークでDCフェスタを開催。事業所での作品を展示や販売を実施。また、みんなアートなどイベントへの展示を実施した。</p>

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>災害時の地域との連携づくり。</p>	<p>①☑園部地区の防災研修への参加。 ②☑園の他、市内の防災研修等の参加。</p>	<p>6/8…防災センターでの東部地区生涯学習振興会主催の防災研修に1名参加。  5/20…火災避難訓練 6/12,1120…水害訓練 9/25…地震による火災避難訓練 9月の訓練後に職員へのBCP説明を行い、防災意識向上を図った。周知に向けては継続した訓練が必要。来年度は市内の防災研修には現場職員の派遣を行う予定。</p>

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>事業所の“わくわく”した取り組みを外部に発信する。 (事業所のことを知ってもらう)</p>	<p>① <input checked="" type="checkbox"/> 業所での行事や取り組みを法人広報担当と連携し、SNSでの発信を毎月行う。                  ② <input checked="" type="checkbox"/> 事務総務部や採用促進のプロジェクトチームと協働し、大学や専門学校などへ訪問した際の宣伝用の事業所パンフレットを作成する。                  ③ <input checked="" type="checkbox"/> 談援助実習、保育実習の受け入れでは、実習担当職員を配置し、計画的に丁寧な指導を行い、法人に興味を持ってもらえるよう事業所全体で関わる。                  ④ <input checked="" type="checkbox"/> ランティア委員会とも連携し、必要時に受け入れていく。</p>	<p>スーパーセブン担当職員による事業所での行事や活動の様子をInstagramで発信している。Facebookへの発信やホームページの更新ができなかった為、来年度では役割を明確化し実施していく。                  8月にインターンシップ、行事での学生ボランティアの受入を行った。                  札幌学院大学2回（5月、3月）、星槎道都大学1回（11月）に職員派遣で法人（事業所）説明会に講師派遣した。</p>
<p>「仕事」と「自分の時間」のバランスを大切に働く働き方の風土づくり。</p>	<p>① <input checked="" type="checkbox"/> 月給与と支給日はNO残業DAY継続。                  ② <input checked="" type="checkbox"/> 業務に合わせた勤務時間の変更や、業務指示での職員配置の工夫等により、超過勤務の一人あたり月5時間程度を目指す。                  ③ <input checked="" type="checkbox"/> 職員の業務遂行状況を事業運営会議でも確認し合い、指導・育成していく。</p>	<p>NO残業DAYのシステムを導入して、5年目で事業所としても意識化されてきた。導入当初よりも現在は勤務時間内での打ち合わせやディスクワークを分担する工夫を施したことで、超過勤務時間の減少に繋がっている。</p>

# 令和6年度事業報告

## 北広島コラボ



【令和6年度を終了して（総括）】

下半期が終わり通所利用者数はいんくる43名ミルト21名、計64名と定員を達成し概ね計画通りに遂行できている。次年度からはいんくるでさらに2名、ミルトは3名の新規利用者が通所となり現員69名での契約となる。ミルトでは多くの利用者が他事業所を併用しているがいんくるも事業所の併用をする利用者様が増えてきている。平均支援区分も高くなってきており、いんくるでは5.4と重度化し支援の介入度合いが多くなってきている。認知症を発症している方や自力歩行が難しくなってきている方も出てきており職員の支援介入度は高い。1日当たりの通所者数で見ると定員まで満たないため次年度以降も通所受け入れを積極的に行いたいところではあるが職員数の関係で難しい側面も見られる。次年度はFスタッフの手も借りながら支援展開を行っていく。いんくるでの意思決定支援として個別外出を通して利用者様の意思形成、表出、意思実現に取り組んだ。多くの方が意思の表出の部分で難しさがあつたため次年度はもっと工夫して利用者様の意思を引き出していく。今年度は学校や家族、学生など見学者も多く、コラボの良さを多くの人に紹介できたと考えている。今後もInstagramなどSNSを活用しながら北広島コラボを多くの人に知っていただく。自社製品においては蜜蝋キャンドルの売り上げが中心となり1年通して38万円ほどの売り上げとなった。SNSや福祉雑誌を見て道外など遠方からの問い合わせも増えてきており自社製品の認知度が少しずつ上がってきている。また、地域にチラシを配布したり、社協にも協力していただき市内の高齢者宅などにお知らせすることで作業で使用する雑誌を回収するなど、北広島という地域に北広島コラボを知ってもらう機会を設け、それを継続することで地域に根ざした事業所としていく。ミルトでは入浴、送迎、日中活動、ご本人にあった食形態など求められるサービスは多く現在のミルトではどれも削ることはできない大切なサービスである。マンツーマン対応も多く介護技術も高度であるが、日々の職員の勉強、親御さんとの信頼関係、ご本人の笑顔で安心安全に無事に終わることのできた年度であった。

【令和6年度稼働状況】

※注：      は入力しないでください。

1. (ミルト：生活介護)

4	20	22	440	189	43.0%	
5	20	23	460	205	44.6%	
6	20	22	440	198	45.0%	
7	20	23	460	216	47.0%	
8	20	23	460	204	44.3%	
9	20	22	440	197	44.8%	
10	20	23	460	209	45.4%	
11	20	22	440	206	46.8%	
12	20	23	460	195	42.4%	
1	20	23	460	203	44.1%	
2	20	20	400	183	45.8%	
3	20	23	460	209	45.4%	
下半期合計			5,380	2,414	44.9%	

2. (いんくる：生活介護)

月	定員	稼働日数	月間総定員(人)	延利用者数(人)	稼働率(%)	備考
4	40	22	880	783	89.0%	
5	40	23	920	809	87.9%	
6	40	22	880	770	87.5%	
7	40	23	920	823	89.5%	
8	40	23	920	763	82.9%	
9	40	22	880	737	83.8%	
10	40	23	920	801	87.1%	
11	40	22	880	746	84.8%	
12	40	23	920	778	84.6%	
1	40	23	920	797	86.6%	
2	40	20	800	677	84.6%	
3	40	23	920	787	85.5%	
下半期合計			10,760	9,271	86.2%	

【令和6年度予算見込】

※上期を終えて事業活動収支差額予算の見込と下期の具体的な取組み

令和6年度事業活動収支差額	予算：25,097千円 決算：37,979千円 差額：12,882千円
<p>令和6年度収支の見込みとしては計画通りに進んでいるところです。</p> <p>下半期は蜜蜂の販売強化としてミュンヘンクリスマス市での売り上げが好調である。缶バッジではジョブのアーティストの缶バッジ注文が入り大きな売り上げとなった。今年度は雑誌回収について自作のチラシを作り北広島市内にポスティングすることで多くの雑誌を得ることが出来、利用者様の還元金につながったことや北広島コラボを地域住民にアピールできたと感じている。また、感染症を広げない感染対策を行い稼働率をキープできるよう取り組んでいる。稼働面では少しずつはあるが新規利用者を増やすことが出来た。相談支援事業所からの紹介や卒後の入所希望を断らずに受ける姿勢が信頼関係に結び付いたことが新規利用者獲得につながっている。しかし週1日、週2日利用の方が増え稼働率で言えば数値的には下がってはいるが区分認定で軒並み区分が上がっている状況もありトータルでは収入増になっている。家族の都合でのお休み（起点まで時間が間に合わないなど）ではなるべく通所できるよう柔軟に送迎時間をずらすなど行い通所してもらっている。いんくるで言えば長期の入院の結果利用者様が亡くなったり、GHの利用者様で障がい特性により通所が出来ない利用者様があり大きく稼働を落とすことになっている。早急にGPと連携を取りながら通所できるように支援の組み立てを行っていく。次年度に向け高等養護学校と連絡を密にし実習の調整や新たな実習希望者の受け入れ等行う。</p>	

【令和6年度事業計画進捗状況】

いんくる

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員の専門的な知識、技術の向上を図る。	計画的な外部研修（WEB研修）への派遣と研修後には、会議等の場で事業所内へフィードバックする時間を設けます。 ・行動援護従事者研修…年間2名以上（重度障害者支援加算算定要件）	外部研修については事業所内でのフィードバックを行っている。 自分たちの勉強会として意思決定支援について勉強会を行っている。行動援護従事者研修はミルトの職員が取得している。
はたらく生活介護としての支援力の向上を図る。	他の就労事業所の見学を行い、障がい特性に合わせた工夫や作業展開方法などを学び、利用者の作業意欲、技術の向上につなげます。 対象の利用者の特性に照らし合わせ支援をします。 支援に必要な研修を受け資格の取得をした際は修了証や合格証を館内に掲示することにより、知識を生かし利用者さんの得意を引き出す力、やりがいのある仕事の提供をしていきます。	職員資格の提示は引き続き行っている。 他の事業所見学を通し利用者の支援の工夫（スケジュール提示や治具の活用、環境整備等）など連携を取りながら進めることができた。 発達障がいや強度行動障害の方が多く在籍しているが高齢化が進んでおり病気を抱えた方や認知症を発症する方が出てきており、そのような方に対する支援方法の確立をしていく必要が出てきている。末期がんの方に対して毎日の入浴を行ったり、認知症の方に対しては職員がつきながら一緒に活動の展開を行ったり個別対応を行った。

<p>稼働率の上昇を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均稼働率いんくる定員に対して85%を目標値として、新規利用者の獲得、事業所併用の利用者には通所日を増やしていただけるよう送迎車の増車、魅力的な作業、運動プログラムの提供を行います。</li> <li>1日目安</li> <li>・いんくる…34名</li> <li>・定期通院による欠席を回避していきます。</li> </ul> <p>欠席した利用者へは担当から状況確認の連絡を行い、長期欠席を繋げないよう心掛けます。</p> <p>体調不良での欠席時には症状を確認し、感染症による感染拡大が予想される場合には、自宅静養をお願いしていきます。</p> <p>利用者、保護者に安心して利用してもらえるように定期的な通信の発行や送迎時の丁寧な引継ぎを意識し、事業所状況や取り組みを伝えていきます。また権利擁護等の職員研修などの実施した内容などもお知らせすることにより安心感、信頼をしていただける様にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミルトと連携し必要利用者には入浴などの機会を提供し作業や入浴などを選択できる体制を作り楽しんで通所できるよう働きかけていきます。</li> </ul>	<p>平均稼働率85.6%で経過し目標を達成することが出来ている。</p> <p>新規利用者獲得では3名増となっているが1名の方がお亡くなりになられた。</p> <p>通所状況としては週1回、2回の利用の方が増え、稼働率については大幅な上昇とはいかなかった。利用者様によっては障がい特性により通所できずにGHから出れない方がいたり、病気のため入院していたため稼働が伸びなかったことが要因として挙げられる。長期欠席につなげない様にGHやご家庭との連絡を丁寧に行っていくことと、新規利用者を獲得することを今後も継続していく。</p> <p>職員のミーティングなどでこんな場合には「こんな声掛けをご本人にしてみよう」などという引継ぎなどが自然と出来るようになっていく。欠席を少なくする支援も意識して取り組めるようになっていく。</p>
<p>その人の力を発揮できる環境作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別室を使用し感覚過敏のかたでも気にせず集中できる環境で作業提供を行います。</li> </ul> <p>また、体験実習や環境に慣れるまでの間の活用など利用者様の不安を軽減しながら利用につなげていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループで一人ひとりの得意なことを見つけながらその人に適した作業や行程を行うことで作業意欲や生きがいに繋げていきます。</li> <li>・作業に対する体力をつけるために運動プログラムを実施し体力活動（機能訓練・屋外歩行など）を通して作業ができる体力づくりを行います。</li> </ul> <p>また、作業と余暇の充実を図るためレクなどの余暇プログラムも随時取り入れます。</p>	<p>個別室の活用や、運動プログラムの実施など利用者の特性に応じた場所の提供など継続して実施している。</p> <p>聴覚過敏による周りの環境との不具合から個別室の需要が多く、工夫しながら活用している。</p> <p>毎週土曜はジョイスポと称し運動プログラムを実施している。作業一辺倒ではなく定期的にレクの要素を取り入れることで気分転換にもなり、利用者様にも好評である。</p>

<p>機能訓練センターとの連携強化。</p>	<p>高齢や障がい特性による身体機能の衰えを専門職との連携で改善し、個別性の支援力が向上できる支援体制の整備を行います。体験実習のプログラムに機能訓練センター利用を組み今後の利用につなげていきます。</p>	<p>随時、相談連携をとりながら進めている。ほぼ毎日数名の利用者を訓練している。</p>
------------------------	---	--

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
除草、除雪作業の顧客満足度向上を目指す。	<p>昨年度までの顧客リストをもとに営業活動を実施していきます。特に除雪作業では北広島市のボランティア除雪が行なわない、道幅を広げる為の除雪を継続して行っています。</p> <p>依頼がない時には事業所周辺での除草や除雪の作業、ボランティア袋を使用し清掃活動などを行います。実施する際には共栄分校などに働きかけを行います。</p> <p>4～6名グループでの出張作業として取り組みます。</p>	<p>昨年からの除雪代を30分2000円に値上げしているためか新規申し込みはあまり伸びていないが年間10件強の契約を結び、除雪を行っている。清掃ボランティアは実施できていないが、作業内での仕事として実施はしてきている。夏季に行っている農園から冬季間の除雪も頼まれており、安定した収入となっていることに加え信頼関係を築くことにもつながっている。</p>
他事業所や関係機関との連携の強化を図る。	<p>支援上の課題については、事業所内での検討だけでなく、解決困難な場合には他事業所や他機関との連携、相談を積極的に行う。また、必要に応じてケース会議や関係者会議を積極的に実施していきます。</p> <p>関係する事業所や機関との情報共有を適宜に行っていくことで関係性の構築を図ります。</p>	<p>定期的に困難事例の利用者の関係者会議を行っている。多方面との連携を実施している。今後も家族の困りごとには寄り添いながら各所と連携していく。</p>
蜜蝋キャンドル、缶バッチの商品認知度の向上を図る。	<p>地域の販売イベントへの参加や法人ホームページ等のSNSを活用した宣伝を行います。</p> <p>店頭で当商品を販売している提携店は、計画的に訪問し、在庫確認や商品の交換により回転させることで、「あっ、新しいものがある」「今度来た時、何があるかな」という常連客の“気になる”“楽しい”を目指します。</p> <p>作業しやすい道具の購入や作業工程の工夫を模索しながら、利用者が理解しやすく携われる工程を増やします。</p> <p>自分の子供が作っている商品を保護者向けに宣伝し、保護者からも商品の良さを周囲に拡散してもらえようようにします。</p> <p>売り上げ目標 缶バッチ 年間50000円 蜜蝋キャンドル 年間600000円</p>	<p>地域のイベント参加、SNSでの発信を行いフォロワーも伸びてきている。また、インスタから蜜蝋キャンドルに興味をもってくれた方からの問い合わせもあった。缶バッチは大口の注文を獲得できておらず売り上げが低迷している。</p> <p>蜜蝋キャンドルについてはミュンヘン市に出店している事業所から注文が来たり北大のミュージアムから注文があり38万の売り上げがあった。</p>

地域ボランティアとの連携強化。	農業経験者や知識がある地域ボランティアに協力してもらい、農作物の栽培方法の知識の習得にも力を入れます。また共栄分校との連携を含め花ロード作成のための苗づくりから植え付けまでを協力して行います。	ボランティアとしての連携は出来ていないが、農福連携で契約いただいている農家さんからは随時アドバイスを頂いている。
-----------------	--	--

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害時避難計画の周知徹底を図る。	災害時の避難計画を訓練により見直し、マニュアルを周知します。 ・火災避難訓練…年間1回 ・地震避難訓練…年間1回  訓練はミルトと合同で実施していきます。	実施済み 機能訓練とも合同で行っている。
福祉避難所の整備	・北広島市役所と施設危機管理部との連携により、備蓄品等を管理します。	福祉避難所の為の物品は搬入されていない

### 3. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
有休休暇の計画的な取得	職員は毎月15日までに翌月の有休申請を行います。管理者は職員の年間取得有休休暇を管理し年間7日間を必ず取得できる体制を作ります。 リフレッシュ休暇は年度の初めに希望の調査を行い、上半期終了後に有給休暇取得に関して、取得できていない職員へ計画的な取得を促していきます。	有給休暇はほぼ目標の7日を取得できている。またリフレッシュ休暇や勤務希望などをしっかり確認することが出来ている。
作業を通じて地域との関りの機会を増やし、地域の方にも事業所のことを知ってもらう。	農家、企業、地域住民からの委託作業を請け負う際、“元気な挨拶”“礼儀やマナー”“丁寧な対応”を心掛けます。 地域住民からの委託は、電話対応マニュアルを作成し、誰が受けても丁寧に対応できるように準備していきます。 活動内容を定期的に法人ホームページやInstagramに掲載していきます。	インスタにて活動で作成している蜜蝋キャンドルの情報や野菜の販売情報などを載せている。 挨拶、礼儀マナーの点では職員室に入る際のノックや挨拶など毎日の生活の中での練習が出来ている。
保育実習生の実習を受け入れる。	実習担当を配置し、指導と相談を丁寧に行います。卒後の就職先として候補に挙げてもらい、福祉を担う仲間として有意義な実習になる様取り組みます。	保育実習だけにとどまらず合計4名の実習受け入れを行っている。そのうち2名が北広島コラボに就職、配属できた。また1名は定期的なボランティアとして来てくれている。
「わくわくする楽しい職場」づくりを追求する。	職員の得意不得意をカバーし合いチームとしてプラスアルファの力が出せるように心理的安全性に着目する。	心理的安全性が確保されるよう働きかけているが特に若い年齢の職員は遠慮する様子が見られている。経験がある職員が事前に働きかけることで何でも言いやすい雰囲気が出来てきており、働きやすさにもつながっている。

ミルト

【令和6年度事業計画10月～3月の進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者さんの「しあわせ」とは何か、常に考え行動する職員集団にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の利用者さんの生きてきた物語を大切にす為、個別支援計画の成育歴既往歴、お薬情報、アセスメントシートなど常に確認し更新していきます。</li> <li>・新しい事への取り組みによる経験の場、意思形成、意思表出、意思決定を大切なプロセスとして毎日を支援する為に個別の特性に応じた活動場面を提供していきます。</li> </ul>	<p>外出や外部の講師によるワークショップなどを交えて、地域とつながる場面を持たせた年であった。</p> <p>意思の形成、表出に時間を費やし取り組んできた。</p>
統一したチーム支援を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の課題は、その場、その日のうちに改善策を話し合い周知させて、早急に対応します。日頃から端的に議論し決定する意識と決まったことを共有しチームでの支援が出来るように朝会・夕会での確認と業務指示に記入欄を作り見返すことが出来るようにします。</li> <li>・看護師、支援員など職種の違いにとらわれず、双方の情報共有、意見交換を大切にします。</li> </ul>	<p>可視化する為のボードの整理、新しい利用者さんが契約をして通所しても継続可能な確認ツール等日々改善をしチーム支援を意識し取り組むことが出来ている。</p>
保護者の方に信頼を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心してご利用頂ける様に普段からの活動内容などの情報提供、提案、ご家庭からの情報収集を通し、利用者の伴奏者としての立ち位置を忘れずに行います。</li> <li>・ご家族にも寄り添う為に毎日の朝会夕会の引継ぎ内容を確認し送迎に臨みます。</li> <li>・ミルト通信を月2回発行し日中の様子や月の予定をお知らせします。</li> </ul> <p>また、権利擁護等の職員研修などの実施した内容などもお知らせすることにより安心感、信頼をしていただける様にします。</p> <p>InstagramなどのSNSを利用した発信も継続して行っています。</p>	<p>ミルト通信や研修報告などをご家族にお伝えすることが出来ている。またインスタについても楽しみにチェックしてくれている保護者もいる。活動室内の環境整備も進めたことから、忘れ物などのミスも少なく、保護者を不安にさせてしまうことなどもなく展開ができた。</p>

<p>職員の自己研鑽の場が確保され仕事にやりがいを持ってようになるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は事業所内委員会に所属し、重症心身障害者に特化した内容ばかりではなく、計画的な外部研修（WEB研修）への派遣と研修後には、会議等の場で事業所内へフィードバックする時間を設けます。</li> <li>・支援に対する根拠を持ち職員の自信と次のステップへのやる気を持つ為に必要性、方法についての根拠など調べ確認して知識とする習慣をつける。また当たり前に行う毎日の支援も必要時には夕会での確認を随時行い必要な支援か改善が必要か話し合いを行います。</li> </ul>	<p>なかなか研修にいけておらず、事業所へのフィードバックは数が少ないが、発達研に所属している職員からの研修など事業所内での取り組みは出来ている。</p>
---	--	---

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>入浴支援実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者さんのQOL向上の為、生活を豊かにする入浴を遂行していきます。</li> <li>・福祉用具つるべと特殊浴槽（ミスト浴）を使用し安心安全な時間の提供を行います。</li> <li>・日中一時（入浴型）としても展開し児童で利用して頂くことで慣れていただき、卒業と共に継続利用をしていただける様に展開します。</li> <li>・市内にお住まいのご家庭での入浴に困難を感じておられる方の入浴を相談事業所と連携し積極的に受け入れます。</li> </ul>	<p>安全な入浴を遂行することが出来ている。日中一時型としては今まで受けてきた利用者さんは2名とも生活介護での契約に繋がっている。その他北広島市外の利用者の入浴のサービスの要望は増してきている。そのため毎日の入浴支援のウエイトもかなり高くなっている。</p>
<p>ボランティアの受け入れ、外部講師を担います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア委員と連携し、入浴の際のドライバー、車椅子の掃除等を行って頂けるボランティアを募集しボランティアの活動の場を提供します。</li> <li>・市役所や社協に協力頂き、調理活動やレクリエーションなどイベントに対する外部講師を呼ぶ機会を作ります。</li> <li>・職員が講師となり地域の方へ福祉用具使用の実践などを発表し福祉用具の普及に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアは3名の受け入れを行っている。内1名は採用につながっており、他1名は毎週火曜にボランティアを継続していただいている。</li> <li>・11月にリース作り行事で外部講師を呼び、利用者様、ご家族ともに行っている。好評なため次年度も実施を予定している。</li> <li>・福祉用具の発信については研修での実践発表により他法人からの見学者が多数来てくれることとなった。</li> </ul>

<p>養護学校実習生・卒後の体験実習の受け入れを積極的に行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近郊の養護学校と連携し、実習生の受け入れ、見学などの対応を行います。</li> <li>・感染症時にも対応可能、また実際に利用されている方が案内役となるビデオ通話形式の見学も行います。（共栄分校）</li> <li>・卒後の体験実習についても積極的に行います。</li> <li>・参観週間を設け、保護者の方が日中に見学できるような取り組みを通し地域に開かれた事業所を目指します。</li> </ul>	<p>ビデオ形式にしなくても見学などが可能になり、積極的に体験実習や見学を受け入れている。9名の実習を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観週間については保護者も積極的に来所してくれている。また日程が合わなくても別日で参観したいと積極的な問い合わせがあった。</li> </ul>
------------------------------------	---	--

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>サービス利用中を想定した災害訓練を行う。</p>	<p>事業所内でBCM委員会組織を設定し、災害時の避難計画を訓練により見直し、事業所職員に周知していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震避難訓練…年間1回</li> <li>・火災避難訓練…年間1回</li> </ul> <p>以上の計画は年間計画に組み込みご家庭にも実施の報告、様子などを通信を通し発信していきます。</p>	<p>訓練実施済み、保護者へ通信などを通じてお知らせも行っている。継続して後期も保護者に伝えながら実施ができています。</p>
<p>関りのある他法人事業所との連携を日常から行いネットワークの強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害及び感染時にも連携できるネットワークの整理をしていきます。</li> <li>・災害などで通所の制限が必要な際に他事業所と連携し利用者の受け入れのお願いや通所予定日以外の受け入れを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北広島市からの依頼により避難困難者避難計画に基づいた依頼が3件ある。他法人との連携も必要な内容になっておりネットワークの強化につながっている。また相談事業所などの変更になった利用者さんもおり、新しい関係機関も増える中、ネットワークを構築している。</li> </ul>
<p>緊急時に対応できるよう定期薬などの準備確認をする。</p>	<p>各利用者さんの日中の定期薬のみではなく、1日に必要な薬を2日分を保護者と確認し通所バックに用意していきます。</p>	<p>実施している。各ご家族とも連携を取り、利用者さんのカバン内に予備薬を入れていただいております不測の事態にも備えることができている。</p> <p>保管させていただいている頓服等の消費期間のチェックを行うこともできた。</p>

### 3. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
有給休暇の計画的な取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌月の勤務表作成時に管理者から事前の有給希望を確認し、毎月15日までに取りまとめます。</li> <li>・リフレッシュ休暇については年度の初めに希望の調査を行います。上半期が終了し、まだ休暇の申請が出来ていない及び有給休暇を取得できていない職員へ計画的な取得を促していきます。</li> <li>・仕事と趣味、子育て等プライベートの両立を大事にする風潮を浸透させるため、計画的な有給取得を進めていきます。</li> </ul>	<p>計画的なリフレッシュ休暇、有休などの取得は行えている。</p> <p>超過勤務が必要な仕事内容は随時見直し、勤務時間で仕事を終わらせる工夫を全職員が意識し考えることができるようになった。</p>
効率的な日常業務の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常業務での掃除や記録の時間を短縮できるよう業務の分担制や書式の変更、時間の使い方等を改善、整理をします。</li> <li>・各会議は報告ではなく、検討事項を中心に行っていきます。</li> <li>・職員のみ会議日として、稼働ではない職員のみ出勤日を作り、ケース会議等じっくり検討出来る時間などの確保をします。</li> <li>・参加が難しい研修関係動画を会議日に全職員で視聴できる時間を設定しスキルアップにつなげていきます。</li> </ul>	<p>職員数の関係により、会議のみの勤務の日を継続することが難しくなったため、日々の間接業務での時間の使い方を見直す必要が出てきたが、前向きに職員が取り組もうという姿勢が見られ、職員が互いに声を掛け合う場面が増えたことはとても良い傾向であった。</p>
わくわくする「楽しい職場」づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「タイムマネジメント」が出来ているか毎月の部門会議前に個別に確認していきます。</li> <li>・様々なケースに対して話し合う機会を作り利用者支援については職員みんなでの共通認識を進め支援していきます。</li> <li>・職員にとって「心理的安全性」が確保され、有効な意見交換が出来るよう1か月に1回程度の1 on 1 ミーティングを実施していきます。</li> <li>・枠にはまらない独創的な行事などアイデアを生かした楽しい活動を計画していきます。</li> </ul>	<p>エスコンフィールドでの買い物計画、展覧会への出展など職員もワクワクするような内容を盛り込み支援をしている。</p> <p>ミーティングは改まって行う事は少ないが、送迎などの時間を通し話し合う機会を持っている。</p>

<p>安心安全な労働環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重症心身障害者の利用者さんの支援にはノーリフト支援が根底にあり設備が必要になります。ノーリフトケア事業計画を基に利用者さん、職員双方に安心安全な支援を行うために必要な福祉用具の準備、購入を積極的・計画的に行います。</li> <li>・天井走行リフトの活用により腰痛のリスクを下げることと、利用者の身体的負担を下げます。</li> </ul>	<p>既存する福祉用具を安全に使う事、利用者さんによって工夫が必要な場面があれば工夫し、難しければ新たな福祉用具の導入を行う事を実践し、スリングシートの新規購入をしている</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社福、介護、実習生が充実した実習と感じてもらえるような環境づくり</li> <li>・ボランティアやインターンシップ制度の確立を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、専門学校で社福、介護、保育実習は積極的に受けていきます。</li> <li>・実習生が考えた個別の支援や企画を実践して、成功体験として振り返ることを期間中に行う事で、「この法人で働いてみたい」という気持ちになれるような実習計画を作り実践していきます。</li> </ul>	<p>今年度は4名の職員実習を受けている。1名はボランティアをさせてほしいという話があり継続してボランティアに来てくれている。</p>

# 令和6年度事業報告

## フィットマン



【令和6年度を終了して（総括）】

- ・年間新規契約数（日中一時6件、移動支援3件、行動援護2件、居宅介護3件）合計14件であった。
- ・R6年度、フィットマン職員を1名増員して支援にあたった。そのため、一人当たりの超過勤務時間を月10時間程度に抑えることができている（働き方の改善）。
- ・R6年12月にパートタイム職員が1名退職（急逝）したが、もう1名のパートタイム職員の就業日数を増やすことができたため、今までと変わりのない利用数を維持できている。
- ・他法人及び会社が運営する移動支援の北広島からの撤退などにおいて今まで利用していたサービスを利用できなくなるためフィットマンへ依頼が入ることがあり受けている（2件）。

【令和6年度稼働状況】

※注：  は入力しないでください。

1. 居宅介護

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	15	1	15	15	100.0%	
5	15	1	15	15	100.0%	
6	15	1	15	12	80.0%	
7	15	1	15	13	86.7%	
8	15	1	15	16	106.7%	
9	15	1	15	15	100.0%	
10	15	1	15	19	126.7%	
11	15	1	15	17	113.3%	
12	15	1	15	12	80.0%	
1	15	1	15	15	100.0%	
2	15	1	15	13	86.7%	
3	15	1	15	14	93.3%	
合計			180	176	97.8%	

2. 移動支援

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	43	1	43	51	118.6%	
5	44	1	44	48	109.1%	
6	43	1	43	48	111.6%	
7	44	1	44	44	100.0%	
8	44	1	44	38	86.4%	
9	43	1	43	36	83.7%	
10	44	1	44	41	93.2%	
11	43	1	43	42	97.7%	
12	44	1	44	42	95.5%	
1	44	1	44	43	97.7%	
2	42	1	42	39	92.9%	
3	42	1	42	39	92.9%	
合計			520	511	98.3%	

3. 日中一時

月	定員	稼働日数	月間総定員 (人)	延利用者数 (人)	稼働率 (%)	備考
4	254	1	254	270	106.3%	
5	255	1	255	282	110.6%	
6	254	1	254	263	103.5%	
7	255	1	255	282	110.6%	
8	254	1	254	294	115.7%	
9	254	1	254	277	109.1%	
10	254	1	254	270	106.3%	
11	254	1	254	260	102.4%	
12	254	1	254	239	94.1%	
1	254	1	254	244	96.1%	
2	254	1	254	236	92.9%	
3	254	1	254	250	98.4%	
合計			3,050	3,167	103.8%	

4. 行動援護

月	定員	稼働日数	月間総定員 (人)	延利用者数 (人)	稼働率 (%)	備考
4	54	1	54	61	113.0%	
5	54	1	54	65	120.4%	
6	54	1	54	67	124.1%	
7	55	1	55	73	132.7%	
8	55	1	55	71	129.1%	
9	54	1	54	66	122.2%	
10	54	1	54	72	133.3%	
11	54	1	54	65	120.4%	
12	54	1	54	67	124.1%	
1	54	1	54	63	116.7%	
2	54	1	54	66	122.2%	
3	54	1	54	67	124.1%	
合計			650	803	123.5%	

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>法人内の通所事業所と連携、協力しながら通所事業所の営業時間外の利用ニーズをサポートし、ご本人と合わせてご家族を含めてサポートできる体制を構築します。</p>	<p>利用される方のお仕事から家庭までの余暇時間を大切にします。お仕事の後のほっとするひと時、それぞれの楽しみ方（みんなでの会話やテレビ,個別の音楽鑑賞やゲーム）等、1人1人が希望される過ごし方をサポートします。 →日中一時支援</p>	<p>テレビやタブレットを増台することによりそれぞれが好きな番組を見てのんびりと過ごす空間ができています。また、ソファやダイニングテーブルなどの入れ替えにより清潔な環境も維持できています。</p>
	<p>ご家族もほっと休めるひと時の為の利用を提案していきます。 →日中一時支援、移動支援、行動援護</p>	<p>ご家族から希望が挙がった際は、受けることを前提にスケジュール調整を行うよう心がけていた。「いつも助かります」というご家族の声を聞くこともしばしばあった。</p>
<p>利用者に関わる全ての関係機関と積極的に連携し、在宅での生活を継続するための一助を担います。</p>	<p>1人暮らしの方の「苦手な事」、「1人では出来ない事」等をお手伝いします。 →居宅介護</p>	<p>利用を喜ばれています。利用の依頼内容も様々な内容に変わってきています。</p>
	<p>1人では不安,ご家族だけでは受診が困難な時にサポートします。ケースによっては事前に計画立てて実施します。 →通院介助、行動援護</p>	<p>年度当初は北広島デイセンターの職員に同行してもらっていた通院も後期からはフィットマン単独にて付き添っている。また、看護センターの協力の基、通院に際しての告知を工夫した件が1件あった。</p>

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域資源として事業活動を通して利用者の社会参加の機会をサポートします。	特別な余暇をサポートします。楽しみな外出（映画やコンサート等）、健康の為の外出（散歩やプール、体育館等）、生活に必要な外出（食料や日用品等の買い物等）を一緒に楽しみながらお手伝いします。 →移動支援、行動援護	グループホームの利用者を中心に毎月、定期利用を希望される方が多く、月70件近い外出をサポートしている。利用者からは「来月も楽しみにしてるね」と声をかけられることが多い。
	「1人で行ける様になりたい」という希望をお手伝いします。公共交通機関の利用方法、困った時の解決方法、ヘルプコールの掛け方、掛ける時等、実施の外出時に一緒に経験することでそれぞれの方法を学び、自信につなげていきます。 →移動支援	R6年度は希望が挙がらなかったが、R7年度は1件希望が挙がっているため実施する予定である。

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害に備えての準備	胆振東部地震の反省を活かし、法人内のBCMを基に事業所内のマニュアルを整備します。	BCP（災害・感染症）についてはマニュアルを作成している。また、それぞれについて研修と訓練を実施している。
	緊急時のご家族との連絡、連携、協力を視野に入れていきます。	家庭とはフィットマンの携帯電話でつながりを設けているが、Lineも登録し電話回線とインターネット回線の両方を使用できるよう準備している。
	法人各事業所・部署の災害後方支援に携わる事を視野に入れ、BCMに反映します。	R6年度は大災害は起きていないが有事の際は後方支援に動くよう事業所内の職員と確認している。

## 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
「学び」から実践での成功体験につなげる	利用者の生活支援や余暇支援をサポートしていく上で必要不可欠となるご本人の“意思を汲み取るための支援”（意思決定支援）について、学習する機会を四半期に一度の頻度で設けていき、利用者と共に職員もワクワク出来る様な成功体験へとつなげていきます。また、そういった成功体験を重ねていきながら、帰属意識を高めつつ楽しい職場づくりへとつなげていきます。	R6年度は法人全体で意思決定支援実践報告集の作成に取り組んだ。事業所内では、その内容の共有をはじめとして毎月の会議にて利用者の話題に触れることを大切に実施してきた。その結果、利用者が行動を起こしたとき、起こそうとしたときに「何をしたいのかを見守る」姿が職員に見られるようになってきた。
業務の整理（直接支援以外での残業を軽減）	月間予定の中で、会議録等の直接支援以外の業務を勤務内で行える様に業務指示を反映させていく。	職員を増員したことにより日常的に事務的な作業ができるようになっていたため今後も維持していく。

4. その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
指定居宅介護事業所としてのサービス提供	年間の目標件数～行動援護（650件）	<p>結果：年間803件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5年度の699件から104件増加</li> <li>・ 新規利用の2名のうち1名は月4回程度のプールを希望され実施している。</li> <li>・ フィットマン職員の増員により稼働できる日数も増えた。また、グループホームにて勤務した経験がある職員で当たったため、グループホーム利用者が抵抗なく希望を挙げてくれた。</li> <li>・ 上記の理由があり目標を大きく超えることができた。</li> </ul>
	年間の目標件数～居宅介護（180件） 《身体介護、家事援助、通院介助》	<p>結果：年間176件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5年度の177件から1件減少</li> <li>・ 定期利用を見込んでいた他法人の利用者が実家へ戻ることになり利用が無くなった。</li> <li>・ 新規で通院介助を希望される契約が3件あった。</li> </ul> <p>上記理由により概ね年間の計画を満たすことができた。</p>
移動支援事業	年間の目標件数～520件	<p>結果：年間511件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5年度の526件から15件の減少</li> <li>・ 令和5年度は、休日に散歩を希望される方が多かったが令和6年度は買い物や観光を目的とした外出を希望される方が多かった。そのことにより休日の日中一時支援では1名体制での対応が中心となり今まで行っていた散歩の移動支援が減少した。</li> <li>・ 上記の理由にもあったが概ね目標件数は達成できている。</li> </ul>
日中一時支援	年間の目標延べ人数～3050人	<p>結果：年間3167人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5年度の3023人から144件増加</li> <li>・ 18歳となりつなぐの毎日利用からフィットマンの平日毎日利用に切り替わった利用者が1名。週1回程度の他法人からの利用が2名増加した。そのため、体調不良や家庭の事情で1か月ほどお休みする利用者がいたが、目標件数は大幅に越す結果となった。</li> </ul>



# 令和6年度事業報告

つなぐ



【令和6年度を終了して】

今年度は事業所内のレベルアップを図るため、職員の資質向上に力を注ぐために、各種研修への積極的な派遣とそれをフィードバックすることを重点的に取り組んできた。支援会議を中心に現場職員と支援目標や支援内容を話し合っていくことで、支援の質を高めていく取り組みをしている。パート職員が1年以上経験を積んできていることもあり、支援の質は徐々に高まってきている。今後も時間をかけて取り組んでいく必要があると感じている。収入に関しては、例年通り11月12月は子どもたちの所属する学校で感染症が大流行しており、学級閉鎖学校閉鎖、本人たちの体調不良が重なり稼働率に著しく影響した。例年同様の時期は訪れてしまうが、事業所内で感染が広がらないよう感染予防策を十分に実施し、事業所停止にならないよう十分留意していく。

職員が働きやすく働き甲斐のある職場となるよう、今後も心理的安全性の高い職場づくりをスタッフ全員と一緒に行っていきたい。また、人員不足による職員負担や支援現場での不安を解消するため、6月からタイミーを導入し、昨年度と同様に有償ボランティアの募集やインターンシップの受け入れを積極的に行ったところ、28名の学生がボランティアに来てくれている。今後も学生の受け入れを積極的に行い人員不足の解消と併せて障がい児支援の魅力発信と法人の魅力発信を支援現場から行っていきたい。

【令和6年度稼働状況】

※注：   は入力しないでください。

1. 児童発達支援事業

月	定員	稼働日数	月間総定員 (人)	延利用者数 (人)	稼働率 (%)	備考
4	10	22	220	1	0.5%	
5	10	21	210	9	4.3%	
6	10	21	210	8	3.8%	
7	10	23	230	8	3.5%	
8	10	20	200	6	3.0%	
9	10	21	210	6	2.9%	
10	10	23	230	7	3.0%	
11	10	21	210	0	0.0%	
12	10	21	210	4	1.9%	
1	10	20	200	4	2.0%	
2	10	19	190	4	2.1%	
3	10	21	210	9	4.3%	
合計			2,530	66	2.6%	

2. 放課後等デイサービス

月	定員	稼働日数	月間総定員 (人)	延利用者数 (人)	稼働率 (%)	備考
4	10	22	220	241	109.5%	
5	10	21	210	244	116.2%	
6	10	21	210	223	106.2%	
7	10	23	230	258	112.2%	
8	10	20	200	220	110.0%	
9	10	21	210	215	102.4%	
10	10	23	230	246	107.0%	

11	10	21	210	205	97.6%
12	10	21	210	206	98.1%
1	10	20	200	212	106.0%
2	10	19	190	226	118.9%
3	10	21	210	243	115.7%
合計			2,530	2,739	108.3%

【令和6年度予算見込】

※令和6年度を終えて

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	287 千円	決算額	824 千円	対予算	537 千円
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標稼働率110%に届かなかったため、次年度は利用児童を増やし稼働率の向上を目指していく。</li> <li>・保護者との連絡ツール各種と支援計画を作成するため、AIを搭載した支援計画作成ソフトを導入し業務のICT化を図り、業務効率アップ・職員負担の軽減・事業所の支援の質を高めていく。</li> </ul>					

【令和6年度事業報告】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援利用児童2名と契約を結びます。</li> <li>・放課後等デイサービス利用児童の利用ニーズがあった場合は相談に応じていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児童を2名契約するために、北広島市こども発達支援センターや市内の相談支援事業所へ空き状況の連絡を毎月行っていきます。</li> <li>・午前中から未就学児童の受け入れを始めていきます。</li> <li>・利用年齢の下限設定をしていた4歳の枠を3歳に変更していきます。</li> </ul>	<p>児童発達支援は4月に1名、12月に1名、3月に1名契約。いずれも年長児童のため、令和7年度は放課後等デイサービス以降。</p> <p>放課後等デイサービスは6月2名、1月1名、3月に1名と契約している。新規利用契約6名、令和6年度退所者2名。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な知識、技術の向上を目指し利用児童にとって適切な支援を考えられる事業所を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に合わせて外部研修へ積極的に派遣していきます。</li> <li>・外部研修での学びは、職員会議等で他職員へ必ずフィードバックすることで、学んだ知識をさらに深めるとともに、人に伝えるスキルを高めていきます。</li> <li>・利用者ケースを全職員で検討する機会を増やし、事業所全体で根拠を持った支援実践を行います。</li> </ul>	<p>第1四半期はオンラインセミナーに正職員4名が参加している。パート職員3名が強度行動障がい基礎研修を受講。令和7年度はパート職員3名が強度行動障がい基礎研修を受講予定。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自身が自分の人生の主演であることを自覚するために、子どもと対等な立場で意見交換する姿勢を全職員が身に付けていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々子どもと接する中では子どもの意見を否定せずまずは話を聴く耳をもちます。そのうえで伝えなくてはいけないことに対しては子どもが分かりやすいように伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉未経験者や新規採用職員に対してのOJTを引き続き実践しながら支援の姿勢を身に付けていただく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課長会で将来法人のサービス利用を希望する子ども達の情報共有の場を設け、スムーズなライフステージの移行を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの個別支援計画書を基に情報共有をしていきます。</li> <li>・ご家族が将来の福祉サービスをイメージできるよう、各事業所の現状を把握してつなぐからご家族に発信していきます。</li> <li>・法人内サービス調整会議を開催いたします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への情報提供やニーズの聞き取りは実施しており、日中活動から居住系サービスとの連携の元随時見学につながっている状況を継続していく。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験プログラムを通して、将来“働く”ことをイメージすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人障害福祉サービス（ジョブ、セルフ、デイセンター、コラボ）の日中活動を体験できるような活動を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休みにプレ・ジョブ（職業体験）を実施している。ご家庭から公表をいただいている活動であるため、次年度も継続していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向けの研修・講習・茶話会を運営していきます。</li> <li>・きょうだい参加型イベントの開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向けに半年ごとに勉強会や茶話会を実施し子どもへの正しい向き合い方を学ぶ機会を設けていきます。</li> <li>・ご家族への個別懇談を半年に1度開催します。</li> <li>・家族参加型イベントの開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の夏祭りで家族15組が参加。きょうだい児も5組参加。ご家庭から好評をいただいているため、次年度も実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用している子どもときょうだいが、一緒に過ごす時間が楽しいものだと感じられるようなイベントを企画していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用している子どものきょうだいも一人の子どもとしてその子らしく育ていけるよう、長期休みや土曜日イベントの時間を活用して利用している子どもたちと楽しく参加できるイベントを企画していきます。きょうだい参加イベントを夏祭りに開催します。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーリフトケアの視点を支援現場の中に浸透させていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーリフトケアを学ぶ研修を実施します。</li> <li>・ノーリフトケアの理念を学んだうえで、つなぐの環境で見直せる部分について意見を出し合い環境や支援方法の見直しを行っていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能訓練専門委員を中心に現場でのノーリフトケアを波及させている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用して、家族との情報共有の効率化を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳アプリを導入し、既存のアナログの連絡ノートから、アプリやクラウドでの情報共有と情報管理を行い、日々の子どもの様子がスピーディーかつよりわかりやすい形で情報を発信していくことを目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金獲得のため、北海道から所要額調査を依頼され5月に申請をしている。10月からICTに先駆けてスマホを導入しLINEアプリを用いて連絡方法を拡充している。令和7年度から本格的にICTアプリを導入していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>公用車に安全装置を装備し、送迎サービスの安心安全を強化します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの車内への置き去り防止装置を導入し、送迎サービスの質を高めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題なく実施できているため今後も継続していく。</li> </ul>

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の活用</li> <li>他の福祉施設とのパートナーシップを結び双方にとって事業所の垣根を超えた地域福祉の協働を目指すことのできる土台を作ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の事業所の見学や共同でイベントを開催する。</li> <li>・高齢者施設とのつながりを持つ。</li> <li>・ボランティアが活動やイベントの中で活躍する場をつくる。</li> <li>・市内で開催されているイベントの情報収集を行い、積極的に参加していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他事業所からの見学2件実施済み。つなぐスタッフの他事業所の見学を毎年度実施していく。今年度は市内事業所のサーカスを見学した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ボランティア、市民ボランティアを毎月土曜日に募集していきます。</li> <li>・市民の方が参加しやすいイベントを企画して、気軽に足を運べる事業所を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生や市民向けのボランティアシステムを作り、ボランティアをした人が情報を得やすいようなシステムづくりを法人内ボランティア推進委員会と連携して作り上げていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの受け入れ28名。</li> <li>・リピーターが多い状況。</li> <li>・学生の関心が高いため次年度も継続して実施していく。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ制度のシステムを確立し、学生に向けて“法人理念や企業文化、仕事内容、やりがい等を伝える場として活用しながら、新採用の採用率向上を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップを通じて“働くことへの理解を深め、自らの能力を見極める”“実践力を向上させる”“福祉業界や職種に関する理解を深める”“企業の魅力を知る”という4つの目的を果たせるようインターンシップ用プログラムを作成し実践していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名寄市立大学から1名のインターンシップを2回に分けて受け入れている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北広島市自立支援協議会への参画。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者自立支援協議会子ども支援部会に参加し、市内の実態把握を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援協議会には連絡しているが、参加のタイミングが合わず未実施。</li> </ul>

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災対応の準備のため、備品の管理やマニュアルの整備を行い、災害発生時に対応できるよう準備を進めていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄品の整備担当者を配置していきます。</li> <li>・法人BCMをもとに事業所としての役割を会議で職員周知し、マニュアルをLineでそれぞれが閲覧できるように整備していきます。</li> <li>・緊急時に備え、保護者との連絡や避難場所の明確化など保護者との緊急時の情報ツールを確立していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に感染症対応の研修と訓練を実施している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の地域連携の意識を強化するために、様々な研修に参加していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中にある福祉事業所として、どのような役割が担えるのかを検討しながら、災害時マニュアルを整備する。</li> <li>・事業所としても地域の防災研修に子ども達と参加していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供もが参加して理解しやすい研修が見当たらなかったため未実施。</li> <li>・職員は事業所内でBCPに関する研修と勉強会を実施している。</li> </ul>

### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>“楽しくわくわくする職場づくり”を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジティブフィードバックの推進。</li> <li>・1on1ミーティングの実施。</li> <li>・運営会議の開催。</li> <li>・有給消化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジティブフィードバックを意識した職員同士の関わりを意識できる様、日々のミーティングで実施している。11月から毎月成長面談を10分間実施している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習受け入れやボランティアの受け入れを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生やボランティアに対する積極的なアプローチをかける。</li> <li>・体験や実習の際には楽しさややりがいを伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生の受け入れはない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人及び事業所の魅力を学生向けに発信して、関心を引き寄せ、職員雇用や福祉に興味関心を抱ききっかけづくりにつなげていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSを定期的に更新し、事業所の取り組みが魅力的だと感じてもらえるような情報発信をしていきます。</li> <li>・ホームページのフォトギャラリーを毎月更新していきます。</li> <li>・毎月土曜日（2回）に有償ボランティアを募集していきます。</li> <li>・インターンシップの仕組みづくりを行い、積極的な受け入れ態勢を構築していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSでの発信は4月に1件のみであったため、最低でも月に1回程度の発信を目指して記事の作成を行っていく。</li> </ul>

<p>・専門的な人材育成を育成していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員本人の為のジョブローテーションを年に1回実施していきます。</li> <li>・子どもの将来をイメージするために、令和6年度も四通所事業所へのジョブローテーションと、職員自身の見聞を広げるためのジョブローテーションを実施します。</li> <li>・通所統括部長と経理部と連携して、事業運営や財政状況について緊密に連携し、安定した事業運営を目指します。</li> <li>・課長会で経営に関する勉強会や情報共有を行っていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブローテーションの実施を計画しているが、コカ・コーラの就労支援の体験のみで終わってしまったため、次年度は他事業所でのジョブローテーションを実施していく。</li> </ul>
----------------------------	---	---

#### 4. その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
<p>苦情解決事業</p>	<p>8月に職員の送迎時の保護者対応と、つなぐの連絡システムに関する苦情を受け付けている。</p>	<p>初動対応が遅かったことで要望から苦情につながってしまったケースであったが、苦情解決に向けて申出人との丁寧な対話を重ねることで問題がこじれることなく収束することができた。また、苦情内容を基に事業所の支援や仕組みを見直すきっかけをいただけたことで、スマホ導入や保護者支援の質を高めるきっかけをいただくことができた。今後も小さな要望をないがしろにせず、一つ一つに丁寧に対応していける事業所を目指していきたい。</p>



令和6年度事業報告

就労センタージョブ



【令和6年度を終了して（総括）】

退所者が5名となり、目標数値65名を達成するどころか定員も満たすことができませんでした。  
 選ばれる事業所として、サービスの魅力を再構築していく必要があると考え、職員の支援力・  
 作業の魅力創出・工賃の向上をテーマにレベルアップをはかっていきます。  
 また、事業再編として就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型と生活介護の多機能事業所と  
 します。過去2年の実績がほぼなく、ニーズに合わせて事業を整理し、より効率的な事業運営として  
 いきます。

【令6年度稼働状況】

は入力しないでください。

1. 就労センタージョブ（就労移行支援）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	6	22	132	0	0.0%	
5	6	23	138	0	0.0%	
6	6	22	132	0	0.0%	
7	6	23	138	0	0.0%	
8	6	23	138	0	0.0%	
9	6	22	132	0	0.0%	
10	6	23	138	0	0.0%	
11	6	22	132	0	0.0%	
12	6	23	138	0	0.0%	
1	6	23	138	0	0.0%	
2	6	20	120	0	0.0%	
3	6	23	138	5	3.6%	
合計			1,614	5	0.3%	

2. 就労センタージョブ（就労継続B型）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	48	22	1,056	1,169	110.7%	
5	48	23	1,104	1,221	110.6%	
6	48	22	1,056	1,147	108.6%	
7	48	23	1,104	1,127	102.1%	
8	48	23	1,104	1,124	101.8%	
9	48	22	1,056	1,039	98.4%	
10	48	23	1,104	1,178	106.7%	
11	48	22	1,056	1,106	104.7%	
12	48	23	1,104	1,121	101.5%	
1	48	23	1,104	1,052	95.3%	
2	48	20	960	1,015	105.7%	
3	48	23	1,104	1,134	102.7%	
合計			12,912	13,433	104.0%	

### 3. 就労センタージョブ（生活介護）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（％）	備考
4	6	22	132	21	15.9%	区分4
5	6	23	138	22	15.9%	〃
6	6	22	132	21	15.9%	〃
7	6	23	138	23	16.7%	〃
8	6	23	138	18	13.0%	〃
9	6	22	132	19	14.4%	〃
10	6	23	138	22	15.9%	〃
11	6	22	132	21	15.9%	〃
12	6	23	138	21	15.2%	〃
1	6	23	138	21	15.2%	〃
2	6	20	120	19	15.8%	〃
3	6	23	138	22	15.9%	〃
合計			1,614	250	15.5%	

#### 【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	804 千円	決算額	△ 24,454 千円	対予算	△ 25,258 千円
<p>福祉部門では退所者と稼働率未達成の影響により収支△8,000,000円。利用者10名増を目標とする。          就労部門では、収入△14,000,000円/支出4,000,000円オーバー。          販売価格の見直し（GHの食事・弁当・レストラン商品・パン）を実施した。          今後は、焼成量の調整・原材料仕入れの見直し・商品ロス率15%以下を達成するため          販売目標・販売計画を作成し、販売管理を正確に実施していきます。</p>					

#### 【令和6年度事業計画進捗状況】

##### 1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
権利擁護への高い意識レベルを持つ取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護をすべての支援の基本に据えるチームづくりをします。その実践の振り返りを通して実践力の向上を図ります。</li> <li>・権利擁護ミーティングを月1回開き不適切支援への気づきの向上を図ります。</li> </ul>	支援の柱の振り返りや利用者支援時の呼称の徹底、作業の指示や声掛けや話し方の声のトーンなどを考え、不適切支援に繋がらないように継続して会議などで伝えていきます。
新規利用者の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用相談センターと連携し高等養護学校や就労相談事業所にむけて、見学のご案内やPR活動を行います。</li> </ul>	見学や説明会を実施して、6名の方が体験実習を利用しています。また次年度の利用につながる可能性がある実習生を受け入れ、1名の新規利用者獲得へつながっています。
通所サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望される方へ送迎サービスを提供し通所できる機会の保障をします。</li> <li>・利用者個々の体力や目的に合わせて勤務時間や送迎時間の対応を行います。</li> </ul>	送迎利用率は約85%になっています。稼働率とも連動しているため、今後も、送迎を継続案内しながら、利用者の出勤時間に合わせて、できる限り送迎体制を組んでいきます。
安定した稼働率確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のケースに職員全体で向き合い、根拠ある実践ができる職員集団を目指します。そのためにも、関係機関や専門職との連携体制を強化します。全体の平均稼働率88%を目指します。</li> </ul>	稼働率は、未達成となっています。魅力ある支援と作業の提供。また家庭・GHとの連携を強化することで、短い時間でも通所できるようなり取りを増やしていきます。
就職や利用者の自己研鑽に向けたプログラムの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>講習で学んだことを作業での体験とリンクさせていきます。</li> </ul>	作業と希望する講習プログラムがリンクしていけるように、利用者本人のニーズを確認しながら講習を提供していきます。

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種イベントに参加し地域連携・社会参加・商品PRの取組みを強化します。</li> <li>・事業所のみではなく、地域のひと・もの・ことと協働して、地域の活性化につなげていきます。</li> <li>・法人内・外の方で、アート活動したい方を募り、一緒に作品づくりを行います</li> </ul>	<p>レストランを軸とした取材やSNSの発信により、多くのお客さんが来店してくれています。また、にじのあとリエでのアート活動も定着してきて、魅力の一つとして感じてもらえる機会となっています。今後もジョブを通して障がいのある方の活動を知ってもらうきっかけづくり出せるよう工夫していきます。</p>
施設外就労をおこない交流	<p>エスコンフィールド内のコカ・コーラと連携して、利用者の作業できる場を増やして、地域の方と作業を通して交流し、理解促進に繋がります</p>	<p>利用者の仕事のモチベーションに繋がり、売り子さんやコカ・コーラ職員とのかわりが増えてきている。次年度も継続していきます。</p>

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
非常時の対応	<p>感染症・災害・火災など事業所での非常時マニュアルの整備点検を行います。</p>	<p>マニュアルの再確認を職員会議で再度確認していきます。</p>
	<p>法人のBCMに基づく事業再開を想定した計画を策定します。</p>	
	<p>年2回計画的な防災訓練を実施します。</p>	<p>2回実施済。</p>
	<p>年1回BCM訓練を実施します。</p>	<p>感染症のBCM訓練を実施済。</p>
災害時における備品管理	<p>冷凍庫用電源、水道水の確保はあるが、ガスの停止時、暖房、調理用のガスを確保していく。</p>	<p>1台、プロパンガスの使用できる準備は対応済。</p>

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員の知識向上	目標管理シート等の面談を通して、自己研鑽する項目を確認して、職員の研修派遣できる機会を増やします。	外部研修等に参加済
	資格取得に向けて、勤務調整を積極的に行います。	今年度は、資格取得の希望がなかったため、次年度も継続して資格取得に向けた勤務調整を行いやすいように職場環境を作っていきます。
	商品開発の研修会に参加して、技術の向上に努めます。また、市場調査を積極的に行い、ニーズの傾向を把握します。	パンの製造技術を競う大会に出品。今後も、商品開発などの研修、イベントに参加します。栄養士は、食品展示会に参加済。
有給休暇の取得	働きやすい職場であるために、リフレッシュ休暇以外でも有給休暇を取得できるように80%以上の取得を目指します。	今後も希望を聞きながら有給取得しやすい職場作りを行っていきます
ノーリフトケアの推進	事業所内のノーリフトケア計画を作成します。	ノーリフトケア計画に沿って、実施済。
	作業環境面の確認を行い、機能訓練センターと連携を図り、腰痛予防に努めています。また、新規建物内の作業環境についても安全に配慮された、身体にやさしい環境を作り上げます。	職場内の環境に対して機能訓練センターとの連携は未実施。物品の運搬については、抱え込み過ぎないように安全に配慮していきます。
楽しい職場づくり	心理的安全性を踏まえたチーム作りの1つとして、「まずやってみよう！」という気持ちを尊重し、いつでも職員が話し合えるように、具体的な行動に移せる環境をみんなで作り上げていきます。	新商品の内容やイベントの期間など、現場担当者で企画を調整したりする機会が増えてきています。今後も継続して取り組んでいきます。
法人理念の周知	4半期ごとに全体会議内での読み合わせと、事業計画の進捗の確認を行い職位に関わらず、同じ方向を向いて事業運営に関われるようにする	今後、会議の中で今回の事業所状況を周知済。次年度も法人理念も周知を継続する。

#### 5. その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況

# 令和6年度事業報告

## 北広島セルプ



【令和6年度を終了して（総括）】

B型、自立訓練ともに予定の稼働率を確保できたことにより、自立支援給付費は増額した。また、就労事業においても製袋事業を中心に、年間を通し安定的な収入と作業の確保ができた年度であった。利用者支援においても、ご本人の希望や想いを中心に支援する体制の中、ご本人やご家族からの苦情もなく、充実した就労支援が展開できたと総括する一方、物価の高騰や家賃支払い額の増額など、世情通りの影響を受け、支出額が大きく、収支全体の目標は未達成となった。利用者の平均工賃は向上することができたものの、工賃向上計画における金額に達しなかったこともあり、R7年度における目標工賃達成加算（10単位/1日）を算定できなくなってしまった。R7年度の課題とする。

【令和6年度稼働状況】

※注：  は入力しないでください。

1. 北広島セルプ（事業名：就労継続支援B型）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	54	22	1,188	1,410	118.7%	
5	54	23	1,242	1,485	119.6%	
6	54	22	1,188	1,411	118.8%	
7	54	23	1,242	1,506	121.3%	
8	54	23	1,242	1,414	113.8%	
9	54	22	1,188	1,388	116.8%	
10	54	23	1,242	1,522	122.5%	
11	54	22	1,188	1,427	120.1%	
12	54	23	1,242	1,479	119.1%	
1	54	23	1,242	1,491	120.0%	
2	54	20	1,080	1,299	120.3%	
3	54	23	1,242	1,446	116.4%	
合計			14,526	17,278	118.9%	

2. トライ（事業名：自立訓練(生活訓練)）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	6	22	132	20	15.2%	
5	6	23	138	17	12.3%	
6	6	22	132	14	10.6%	
7	6	23	138	20	14.5%	
8	6	23	138	16	11.6%	
9	6	22	132	17	12.9%	
10	6	23	138	19	13.8%	
11	6	22	132	20	15.2%	
12	6	23	138	17	12.3%	
1	6	23	138	15	10.9%	
2	6	20	120	13	10.8%	
3	6	23	138	15	10.9%	
合計			1,614	203	12.6%	

### 3. 全体

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（％）	備考
4	60	22	1,320	1,430	108.3%	
5	60	23	1,380	1,502	108.8%	
6	60	22	1,320	1,425	108.0%	
7	60	23	1,380	1,526	110.6%	
8	60	23	1,380	1,430	103.6%	
9	60	22	1,320	1,405	106.4%	
10	60	23	1,380	1,541	111.7%	
11	60	22	1,320	1,447	109.6%	
12	60	23	1,380	1,496	108.4%	
1	60	23	1,380	1,506	109.1%	
2	60	20	1,200	1,312	109.3%	
3	60	23	1,380	1,461	105.9%	
合計			16,140	17,481	108.3%	

#### 【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

令和6年度事業活動収支差額	予算：35,221千円	決算：21,362千円	差額：-13,859千円
<p>自立支援費給付費および、就労支援事業収入ともに予算は上回ったものの、収支差額としては予算未達成となった。要因としては、人件費、事務費を中心に支出額が大きかったことが影響している。人件費については、年度途中の退職者の影響で、既存職員の超過勤務が増えたこと。また、新規事業に向けての人材採用や物品の調達での支出。さらに、家賃払いの増額等、年度途中での多種変更も大きくあったことが影響している。</p>			

#### 【令和6年度事業計画進捗状況】

##### 1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
事業所のセールスポイントを深める	①就労支援の推進	3名の利用者がツルハでの実習を継続中
	②多様化する就労ニーズに適した作業提供	全利用者に的確な作業提供ができています
	③地域との繋がりを生み出す取り組み	ポッチャを通じた連携を実施
	④困難な事情を抱える方でも安心して通える事業所	年度の途中で2名の新規利用者の受け入れを実施
	⑤地元事業所や地域との繋がりを大切に	商工会青年部また、商工業者との協働作業を実施した
	⑥北海道教育大学岩見沢校との連携	積極的な連携は図れなかった
安定した事業運営	①体制維持	B型：54名、自立：6名。想定以上の稼働であった
	②新規作業への取り組み実施	検討するものはあったが、取り組みにはならず
	③所有建物の有効利用	セルプ本体と製袋室にて作業展開を実施
新規就労作業の開拓と展開	①作業開拓の継続	事業所体制とのマッチングを意識して取り組んだ
	②経済的・社会的な自立を支援する仕組みづくり	他業種との連携は継続するも仕組みまではいかず
	③費用対効果を意識した作業受注	単価交渉を実施。数社の単価上昇を実現した
	④ボールパーク（エスコン）での就労開拓	北海道コカ・コーラとのタイアップを維持

稼働率の維持・向上	①B型117%、自立97%を目指す	目標値を上回った
	②土曜稼働日での『楽しみ』の提供	可能な限り実施し、土曜日の稼働率は上昇した
工賃の向上	目標：20,000円/月額	実績：20,698円であった
	①作業種の見直し	費用対効果の低い作業種を選別し受注を調整した
	②受注時の請負条件の見直し	加工賃上昇のための交渉を実施、実現した
	③製袋事業の安定化	北広島市と契約。作製を実施した
企業等への一般就職	④新規事業・新規作業の開発研究	新事業への取り組みを取り入れた
	①就職希望者への個別計画の作成	3名実施
	②就労支援プログラムに基づく支援	1名実施
通所サービスの向上	③職場開拓担当者の配置	1名配置
	①送迎サービスの拡大	本人の身体状況および家庭の状況により柔軟に対応した
	②感染症対策を講じた事業所単独運行	全日事業所単独での送迎を実施した
施設外就労	③緊急時対応の研修	研修を実施し備品完備を徹底した
	①市内企業との持続可能な関係構築	1社実施。1社終了となった
	②より高い工賃作業の確保	最低賃金をベースに単価を算出し交渉した
家庭との連携	③企業就労を意識したスキルアップ	コカ・コーラの作業にて実践中
	①連絡ノートの活用	要望あるご家庭との実施を継続
	②広報誌の定期発行	セルフ通信の発刊を実施。継続
	③参加型行事の企画	ご家族との合同行事は自粛した
権利擁護への意識付け と支援のレベルアップ	④利用者の様子を動画で紹介	ご家族との面談は希望者のみ実施した
	①隙間のない情報共有	利用者状況、家族状況はタイムリーに共有できた
	②権利擁護会議の設定とチーム支援の促進	毎月実施した

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
住みやすいまちづくりのための地域との連携	①専門性のノウハウの提供	市内の小学校（特別支援学級）との連携を実施
	②労務提供	ゴミ拾いに参加
	③物品の貸し出し	要請ある事象にトラックや人材の提供を実施した
	④行事等の企画および共同参加	要請ある事象には可能な限り対応した
	⑤障害福祉、事業所への理解促進	関係した方々へは事業所の説明を実施した
	⑥災害時における地域との協力関係の構築	実績なし
	⑦市内事業者との連携事業の継続	商工会青年部との連携を継続

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
非常時対応	①非常時マニュアルの点検・整備	マニュアル整備を実施
	②BCM計画の策定	計画を策定した
	③地域の防災訓練への参加	未実施
平常時対応	①点検およびマニュアルの徹底	日常的に点検を実施
	②日常的な気づきの発信と受信	タイムリーな共有ができた

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域活動	①地元企業での物品優先購入	可能な限り実施した
	②市内事業者との情報交換	積極的な関わりを展開した
	③事業所への理解促進	積極的にPRした
	④市内事業者の商品受託販売	まいびーグッズの取り扱いを継続
職員育成	①資格取得の推奨	3名介護福祉士に合格
	②外部研修への参加の推奨	多くの現場職員が研修参加できた
	③資格取得に向けた勤務調整	実施できた
	④法人内外の研修への積極的参加	可能な限り実施できた
	⑤法人外の職員との交流	役職者を中心に実施できた
	⑥自己啓発研修の実施	会議の中で実施できた
	⑦会議内での情勢報告	知り得る範囲で共有している
	⑧経営主体の運営会議の開催	毎月実施できた
	⑨コスト意識の向上	日常的な声掛け、啓発を実施した
	⑩サービスの質の向上を図る事業所内委員会	小委員会を展開
	⑪チャレンジする職員集団	風通しの良い事業所づくりを心掛けた
職員確保	①実習生の受け入れを積極的に行う	100%以上の実績ができた
	②実習生へ知・友人の紹介を依頼	可能な限り声掛けを実施した
	③行事企画の案内告知	積極的に展開せず
	④新規職員採用への紹介活動	中途での職員採用があった
	⑤ボランティアの受け入れを積極的に行う	希望無し
有休の計画的取得	年間80%の取得を目指す	達成できた
ノー残業デーの設定	週1回水曜日に設定	実施できた
情報の発信	①事業所見学会等のPR活動	未実施
	②SNSの利用	未実施
	③広報誌の発送	定期的に実施できた
ノーリフトケアの推進	①委員会との情報共有を密に	実施できた
	②事業所内での計画を作成、実施	作成できた
	③必要物品の購入検討	トイレの手すりを設置

#### 5. 就労および事業収入の維持向上を図る取組

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
運営会議による情報の共有	①利用者稼働および就労会計の収支の確認	毎月主任以上の役職にて共有した
	②改善の余地がある際の即時対応	対応した
	③加算報酬を的確に利用し運用する	可能な限り対応した

#### 6. 安定的な事業運営資金の確保

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
ロスの削減	①自立支援給付費における経費の削減と加算の取得	日々実践した
	②経費の精査を促進	令和7年度へ反映している

## 令和6年度事業報告

障がい者就労支援センターめーでる

(委託相談)



令和6年度 障がい者就労支援センターをめーでる（委託相談）

【令和6年度を終了して（総括）】

就労実績は53名（一般就労27名A型事業所26名）。前年度より15名増となっている。  
 就労継続支援、就労移行支援事業所で訓練を希望する方が今年度は多く、58名の方を就労事業所に繋げた。  
 前年度より14名多くなっている。  
 居住サポートでは、家族間のトラブルで親から離れて暮らしたいという方もいて、北広島市外のGHへ繋げた。  
 自立支援協議会では精神がいにも対応した包括ケアシステム、就労部会に所属し、それぞれの部会の事務局として参加した。

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	166 千円	決算額	△ 476 千円	対予算	△ 642 千円
---------	--------	-----	----------	-----	----------

令和6年度の委託費は税込み12,650,000円だったがマイナス決算となった。  
 北広島市には人件費含め経費の詳細を提出しているが大幅な委託費アップには繋がっていない。  
 経験が浅い若い職員を配置して人件費を抑えることも出来るが、多々ある困難ケースには対応が難しいため、令和7年度は若い相談員の育成にも力を入れていく。  
 次年度の委託費については早い時期から市と協議していくこととする。

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
相談支援	各関係機関との連携を深めながら事業所内でもチームを組み、助け合い協力しながら支援を行います。 不動産会社に物件の紹介依頼、入居する際の手続きの支援等、障がいがある方の暮らしに関わる機関の連携体制作りを行います	就労支援ではケースに応じて各機関と連携しながらチームを組んで支援することが出来た。生活支援ではご本人の思いに寄り添い、意思意向を確認しながら住まいの相談に対応した。
就労支援	個々の課題に応じながら就職するために必要な準備支援（履歴書、面接、身だしなみ等）や就労支援を行います 令和6年度の就職目標数値は25名とします	就労実績は53名の方を一般就労と就労継続支援A型事業所へ繋げた。目標件数の25名を大幅に上回ることが出来た。要因としては市外のA型事業所が閉鎖したことで北広島市内のA型事業所での就労を希望する方が多かったことや、就労移行支援事業所で訓練を経てから2年かけて一般企業に就労された方が多かった。

余暇支援	在職者で組織した「トーク会」を中心に余暇支援にも積極的に取組み、生活基盤の安定に向け支援を実施します 過度な感染防止策によって利用者の行動制約や権利侵害とならないよう協議します。	一般就労・A型事業所で雇用されている方を対象とした外出レクリエーションを実施し、B型事業所に通所されている方を対象としたレクリエーションは安価で参加できる内容を実施した。
人権の尊重と権利擁護	面談中に発信する細かな情報を聞き逃さず、些細な変化にも気付けるよう常にアンテナを張りながら聞き取りし、虐待防止に努めます	ご本人が不快な思いをしながら支援を受けていないか、不快な思いをしながら家族と過ごしていないかを面談時に聞き取りしながら虐待防止に努めた。家族間でのトラブルがある際はご家族にも障がい特性や接し方についてアドバイスを行った。

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
自立支援協議会	2か月に1度の就労部会会議に参加します 3か月に1度の精神障がい者にも対応した包括ケアシステムプロジェクトチーム会議に参加し、精神障がいの有無に関わらず、誰もが地域で安心して自分らしく暮らすことが出来るよう、支援体制を構築していきます また、障がいだけでなく介護分野等の多機関とも連携しながら包括ケアシステムの構築を目指します	就労部会の事務局として参加し、農福連携会議や新しい就労制度について出前講座を開催した。精神障がいにも対応した包括ケアシステム会議は毎月事務局会議に参加し、当事者や他機関と連携しながら活動内容を話しあった。
職員育成	役職者間で定期的に面談し、年間計画の進捗状況や業務達成に向けた意識を持って自分たちの役割を明確にします	職員個々に役割を決め、進捗状況を確認しながら業務過多になっていけば協力し合い、分散しながら業務達成に向けて取り組んだ。役職間で業務の進捗状況を適宜確認し合うことが出来た。

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害時の対応	行政の個別避難計画や、法人の自然災害時対応マニュアルにも沿いながら各部署と連携し、地域で暮らす障がいがある方の安全確保に努めます	災害訓練の外部研修を受け、受けた職員がめーでる会議で伝達研修を実施した。法人内の同じ地区の事業所の水害避難訓練に参加した。

4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
働きやすい職場づくり	困りごとや悩みを聞き取り、前向きな気持ちで楽しく仕事ができるよう必要な助言を行います	相談しやすい関係づくりを普段の関りから意識し、困りごとをすぐ相談できるチームづくりを行った。個々の思いを面談だけではなく休憩時間に声をかけたりなど場所を変えて思いをくみ取るようにした。
職員育成	どのような相談にも対応できるよう事業所内で学習会を実施し、各種制度の知識を高めます	外部研修に参加し、新しい知識や情報を得て、自分だけの知識にするのではなく会議等で発信し共有した。

## 令和6年度事業報告

障がい児・者支援センターをめーでる

(指定特定・一般相談支援事業)



【令和6年度を終了して（総括）】

令和6年度より相談室ここにを事業廃止し、支援センターめーでると統合し、障がい者だけだったが障がい児のサービス提供も始め、利用契約者増となった。また、相談員の体制を整えたことで高い本体報酬を取りながら事業運営を行った。年度途中で相談員退職が大きく影響し1人が担当する業務量が増えてしまったが全員で協力しながら令和6年度を終えることが出来た。

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	127 千円	決算額	2,732 千円	対予算	2,605 千円
<p>他機関より障がい児の計画移管依頼が増えていたが受ける側のめーでるも新規相談者が多く、すぐには対応できないこともあったが受ける時期をずらしながらも児童の移管を増やしていった。                  障がい者の新規作成依頼件数も多かったが断らずに全て受け入れたことが収入増にも繋がった。                  相談員4名配置で高い本体報酬を取りながら、年度中に主任相談支援専門員の研修を受けて配置加算も取り、大幅な加算増にも繋がった。</p>					

【令和5年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
サービス等利用計画	サービスを利用される方の意思決定を尊重しながら、その利用に向けサービス等利用計画を円滑に作成し、定期に定められたモニタリングを通して的確な相談支援を行っていきます。	ご本人の希望や思いを叶えていくために丁寧な聞き取りを行うことを大切にしながら必要なフォーマルなサービスに繋いだりインフォーマルなサービスに繋げたり情報を提供した。新規のご相談も多く、作成件数も増えたがなるべく時間を空けずに迅速に対応した。
基本相談業務	重度の障がいがある言語的コミュニケーションが苦手な方のケースや、家族の意向が強くなりがちな児童のケース等、本人の意思が表明されにくい方への意思決定支援を推進し、様々な方法でコミュニケーションを図る方に対して耳を傾け、本人の意思・語りを大切にします。また、生活する中で悩んでいることや困りごとを聞き取り、福祉サービスの情報や支援内容、他の機関との連携に関して助言・情報提供します。	福祉サービス利用相談以外に、金銭や医療面、家族間とトラブル等の相談も多く、それぞれの悩みの解決に向けて対応した。

人権の尊重と権利擁護	不適切な支援がなかったか毎日振り返る場を設け、自分たちの言動や、自分たちの支援の方向性が不適切な支援につながっていないかを確認しあいます。	日々の支援の中で不適切な支援に繋がるようなケースが外勤先でなかったか、自身の支援でもなかったかを振り返りした。インシデントになる事案も1件発生したため改善を図りながら全職員でも気をつけるよう統一した意識を持った。
------------	---	--

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域貢献	地域での行事や、法人が主に活動する貢献活動に参加し、地域住民や他機関と繋がりをもち、顔が見える関係づくりや地域ニーズの把握に努めます。	地域貢献部の活動に参加しながら法人が地域でどのような活動を行っているのかを知り、参加されている他機関の方や関係者の方とも繋がった。

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害時の対応	平時からサービス等利用計画作成やモニタリング作成の聞き取り時に、対象の利用者や家族の緊急連絡先、親族への連絡手段、災害時の避難方法の確認を進め、サービス等利用計画の基本情報に明記し記録するとともに、災害時非難行動要支援者の把握に努めます。災害時非難行動要支援者については、災害時に必要と想定される福祉サービスやその他の協力体制について、サービス提供事業所間や行政と情報を共有するよう努めます。	外部の災害研修に参加し、参加した職員がメールで会議で伝達研修を行った。訓練は法人内グループホームの水害被害訓練に参加した。サービス等利用計画の登録利用者様の基本情報には親族含め緊急時の連絡先を記載している。

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
働きやすい職場づくり	職員にとって心理的安全性が保たれた環境となるよう意見を出し合いながらチームワークの良い魅力ある職場を目指します	職員一人ひとりの業務に偏りが無い役職者を中心に、職員から面談や雑談の中から意見や悩みを汲み取り、チーム全体をまとめた。勤務時間を変更する等の働きやすい環境になるよう配慮しながら助け合えるチームづくりを行った。
職員体制	社会福祉士等の有資格者を専任の相談支援専門員として4名を常勤配置し、障がい児・者の相談支援にあたります。	高い本体報酬の機能強化型サービス利用Ⅰが取れる体制とし、行動障害支援・精神障害者体制加算、主任相談支援専門員配置加算を取りながら4名で計画相談業務を行った。



# 令和6年度事業報告

特別養護老人ホーム 東部緑の苑



【令和6年度を終了して（総括）】

令和6年度重点取り組み事項（事業目標）について、

1. 権利擁護を実践できるチームになる
2. 各委員会の活動意義を理解し、基礎的知識・技術を身につけて実践できるチームになる
3. “支援”に根拠を持たせて実践できるチームになる
4. “看取り援助”の目的・仕組みを理解してチームアプローチができる
5. 一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にすることの理解→浸透→実践ができる

事業目標は概ね順調に進捗、良好な達成状況。

【令和6年度稼働状況】

※注：   は入力しないでください。

1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（％）	備考
4	100	30	3,000	2,998	99.93%	入居0/退居1/入院5
5	100	31	3,100	3,046	98.26%	入居4/退居4/入院0
6	100	30	3,000	2,984	99.47%	入居1/退居2/入院0
7	100	31	3,100	3,021	97.45%	入居3/退居2/入院4
8	100	31	3,100	3,030	97.74%	入居3/退居2/入院3
9	100	30	3,000	2,910	97.00%	入居4/退居5/入院2
10	100	31	3,100	3,046	98.26%	入居2/退居2/入院1
11	100	30	3,000	2,971	99.03%	入居1/退居1/入院2
12	100	31	3,100	3,039	98.03%	入居5/退居4/入院2
1	100	31	3,100	3,023	97.52%	入居3/退居5/入院5
2	100	28	2,800	2,705	96.61%	入居3/退居3/入院2
3	100	31	3,100	3,005	96.94%	入居5/退居4/入院1
合計			36,500	35,778	98.02%	入居34/退居35/入院延べ27

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

令和6年度事業活動収支差額	33,452千（対予算△11,931千）円
---------------	-----------------------

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	45,384 千円	決算額	35,166 千円	対予算 △ 10,218 千円
①収入	：【予算518,744千円】に対し528,707千円（9,963千円）で達成			
②支出	：【予算473,360千円】に対し493,542千円（20,182千円）で未達成			
③事業活動収支差額	：【予算45,384千円】に対し35,166千円（△10,218千円）で未達成			
④入居者平均介護度	：【目標4.0】に対し令和6年4月1日時点3.7→令和7年3月31日時点3.6で未達成			
⑤年間目標稼働率	：【目標98.5%】に対し年間平均稼働率98.02%（令和5年度98.3%）でわずかに未達成			
⑥平均空室期間	：【目標10日間】に対し12日（令和5年度平均空室期間10日）で未達成			
⑦入院日数	：【目標240日/年、20日/月】に対し371日/年、31日/月で未達成（令和5年度238日/年、19日/月） 入院延べ人数27名（令和5年度入院延べ人数19名）			
⑧退居者数	：35名、内29名看取りによる退居（令和5年度退居者数32名、内24名が看取りによる退居）			
⑨入居待機者数	：令和6年3月末時点42名、待機者の平均介護度3.45			
①収入について、物価高騰支援金1,200千円、雑収入1,000千円、健康管理助成金1,000千円、医療連携加算・生産性向上加算収入1,300千円等を取りこぼしなく算定できたことでプラスとなっている。				
②支出について、人件費支出が対予算9,341千円オーバー、退職者を見込んでFスタッフを採用したが、想定より退職が少なかったため人件費が超過した。事務費支出が11,755千円オーバーとなったが、物価高騰、業務委託費値上げ、予算計上していなかった修繕費3,237千円、Fスタッフの手数料約5,000千円等が影響した。適正な労務管理（超過勤務）と外部委託業者の整理で支出削減に努めていく。				
④入居者平均介護度について、入居者の区分変更は状態に応じて適正に行われている。未達成の要因としては退去者の介護度に新規入居者の介護度が達していないことが大きい。 令和6年度退去者35名の平均介護度3.94（内看取りによる退去者29名の平均介護度4.03） 令和6年度新規入居者34名の平均介護度3.65				

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	結果
----	-----------	----

<p>権利擁護を実践できるチームとなる。</p>	<p>①令和3年度10月に発生した身体的虐待事案を経て、「入居者及び関係者の信用を2度と損なわない」ための活動を実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点取組目標であるIII-1-①～④について、活動の進捗ならびに妥当性をモニタリングする。</li> <li>・最低月に一度開催される運営会議（係長以上）、役職者会議（主任職以上及び多職種）、身体拘束適正化委員会、各ユニット会議にて重点取組目標に対する実践を評価する。</li> <li>・年に一度、事業所職員を対象とした「適切な支援を実践しつづけるために」という個人ワーク研修を実施し、次期取組内容に反映する。</li> <li>・法人が推進する対人援助メソッドである「しまケア」の理解→浸透→実践→評価を各ユニットならびに部署の運営計画に反映しながら進め、相手が心地良い支援につなげる。（丁寧語に根拠に基づく援助技術を織り交ぜる）。</li> <li>・法人権利擁護委員会の介入を求め、第三者の視点を取り入れた活動とする。</li> <li>・第三者評価の結果を事業活動に反映し、活動する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>i. 入居者、ii. ご家族、iii. 職員に対し、サービスの提供内容に関するヒアリングや、半期に一度開催される苦情解決事業内でその内容を共有、評価する。</li> </ul> </li> <li>・虐待防止研修計画書を作成し活動する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>個人ワーク研修は10月に全職員対象に実施している。</p> <p>年度中に法人権利擁護委員会の介入を求めることはなかった。</p>
<p>身体拘束の廃止ならびに適正に取り扱うための活動</p>	<p>②身体拘束適正化委員会を開催し、以下の活動で適正の可否を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書を作成し、活動する。</li> <li>・身体拘束に関わるフローチャートならびに発生時におけるPDCAサイクルの理解を促す。</li> <li>・福祉用具及びセンサー類の使用状況をモニタリングする。</li> <li>・「身体拘束の適正化」をテーマにした研修を原則2回以上開催し、理解→浸透→実践→評価する。（オンデマンド教材の活用を含めて）</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>研修は5回（4月、6月、10月2回、12月）開催している。</p>
<p>介護サービスに関する基礎知識・技術を理解し、実践できるチームとなる。</p>	<p>①認知症ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各ユニットの運営計画に研修の機会を反映し、アセスメントの視点から中核症状への配慮（支援）、行動心理症状の緩和につなげられる知識・技術を養い、実践できるようになる。</li> <li>※四大認知症の特徴に根拠つけた支援の実践。</li> <li>・オンデマンド教材ならびに法人スタンダード研修への参加を通して理解の促進、実践できるようになる。</li> <li>・認知症ケア基礎研修/認知症実践者研修/認知症実践リーダー研修に派遣する。</li> <li>※最低1名以上。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>認知症ケア基礎研修は3月に5名（Fスタッフ含む）実施</p> <p>実践者研修、実践リーダー研修は派遣なし</p>

	<p>②看取り援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看取り援助委員会の活動を通して、全職員が       <ol style="list-style-type: none"> <li>i. 基本指針の理解</li> <li>ii. 看取り援助のしおりの理解</li> <li>iii. 望みを叶える看取り援助の実践（多職種及び家族との協働）</li> <li>iv. 実践におけるフローチャートを理解し、他者に説明ができる状態にする。</li> </ol> </li> <li>・ケアプランならびに24時間の支援シートを適宜モニタリングし、その内容を医師や家族と共有して実践できる状態となる。</li> <li>・法人看取り援助推進委員会の活動と協働し、活動内容と制度要件との整合性を確認する機会とする。</li> </ul> <p>また、委員を招き、実践内容に介入してもらい、法人内に波及する。</p> <p>全職員を対象に看取り援助に関する勉強会を開催する。</p> <p>※スタンダード研修以外の機会。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会の活動とタイアップし、当事業所が実践する看取り援助に関する勉強会開催する（年2回以上）。</li> <li>・令和4年度版基本指針を活用する。</li> <li>・入居契約時及び適宜、入居者または家族へ看取り援助に関する意向を確認し、その結果を支援に反映する。</li> </ul>	<p>計画通りの進捗となっている。</p>
	<p>③口腔衛生管理/摂食嚥下</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が“噛み砕く/唾液と絡めて咽頭へ送り込む/飲み込む”機能など、構造、仕組み、支援上の留意点を理解し、説明ならびに実践できるようになる。</li> <li>・誤嚥性肺炎や感染症の予防を目的に歯科医や摂食嚥下専門医の助言に従い、口腔衛生管理と経口維持管理に取り組む。</li> <li>・摂食嚥下食事委員会の活動を通して、3ヶ月に一度勉強会開催し、各ユニット会議にて委員による伝達研修を開催する。</li> <li>・トロミ材の使用するタイミングや使用量や硬さの分類を理解し、安全に提供できるようになる。</li> <li>・安全な食事姿勢を理解する。</li> <li>・入居者（利用者）の食形態や飲み込むベース、一口量などの個性を理解する（ケアプラン/24時間の支援シート/支援内容一覧の活用）。また、モニタリングする。</li> <li>・口腔ケアの目的、必要性を理解した上で口腔ケア技法を習得し、道具の使途も説明できるようになる。 （器質的及び機能的ケアの理解）</li> <li>・誤嚥性肺炎による入院ゼロを目標とする。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>勉強会は6ヶ月に一度の開催となった。</p> <p>誤嚥性肺炎による入院は1名となっている。</p>

	<p>④ユニットケア（一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切に する支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニットケア推進委員会の活動を通して、ユニットケアが重要視するポイントの理解をはかる。</li> <li>・ユニットケアを推進するにあたり職員間の“基準”“価値”を近づけるため、勉強会の企画、実施を運営計画や研修内容に反映する。</li> <li>・テーマを決めて実践事例に基づくケーススタディーを通し、理解をはかる。（各ユニットの運営計画に内容を反映）。</li> <li>・ユニットケア推進センター主催の研修に派遣する。</li> <li>・入居者（利用者）の“その人らしさ”を理解し、サービス計画に基づく実践で保障していく。</li> <li>・ユニットケア理念と事業所の実態を運営会議及び役職者会議でモニタリングし、支援体制を採用する。</li> <li>・スタンダード研修の内容を委員会で監修し、実践する。</li> <li>・ユニットケア養成指定施設を見学し、得た情報を活動に取り入れる（ハード面、ソフト面、食事支援体制など）</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>ユニットケア推進センター主催研修（ユニットリーダー研修実地研修）へ2名派遣 養成指定施設の見学も実施できている（清明庵）</p>
	<p>⑤ノーリフトケアの推進→浸透→実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生委員会の運営計画による活動を通して、職員の「心理的安全性」「腰痛予防」「超過勤務」「有給取得」「環境改善（ノーリフト含む）など、働く環境をモニタリングする。</li> <li>・「心理的安全性の確保」に向けた取り組みは、各職員の個人レベルおよびチームレベル（各ユニット、部署）で運営計画に反映し、PDCAで取り組む。</li> <li>・ノーリフトケア推進委員会の活動を通して入居者（利用者）の視点で心地良い（拘縮の予防、皮下出血の予防、表情が見えるなど）移動、移乗、ポジショニングの手技を習得し、実践の標準化をはかる。</li> <li>・令和6年度末には全職員がスライディンググローブ/シート/ボードの使用方法及び留意点を理解し、説明でき、使用できる状態にする。</li> <li>・法人機能訓練専門委員会及び機能訓練センターに当事業所のノーリフトケア計画の活動に介入してもらい、理解促進、浸透をはかる。</li> <li>・令和6年度内に新規で各ユニット原則1名の床走行式リフト検合格者の増員（令和6年度期首時点で46名中16名）。</li> <li>・ノーリフトケア計画内に“これだけ体操”など、勤務前、休憩後の準備体操の義務付けをはかり、習慣づける。</li> <li>・“持ち上げない”“抱えない”“引きずらない”をスローガンに活動し、支援計画策定時に反映する習慣をつける。</li> <li>・スライディングシート/グローブ/ボード及びリフト器具の使用を24時間の支援シートへ記入し、ケアプランへ反映させ、統一した実践と評価を行える様になる。</li> <li>・事業所配置の移乗介護器具である“HUG”ならびに“ささえ手”活用。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>床走行式リフト検合格者は未実施、増員できていない。</p> <p>スライディンググローブ、シート、ボード使用の意識がなかなか浸透していない。HUGとささえ手の活用を通して福祉用具、福祉機器使用の意識が浸透した。新規リースとして浴室で使用可能な防水のHUGを導入している。</p>

	<p>⑥排泄ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄ケア/褥瘡予防委員会の活動を通して現状に合わせた排泄支援及び用品選びを推進する。 (モニタリングはケアカンファレンス及び委員会内または各ユニット会議内で実施)。</li> <li>・プライバシーへの配慮を理解し、支援することを基準とする。</li> <li>・共通のスケール(量・頻度・形状・におい・持病の特徴)に基づくアセスメント、支援内容を検討し、多職種との実践。</li> <li>・外部業者との連携をはかり、情報収集ならびに勉強会の講師派遣の協力体制を構築し、実践する。</li> <li>・法人排泄委員会(“おまかせうんチーム”)と連携し、排便コントロールが個人に適正に実践できる様に協働する。</li> </ul> <p>※ポータブルエコーの手技及び活用できる職員を育てる。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>再度プリストルスケールの確認を多職種で行っている。</p> <p>6月に外部研修に参加している。</p> <p>おまかせうんチームとの連携による個人々の排便コントロール、ポータブルエコーの活用はできていない。</p>
	<p>⑦医療的ケアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配置医や往診医と連携し、施設内で行える医療的ケアを充実させ、入居者の通院や入院の負担を軽減する。</li> </ul> <p>※入院日数は月平均20日以内。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時的に治療が必要な医療処置(点滴、注射)を配置医の指示にて実施できる仕組みをつくる。</li> <li>・健康状態の変化等を家族と情報共有し、対応の方向性が選択できる環境をつくる。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>入院日数は月平均31日となった。</p> <p>配置医不在時に点滴、注射を必要とする事象はなかった。</p>
	<p>⑧事故の予防(転倒・誤薬・誤嚥・その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク管理委員会の活動を通して統計的側面から考察し、予防できる仕組みをつくる。</li> <li>・当該ユニットならびに部署のみで検証せず、多職種で事象を分析し、再発防止策を見出す(PDCAサイクルで対応)。</li> <li>・法人リスク管理委員会と連携し、当該事業所のリスクマネジメントに介入してもらい、再発防止につなげる。</li> <li>・法人スタンダード研修への参加ならびに半期に1回、リスクマネジメントを理解して実践できるための学習会を開催。</li> <li>・事故対応フローチャートの理解、浸透を図る。</li> <li>・誤嚥、窒息ならびに服薬支援などマニュアルの策定及び監修する。</li> <li>・ベッドマット式センサーのデモンストレーションを予定。</li> <li>・苦情解決第三者委員会にて半期毎に事象データを共有し、再発防止に向けた客観的な対応を集約する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>学習会として服薬マニュアルの再周知、ハイムリック法の実技勉強会、窒息時対応の周知を行っている。</p> <p>誤薬防止策として薬ケースの変更を実施している。</p> <p>ベッドマット式センサーのデモンストレーションを実施している(令和7年度導入予定)。</p>
	<p>⑨褥瘡予防への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の栄養状態の把握、好発部位の把握、その対処方法(除圧、エアマット、体交枕やクッションの使用)、摩擦予防(スライディングシート、グローブの使用)を習得し、実践する。</li> <li>・皮膚が清潔であることの必要性を理解する。(主に排泄面)。</li> <li>・血流の循環を促進するための運動を生活に取り入れる。</li> <li>・同じ姿勢がリスクであることを理解し(座位、臥床)、ポジショニングを理解する。</li> </ul> <p>※ブレードスケールの評価項目を根拠とする。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>ユニット(職員)によってスライディングシート、グローブの日常的な使用は浸透していない。</p> <p>ポジショニングについて学ぶ機会は設けられていない。</p>

	<p>⑩特定行為従事者の増員・フォローアップ・実地研修事業所としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全委員会の活動を通して、喀痰吸引（特定行為）が対応可能な介護職員の増員を図る。</li> <li>・今年度期首時点で4名の介護職員が特定行為従事者の登録がされており、4名を対象としたフォローアップ研修を開催し、手技の安定を図る。</li> <li>・定期で喀痰吸引が必要な入居者の状態把握及び上記取組、活動の監修を安全委員会活動とする。</li> </ul>	<p>委員会は実施しているが特定行為従事者のフォローアップ研修は開催できなかった。 喀痰吸引が必要な対象者はなし。</p>
--	---	---

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	結果
<p>安定的・持続的な運営</p>	<p>①人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合正職員、職務限定正職員、一般嘱託職員、パートタイム嘱託職員という多様な働き方を人事部や法人委員会と協働して募集すると共に、定着を目的としたOJT、OFFJTを適宜実施し、その内容を上記部署、委員会とも共有しながら活動する。</li> <li>・OJTチェックシートの内容のモニタリング（定着率90%以上を目指す）。</li> <li>・原則各ユニットの人員の配置（実人数）正職員8名＋嘱託職員で構成し、安心して勤務シフトが運営できる人員体制を確保する。</li> <li>・夜勤専門や入居者（利用者）に対する傾聴アルバイトの雇用を積極的に募集する。</li> <li>・傾聴アルバイトは各ユニット1名の配置を目指す。</li> <li>・外国人人材や障がい者雇用、各種実習生受入れを進めながら活躍できる労働の場づくりに努める。</li> </ul> <p>また、他部署との協働により生活支援とOJTの役割分担しながら就労定着を図る。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>令和6年度の退職者は5名（内1名定年退職）、新規採用者14名（内Fスタッフ4名）</p> <p>人員配置はユニットによるバラつきが見られている（退職職員に偏りがあるため）。</p> <p>傾聴アルバイトの配置はできていない。</p> <p>当直専門1名、外国人人材4名、障がい者1名の雇用となっている。</p>
	<p>②目標稼働率の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した経営につなげるべく、年間目標稼働率を98%と入居者の平均介護度4.0を目標とする。</li> <li>・併設する短期入所の利用者の状態やご家庭の状況を、担当介護支援専門員や相談員と適宜情報を共有し、特養と短期入所の稼働が補完的に作用するよう進める。</li> </ul> <p>※月に一度の頻度で両事業の相談員間の情報交換の機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・即入居が可能な待機者を3名～5名リスト化し、月に一度状況の実態を把握する。</li> </ul> <p>また、待機者整理を半年に1回実施し、隔月に開催する入居者選考委員会を経て新規入居がスムーズに行える様にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議内で上記内容をモニタリングし、対策を講じる。また、その内容を役職者会議内で共有する。</li> <li>・退居から入居までの空室日を7日以内にする。</li> <li>・適宜、空床の発生に伴い市内居宅介護事業所ならびに医療機関に空床状況を情報提供する（原則、四半期に一度）。</li> <li>・「看取り援助の実践」と「全室個室（ご夫婦入居部屋）」を強みとして営業する。</li> <li>・地域サークルの方々に対して、当事業所を利用時に営業する。</li> </ul>	<p>計画通りの進捗とはならなかった。</p> <p>年間稼働率は98.0%</p> <p>平均介護度3.6</p> <p>平均空室日は12日</p> <p>退去35名、入居34名</p>

	<p>③介護現場の生産性向上に向けた取り組み（人員不足の解消・業務の効率性）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的かつ科学的根拠に基づくデータ収集、業務負担の軽減及び人員不足の解消を目的とした介護ロボット、センサー類、ICTの導入を視野に入れ、外部研修他を通じて情報収集する。</li> <li>・衛生委員会、ノーリフトケア委員会の運営内容に反映し、各種情報を収集し、支援への反映を検討する。</li> </ul> <p>※移乗ロボット「HUG」ならびに「ささえ手」の活用。 (スタッフ2名介助の解消など)</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>介護ロボット、センサー類、ICT導入に向けた情報収集は、ほぼ導入可能な状態にまで行われた（令和7年度導入予定）。</p> <p>HUG、ささえ手の活用によって2名介助の解消、トイレを利用できる入居者が増えた、入浴時の介助負担軽減が図られた。</p>
<p>地域交流・地域活動</p>	<p>①近隣の小中学校からの施設見学、入居者との交流事業の受入れ。若い世代から福祉業界に対する理解促進をはかる。</p> <p>※市内幼稚園・市内小中学校・市内高校など、上期に呼びかける。</p> <p>※感染症流行時は実施しない。</p> <p>②介護や認知症の理解促進を目的に、地域団体などの要望に応じて出前講座を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体が主催する各種介護講座の企画運営に積極的に参加する。</li> </ul> <p>③北広島市東部北地域たすけあい会議をはじめ、北広島市内を中心とした介護福祉ネットワークに積極的に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会や介護事業者、監督行政や市内社会福祉協議会と連携する。</li> </ul> <p>④行事広報委員会の活動として、入居者の生活に楽しみと潤いの提供を目的に、毎月、季節毎のイベントを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事広報委員会の活動として地域サークルと連携し、隔月もしくは四半期に一度の頻度でイベントを開催する。</li> </ul> <p>※地域サークルの発表の機会の確保につなげる。 ※事業活動の透明性につなげる。 ※リモートによるイベントライブ配信の活用。 ※SNS（LINEもしくはFacebookの事業所独自のアカウントを取得）を活用し、最低月に一度、生活やイベントの様子を発信する。 また、家族とLINEを活用した情報交換の実用性を検証する。</p> <p>⑤地域交流スペースを各関係団体に対して開放を宣伝し、資源の活用の斡旋や事業活動の透明性、広報活動につなげる。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>幼稚園との交流事業が2回実施された。</p> <p>市内高校による行事への参加が行われた。</p> <p>地域サークルの発表会が1回実施された。</p> <p>SNS（Facebook）アカウントを取得、広報を発信した。</p>

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	結果
<p>非常時対応の準備</p>	<p>①市内消防本部や北広島市と連携し、自然災害や火災を想定した避難訓練を年2回実施する。</p> <p>※夜間火災想定1回、日中の地震想定1回。</p> <p>また、法人BCM委員会の活動とタイアップし、自然災害初動訓練及び事業継続計画訓練を実施する（オンデマンド研修や卓上訓練を予定）。</p> <p>当事業所のBCP（事業継続計画）の内容を当該委員会委員が監修し、妥当性をモニタリングする。 (年2回実施※新規採用者及び全職員対象)</p> <p>②感染症および自然災害発生時のマニュアルの整備、動線分離訓練の実施及び必要物品の確保、整備。</p> <p>③備蓄品（食料・水など）を更新し、補充する。</p> <p>※運営職員と管理栄養士とで連携する。 ※半期に1度BCMのモニタリングと更新。</p>	<p>計画通りの進捗となっている。</p>

福祉避難所の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北広島市役所と施設危機管理部との連携により、備蓄品等を管理する。</li> </ul>	特に進捗なし。
社会福祉施設で流行する感染症予防・対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策委員会の活動を通して各種啓発活動、研修の企画実施、訓練の企画実施、マニュアルを監修する。</li> <li>・法人感染症対策委員会と連携し、PPE（感染個人防護具）の管理、マニュアルの共有、感染症発生時に協働する。</li> <li>・事業所BCMの四半期に1回見直し、実態と照合する。</li> </ul> <p>状況によっては改訂する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の流行時においても面会などの対応を工夫し、ご家族との交流の時間の機会に努める。</li> </ul>	<p>計画通りの進捗となっている。</p> <p>啓発活動、研修、訓練等は計画通りに実施されているが、7月、8月、3月に感染症（新型コロナウイルス）の拡大があった。</p> <p>12月に下痢、嘔吐、発熱症状を伴う感染症疑いの事象が複数ユニットを跨いで発生、保健所の介入による検査が行われたが原因不明のまま収束した。</p>

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	結果
<p>入居者の意思及び人格を尊重した支援実践のために「常時学べる機会」をつくる。</p> <p>※オンデマンド教材の活用（ジョブモデルアカデミー）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド教材を予算化し、約5,000種類のコンテンツを活用し、制度改正に合わせての内容の更新。1コマ約10分以内の教材を、各職員の目標管理シートや自己啓発に役立てられる環境を整備する。</li> <li>・運営職ならびに各委員会にてオンデマンド教材のコンテンツの内容から受講必須科目を選定し、平等に知識・技術を学ぶ機会を提供する。</li> </ul> <p>※確認テストや履修状況確認システムを活用し、労務管理を含めて監修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒ならびに中途採用新規職員には、法人スタンダード研修と職場内OJTを実施しながら、個々に応じた育成と法人および事業所が求める職務内容を一覧化し、知識、技術が身につけられる機会を提供する。</li> <li>・法人内または外部研修に職員を派遣する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>オンデマンド教材を活用した研修、自己啓発が行われ、「常時学べる機会」をつくる環境は整えられた。</p>

<p>“わくわく”できる楽しい職場づくり ※“心理的安全性”が高いチームづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有給休暇を可能な限り希望に沿って取得できることを職場の風土とし、仕事以外の時間も大切にできる職場にする。</li> <li>・職員相互に協力し合い、有給休暇80%（単年度分）の取得を目指す。</li> <li>・希望する研修や資格があった際には参加や資格取得の準備ができる様に可能な限り調整をサポートする。</li> <li>・入居者と一緒にレクリエーションを楽しめるような環境、体制を作り、暮らしの一員（人生における登場人物の1人・入居者にとっての安心できる人的環境）として楽しく働けるようにする。</li> <li>・法人理念、事業所理念の他、事業計画の浸透を目的に会議や情報共有ツールを活用してはかり、「チームとは何か」「組織に所属するとはどういうことか」「感謝を示す行動のメリット」の理解を促し、事業所内「業務遂行上の留意点として」意図的に協働、連携し合える「人間関係の構築」をはかること、「心理的安全性」を事業所の標準化とする活動を推進する。また基準とする。</li> <li>※強みを評価し、苦手を補い合う。課題を解決するために自己努力する姿勢を発信する。</li> <li>・各ユニットにユニット費5,000円/月とイベント費用を予算化し、ユニット毎の独自性を持たせた活動につなげる。</li> <li>・事業所内ならびに関係団体とポッチャチームを構成し、北広島市が主催するスポーツ大会への参加や練習を通して懇親を深める。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>有給休暇を可能な限り希望に沿って取得できる職場風土は作られているが、取得率に個人差が見られている、</p> <p>研修、資格取得希望（実務者研修、ユニットリーダー研修）の調整サポートが行われた。</p> <p>感染対応と両立しながらレクリエーション機会を増やすことができた。</p> <p>「業務遂行上の留意点として」に沿って法人理念、事業所理念、事業計画の浸透が行われた。</p> <p>ポッチャチームを構成し、大会にも数回の参加、地域、他法人との交流が図られた。</p>
<p>広報誌の発行 ※事業所広報誌名： 瞬歌就燈</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事広報委員会が各ユニットと連動して、主に家族向けに広報誌を毎月発行し、暮らしの様子やイベントの情報を発信する。</li> <li>・4月、各ユニットに所属する職員紹介記事を作成し発行。</li> <li>・法人広報委員会と連携し、事業活動の透明性を目的とした発信の機会とする。</li> <li>・SNS（LINEもしくはFacebookの事業所独自のアカウントを取得）を活用し、最低月に一度、生活やイベントの様子を発信する。また、家族とLINEを活用した情報交換の実用性を検証する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>家族とのLINEによる情報交換は見合わせている。</p>
<p>開設10周年イベント キャンペーンの開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者（利用者）やご家族、関係団体や所属する職員と10周年を祝うイベント企画、実施。</li> <li>記念品や周年ロゴを策定する予定。</li> </ul>	<p>開設10周年記念と敬老会をタイアップし、北広島高校書道部による書道パフォーマンスが行われた。</p> <p>記念品、周年ロゴ策定は行われず。</p>

# 令和6年度事業報告

## 特別養護老人ホーム 東部緑の苑 (短期入所)



【令和6年度を終了して（総括）】

令和6年度重点取り組み事項（事業目標）について、

1. 権利擁護を実践できるチームになる
2. 各委員会の活動意義を理解し、基礎的知識・技術を身につけて実践できるチームになる
3. “支援”に根拠を持たせて実践できるチームになる
4. “看取り援助”の目的・仕組みを理解してチームアプローチができる
5. 一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にすることの理解→浸透→実践ができる

事業目標は概ね順調に進捗、良好な達成状況。

【令和6年度稼働状況】

※注：          は入力しないでください。

1. 特別養護老人ホーム（短期入所生活介護）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	20	30	600	496	82.7%	予約78%/キャンセル38日/ 新規契約5件
5	20	31	620	500	80.6%	予約83.2%/キャンセル19日/ 新規契約4件
6	20	30	600	501	83.5%	予約83%/キャンセル16日/ 新規契約3件
7	20	31	620	543	87.6%	予約90%/キャンセル29日/ 新規契約5件
8	20	31	620	503	81.1%	予約87.7%/キャンセル63日/ 新規契約6件
9	20	30	600	452	75.3%	予約率不明/キャンセル38日/ 新規契約1件
10	20	31	620	361	58.2%	予約67.5%/キャンセル71日/ 新規契約5件
11	20	30	600	385	64.2%	予約66%/キャンセル46日/ 新規契約11件
12	20	31	620	462	74.5%	予約77.5%/キャンセル76日/ 新規契約8件
1	20	31	620	397	64.0%	予約68%/キャンセル39日/ 新規契約5件
2	20	28	560	366	65.4%	予約65%/キャンセル49日/ 新規契約6件
3	20	31	620	419	67.6%	予約69.5%/キャンセル26日/ 新規契約7件
合計			7,300	5,385	73.8%	平均予約75.9%/キャンセル510日/ 新規契約66件

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	11,609 千円	決算額	729 千円	対予算	△ 10,880 千円
①収入	：【予算87,830千円】に対し73,494千円（△14,336千円）で未達成				
②支出	：【予算76,220千円】に対し72,765千円（△3,455千円）で達成				
③事業活動収支差額	：【予算11,609千円】に対し729千円（△10,880千円）で未達成				
④年間目標稼働率	：【目標88%】に対し年間平均稼働率73.7%（令和5年度83.4%）で未達成				
③事業活動収支差額について、収入の約△14,000千円がそのまま影響した。					
④年間目標稼働率について、1年間を通して目標の稼働を達成できず、95%に設定した予約率も一度も到達することができなかった。新規契約数が66件（令和5年度51件、4年度33件）と増加しているにも関わらず稼働率が上がらない要因は大きく2点、長期利用者の施設入居（13名）と入院に伴うキャンセル、終了が挙げられる。市内他施設でもショートステイの稼働の伸び悩み、長期利用による入居待機施設化は顕著で、市の計画と照らし合わせたくて今後の事業の方向性（特別養護老人ホームへの一部転換）について検討していく。					

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	結果
権利擁護を実践できるチームとなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①令和3年度10月に発生した身体的虐待事案を経て、「入居者及び関係者の信用を2度と損なわない」ための活動を実行する。</li> <li>・重点取組目標であるⅢ-1-①～④について、活動の進捗ならびに妥当性をモニタリングする。</li> <li>・最低月に一度開催される運営会議（係長以上）、役職者会議（主任職以上及び多職種）、身体拘束適正化委員会、各ユニット会議にて重点取組目標に対する実践を評価する。</li> <li>・年に一度、事業所職員を対象とした「適切な支援を実践しつづけるために」という個人ワーク研修を実施し、次期取組内容に反映する。</li> <li>・法人が推進する対人援助メソッドである「しまケア」の理解→浸透→実践→評価を各ユニットならびに部署の運営計画に反映しながら進め、相手が心地良い支援につなげる。（丁寧語に根拠に基づく援助技術を織り交ぜる）。</li> <li>・法人権利擁護委員会の介入を求め、第三者の視点を取り入れた活動とする。</li> <li>・第三者評価の結果を事業活動に反映し、活動する。</li> <li>i. 入居者、ii. ご家族、iii. 職員に対し、サービスの提供内容に関するヒアリングや、半期に一度開催される苦情解決事業内でその内容を共有、評価する。</li> <li>・虐待防止研修計画書を作成し活動する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>個人ワーク研修は10月に全職員対象に実施している。</p> <p>年度中に法人権利擁護委員会の介入を求めることはなかった。</p>

<p>身体拘束の廃止ならびに適正に取り扱うための活動</p>	<p>②身体拘束適正化委員会を開催し、以下の活動で適正の可否を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書を作成し、活動する。</li> <li>・身体拘束に関わるフローチャートならびに発生時におけるPDCAサイクルの理解を促す。</li> <li>・福祉用具及びセンサー類の使用状況をモニタリングする。</li> <li>・「身体拘束の適正化」をテーマにした研修を原則2回以上開催し、理解→浸透→実践→評価する。</li> </ul> <p>(オンデマンド教材の活用を含めて)</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>研修は5回(4月、6月、10月2回、12月)開催している。</p>
<p>介護サービスに関する基礎知識・技術を理解し、実践できるチームとなる。</p>	<p>①認知症ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各ユニットの運営計画に研修の機会を反映し、アセスメントの視点から中核症状への配慮(支援)、行動心理症状の緩和につなげられる知識・技術を養い、実践できる様になる。</li> </ul> <p>※四大認知症の特徴に根拠つけた支援の実践。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド教材ならびに法人スタンダード研修への参加を通して理解の促進、実践できる様になる。</li> <li>・認知症ケア基礎研修/認知症実践者研修/認知症実践リーダー研修に派遣する。</li> </ul> <p>※最低1名以上。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>認知症ケア基礎研修は3月に5名(Fスタッフ含む)実施</p> <p>実践者研修、実践リーダー研修は派遣なし</p>
	<p>②在宅における看取り援助に関する推進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人看取り援助推進委員会の活動と協働し、在宅サービスにおける看取り援助に関する推進活動に参画する。</li> <li>・法人看取り援助推進委員会の活動と協働しながら、地域住民向けに出前講座を企画し、在宅における生きいきをテーマに、選択肢としての情報提供を進める。</li> <li>・市内居宅介護支援事業所との利用者ニーズの共有。</li> </ul>	<p>計画通りの進捗となっている。</p> <p>地域住民への出前講座、居宅介護支援事業所および高齢者支援センターとの連携、関係性の化が図られた。</p>
	<p>③口腔衛生管理/摂食嚥下</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が“噛み砕く/唾液と絡めて咽頭へ送り込む/飲み込む”機能など、構造、仕組み、支援上の留意点を理解し、説明ならびに実践できる様になる。</li> <li>・誤嚥性肺炎や感染症の予防を目的に歯科医や摂食嚥下専門医の助言に従い、口腔衛生管理と経口維持管理に取り組む。</li> <li>・摂食嚥下食事委員会の活動を通して、3ヶ月に一度勉強会開催し、各ユニット会議にて委員による伝達研修を開催する。</li> <li>・トロミ材の使用するタイミングや使用量や硬さの分類を理解し、安全に提供できる様になる。</li> <li>・安全な食事姿勢を理解する。</li> <li>・入居者(利用者)の食形態や飲み込むベース、一口量などの個別性を理解する(ケアプラン/24時間の支援シート/支援内容一覧の活用)。また、モニタリングする。</li> <li>・口腔ケアの目的、必要性を理解した上で口腔ケア技法を習得し、道具の用途も説明できる様になる。</li> </ul> <p>(器質的及び機能的ケアの理解)</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>勉強会は6ヶ月に一度の開催となった。</p> <p>誤嚥性肺炎による入院は1名となっている。</p>

	<p>④ユニットケア（一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切に する支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニットケア推進委員会の活動を通して、ユニットケアが重要視するポイントの理解をはかる。</li> <li>・ユニットケアを推進するにあたり職員間の“基準”“価値”を近づけるため、勉強会の企画、実施を運営計画や研修内容に反映する。</li> <li>・テーマを決めて実践事例に基づくケーススタディーを通し、理解をはかる。（各ユニットの運営計画に内容を反映）。</li> <li>・ユニットケア推進センター主催の研修に派遣する。</li> <li>・入居者（利用者）の“その人らしさ”を理解し、サービス計画に基づく実践で保障していく。</li> <li>・ユニットケア理念と事業所の実態を運営会議及び役職者会議でモニタリングし、支援体制を採用する。</li> <li>・スタンダード研修の内容を委員会で監修し、実践する。</li> <li>・ユニットケア養成指定施設を見学し、得た情報を活動に取り入れる（ハード面、ソフト面、食事支援体制など）</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>ユニットケア推進センター主催研修（ユニットリーダー研修実地研修）へ2名派遣</p> <p>養成指定施設の見学も実施できている（清明庵）</p>
	<p>⑤ノーリフトケアの推進→浸透→実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生委員会の運営計画による活動を通して、職員の「心理的安全性」「腰痛予防」「超過勤務」「有給取得」「環境改善（ノーリフト含む）など、働く環境をモニタリングする。</li> <li>・「心理的安全性の確保」に向けた取り組みは、各職員の個人レベルおよびチームレベル（各ユニット、部署）で運営計画に反映し、PDCAで取り組む。</li> <li>・ノーリフトケア推進委員会の活動を通して入居者（利用者）の視点で心地良い（拘縮の予防、皮下出血の予防、表情が見えるなど）移動、移乗、ポジショニングの手技を習得し、実践の標準化をはかる。</li> <li>・令和6年度末には全職員がスライディンググローブ/シート/ボードの使用方法及び留意点を理解し、説明でき、使用できる状態にする。</li> <li>・法人機能訓練専門委員会及び機能訓練センターに当事業所のノーリフトケア計画の活動に介入してもらい、理解促進、浸透をはかる。</li> <li>・令和6年度内に新規で各ユニット原則1名の床走行式リフト検定合格者の増員（令和6年度期首時点で46名中16名）。</li> <li>・ノーリフトケア計画内に“これだけ体操”など、勤務前、休憩後の準備体操の義務付けをはかり、習慣づける。</li> <li>・“持ち上げない”“抱えない”“引きずらない”をスローガンに活動し、支援計画策定時に反映する習慣をつける。</li> <li>・スライディングシート/グローブ/ボード及びリフト器具の使用を24時間の支援シートへ記入し、ケアプランへ反映させ、統一した実践と評価を行える様になる。</li> <li>・事業所配置の移乗介護器具である“HUG”ならびに“ささえ手”活用。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>床走行式リフト検定は未実施、増員できていない。</p> <p>スライディンググローブ、シート、ボード使用の意識がなかなか浸透していない。HUGとささえ手の活用を通して福祉用具、福祉機器使用の意識が浸透した。新規リースとして浴室で使用可能な防水のHUGを導入している。</p>

	<p>⑥排泄ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄ケア/褥瘡予防委員会の活動を通して現状に合わせた排泄支援及び用品選びを推進する。 (モニタリングはケアカンファレンス及び委員会内または各ユニット会議内で実施)。</li> <li>・プライバシーへの配慮を理解し、支援することを基準とする。</li> <li>・共通のスケール(量・頻度・形状・におい・持病の特徴)に基づくアセスメント、支援内容を検討し、多職種との実践。</li> <li>・外部業者との連携をはかり、情報収集ならびに勉強会の講師派遣の協力体制を構築し、実践する。</li> <li>・法人排泄委員会(“おまかせうんチーム”)と連携し、排便コントロールが個人に適正に実践できる様に協働する。</li> </ul> <p>※ポータブルエコーの手技及び活用できる職員を育てる。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>再度プリストルスケールの確認を多職種で行っている。</p> <p>6月に外部研修に参加している。</p> <p>おまかせうんチームとの連携による個人々の排便コントロール、ポータブルエコーの活用はできていない。</p>
	<p>⑦医療的ケアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時の利用者の容態を家族と共有。</li> <li>・各利用者の主治医からの指示情報を家族や担当の居宅介護支援専門員と共有、連携し、支援内容に反映する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p>
	<p>⑧事故の予防(転倒・誤薬・誤嚥・その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク管理委員会の活動を通して統計的側面から考察し、予防できる仕組みをつくる。</li> <li>・当該ユニットならびに部署のみで検証せず、多職種で事象を分析し、再発防止策を見出す(PDCAサイクルで対応)。</li> <li>・法人リスク管理委員会と連携し、当該事業所のリスクマネジメントに介入してもらい、再発防止につなげる。</li> <li>・法人スタンダード研修への参加ならびに半期に1回、リスクマネジメントを理解して実践できるための学習会を開催。</li> <li>・事故対応フローチャートの理解、浸透を図る。</li> <li>・誤嚥、窒息ならびに服薬支援などマニュアルの策定及び監修する。</li> <li>・ベッドマット式センサーのデモンストレーションを予定。</li> <li>・苦情解決第三者委員会にて半期毎に事象データを共有し、再発防止に向けた客観的な対応を集約する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>学習会として服薬マニュアルの再周知、ハイムリック法の実技勉強会、窒息時対応の周知を行っている。</p> <p>誤薬防止策として薬ケースの変更を実施している。</p> <p>ベッドマット式センサーのデモンストレーションを実施している(令和7年度導入予定)。</p>
	<p>⑨褥瘡予防への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の栄養状態の把握、好発部位の把握、その対処方法(除圧、エアマット、体交枕やクッションの使用)、摩擦予防(スライディングシート、グローブの使用)を習得し、実践する。</li> <li>・皮膚が清潔であることの必要性を理解する。(主に排泄面)。</li> <li>・血流の循環を促進するための運動を生活に取り入れる。</li> <li>・同じ姿勢がリスクであることを理解し(座位、臥床)、ポジショニングを理解する。</li> </ul> <p>※ブレーデンスケールの評価項目を根拠とする。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>ユニット(職員)によってスライディングシート、グローブの日常的な使用は浸透していない。</p> <p>ポジショニングについて学ぶ機会は設けられていない。</p>

	<p>⑩特定行為従事者の増員・フォローアップ・実地研修事業所としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全委員会の活動を通して、喀痰吸引（特定行為）が対応可能な介護職員の増員を図る。</li> <li>・今年度期首時点で1名の介護職員が特定行為従事者の登録がされており、1名を対象としたフォローアップ研修を開催し、手技の安定を図る。</li> <li>・定期で喀痰吸引が必要な入居者の状態把握及び上記取組、活動の監修を安全委員会活動とする。</li> </ul>	<p>委員会は実施しているが特定行為従事者のフォローアップ研修は開催できなかった。 喀痰吸引が必要な対象者はなし。</p>
--	---	---

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	結果
<p>安定的・持続的な運営</p>	<p>①人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合正職員、職務限定正職員、一般嘱託職員、パートタイム嘱託職員という多様な働き方を人事部や法人委員会と協働して募集すると共に、定着を目的としたOJT、OFFJTを適宜実施し、その内容を上記部署、委員会とも共有しながら活動する。</li> <li>・OJTチェックシートの内容のモニタリング（定着率90%以上を目指す）。</li> <li>・原則各ユニットの人員の配置（実人数）正職員8名＋嘱託職員で構成し、安心して勤務シフトが運営できる人員体制を確保する。</li> <li>・夜勤専門や入居者（利用者）に対する傾聴アルバイトの雇用を積極的に募集する。</li> <li>・傾聴アルバイトは各ユニット1名の配置を目指す。</li> <li>・外国人人材や障がい者雇用、各種実習生受入れを進めながら活躍できる労働の場づくりに努める。</li> </ul> <p>また、他部署との協働により生活支援とOJTの役割分担しながら就労定着を図る。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>令和6年度の退職者は2名、新規採用者1名、異動による補充1名。</p> <p>傾聴アルバイトの配置はできていない。</p> <p>外国人人材、障がい者の採用はなかった。</p>
	<p>②目標稼働率の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した経営につなげるべく、II. 事業方針に基づく営業および利用者獲得を進める。</li> <li>・利用予約率95%を確保し、当該月の利用キャンセルに対応する。</li> <li>・「全室個室（ご夫婦入居部屋）」と「各種イベント開催」や「生活の個別性」を強みとして営業する。</li> <li>・地域サークルの方々に対して、当事業所を利用時に営業する。</li> <li>・市内居宅介護支援事業所との空室状況を共有し、利用促進を図る。</li> <li>・月毎の新規利用契約者を原則確保し、徐々に利用日数の増回を図る。</li> </ul>	<p>計画通りの進捗とはならなかった。</p> <p>年間稼働率は73.7%</p> <p>利用予約率も76%と目標を大きく下回った（9月予約率不明のため11ヶ月分の平均）。</p> <p>施設入居への移行による長期利用者の利用終了（13名）が大きく影響した。また、新規契約（66名）による補填も追いつかなかった。</p>
	<p>③介護現場の生産性向上に向けた取り組み（人員不足の解消・業務の効率性）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率のかつ科学的根拠に基づくデータ収集、業務負担の軽減及び人員不足の解消を目的とした介護ロボット、センサー類、ICTの導入を視野に入れ、外部研修他を通じて情報収集する。</li> <li>・衛生委員会、ノーフットケア委員会の運営内容に反映し、各種情報を収集し、支援への反映を検討する。</li> </ul> <p>※移乗ロボット「HUG」ならびに「ささえ手」の活用。 （スタッフ2名介助の解消など）</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>介護ロボット、センサー類、ICT導入に向けた情報収集は、ほぼ導入可能な状態にまで行われた（令和7年度導入予定）。</p> <p>HUG、ささえ手の活用によって2名介助の解消、トイレを利用できる入居者が増えた、入浴時の介助負担軽減が図られた。</p>

地域交流・地域活動	<p>①近隣の小中学校からの施設見学、入居者との交流事業の受入れ。若い世代から福祉業界に対する理解促進をはかる。 ※市内幼稚園・市内小中学校・市内高校など、上期に呼びかける。 ※感染症流行時は実施しない。</p> <p>②介護や認知症の理解促進を目的に、地域団体などの要望に応じて出前講座を実施する。 ・地域団体が主催する各種介護講座の企画運営に積極的に参加する。</p> <p>③北広島市東部北地域たすけあい会議をはじめ、北広島市内を中心とした介護福祉ネットワークに積極的に参加する。 ・町内会や介護事業者、監督行政や市内社会福祉協議会と連携する。</p> <p>④行事広報委員会の活動として、入居者の生活に楽しみと潤いの提供を目的に、毎月、季節毎のイベントを開催する。 ・行事広報委員会の活動として地域サークルと連携し、隔月もしくは四半期に一度の頻度でイベントを開催する。 ※地域サークルの発表の機会の確保につなげる。 ※事業活動の透明性につなげる。 ※リモートによるイベントライブ配信の活用。 ※SNS（LINEもしくはFacebookの事業所独自のアカウントを取得）を活用し、最低月に一度、生活やイベントの様子を発信する。 また、家族とLINEを活用した情報交換の実用性を検証する。</p> <p>⑤地域交流スペースを各関係団体に対して開放を宣伝し、資源の活用の斡旋や事業活動の透明性、広報活動につなげる。</p>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>幼稚園との交流事業が2回実施された。</p> <p>市内高校による行事への参加が行われた。</p> <p>地域サークルの発表会が1回実施された。</p> <p>SNS（Facebook）アカウントを取得、広報を発信した。</p>
-----------	---	---

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	結果
非常時対応の準備	<p>①市内消防本部や北広島市と連携し、自然災害や火災を想定した避難訓練を年2回実施する。 ※夜間火災想定1回、日中の地震想定1回。 また、法人BCM委員会の活動とタイアップし、自然災害初動訓練及び事業継続計画訓練を実施する（オンデマンド研修や卓上訓練を予定）。 当事業所のBCP（事業継続計画）の内容を当該委員会委員が監修し、妥当性をモニタリングする。 （年2回実施※新規採用者及び全職員対象）</p> <p>②感染症および自然災害発生時のマニュアルの整備、動線分離訓練の実施及び必要物品の確保、整備。</p> <p>③備蓄品（食料・水など）を更新し、補充する。 ※運営職員と管理栄養士とで連携する。 ※半期に1度BCMのモニタリングと更新。</p>	計画通りの進捗となっている。
福祉避難所の整備	・北広島市役所と施設危機管理部との連携により、備蓄品等を管理する。	特に進捗なし。

<p>社会福祉施設で流行する感染症予防・対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策委員会の活動を通して各種啓発活動、研修の企画実施、訓練の企画実施、マニュアルを監修する。</li> <li>・法人感染症対策委員会と連携し、PPE（感染個人防護具）の管理、マニュアルの共有、感染症発生時に協働する。</li> <li>・事業所BCMの四半期に1回見直し、実態と照合する。</li> </ul> <p>状況によっては改訂する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の流行時においても面会などの対応を工夫し、ご家族との交流の時間の機会に努める。</li> </ul>	<p>計画通りの進捗となっている。</p> <p>啓発活動、研修、訓練等は計画通りに実施されており、感染症（新型コロナウイルス、インフルエンザ）の拡大もなかった。</p>
----------------------------	---	---

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	結果
<p>入居者の意思及び人格を尊重した支援実践のために「常時学べる機会」をつくる。</p> <p>※オンデマンド教材の活用（ジョブモデルアカデミー）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド教材を予算化し、約5,000種類のコンテンツを活用し、制度改正に合わせての内容の更新。1コマ約10分以内の教材を、各職員の目標管理シートや自己啓発に役立てられる環境を整備する。</li> <li>・運営職ならびに各委員会にてオンデマンド教材のコンテンツの内容から受講必須科目を選定し、平等に知識・技術を学ぶ機会を提供する。</li> <li>※確認テストや履修状況確認システムを活用し、労務管理を含めて監修する。</li> <li>・新卒ならびに中途採用新規職員には、法人スタンダード研修と職場内OJTを実施しながら、個々に応じた育成と法人および事業所が求める職務内容を一覧化し、知識、技術が身につけられる機会を提供する。</li> <li>・法人内または外部研修に職員を派遣する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>オンデマンド教材を活用した研修、自己啓発が行われ、「常時学べる機会」をつくる環境は整えられた。</p>

<p>“わくわく”できる楽しい職場づくり ※“心理的安全性”が高いチームづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有給休暇を可能な限り希望に沿って取得できることを職場の風土とし、仕事以外の時間も大切にできる職場にする。</li> <li>・職員相互に協力し合い、有給休暇80%（単年度分）の取得を目指す。</li> <li>・希望する研修や資格があった際には参加や資格取得の準備ができる様に可能な限り調整をサポートする。</li> <li>・入居者と一緒にレクリエーションを楽しめるような環境、体制を作り、暮らしの一員（人生における登場人物の1人・入居者にとっての安心できる人的環境）として楽しく働けるようにする。</li> <li>・法人理念、事業所理念の他、事業計画の浸透を目的に会議や情報共有ツールを活用してはかり、「チームとは何か」「組織に所属するとはどういうことか」「感謝を示す行動のメリット」の理解を促し、事業所内「業務遂行上の留意点として」意図的に協働、連携し合える「人間関係の構築」をはかること、「心理的安全性」を事業所の標準化とする活動を推進する。また基準とする。</li> <li>※強みを評価し、苦手を補い合う。課題を解決するために自己努力する姿勢を発信する。</li> <li>・各ユニットにユニット費5,000円/月とイベント費用を予算化し、ユニット毎の独自性を持たせた活動につなげる。</li> <li>・事業所内ならびに関係団体とポッチャチームを構成し、北広島市が主催するスポーツ大会への参加や練習を通して懇親を深める。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>有給休暇を可能な限り希望に沿って取得できる職場風土は作られているが、取得率に個人差が見られている、</p> <p>研修、資格取得希望（実務者研修、ユニットリーダー研修）の調整サポートが行われた。</p> <p>感染対応と両立しながらレクリエーション機会を増やすことができた。</p> <p>「業務遂行上の留意点として」に沿って法人理念、事業所理念、事業計画の浸透が行われた。</p> <p>ポッチャチームを構成し、大会にも数回の参加、地域、他法人との交流が図られた。</p>
<p>広報誌の発行 ※事業所広報誌名： 瞬歌就燈</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事広報委員会が各ユニットと連動して、主に家族向けに広報誌を毎月発行し、暮らしの様子やイベントの情報を発信する。</li> <li>・4月、各ユニットに所属する職員紹介記事を作成し発行。</li> <li>・法人広報委員会と連携し、事業活動の透明性を目的とした発信の機会とする。</li> <li>・SNS（LINEもしくはFacebookの事業所独自のアカウントを取得）を活用し、最低月に一度、生活やイベントの様子を発信する。また、家族とLINEを活用した情報交換の実用性を検証する。</li> </ul>	<p>概ね計画通りの進捗となっている。</p> <p>家族とのLINEによる情報交換は見合わせている。</p>
<p>開設10周年イベント キャンペーンの開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者（利用者）やご家族、関係団体や所属する職員と10周年を祝うイベント企画、実施。</li> <li>記念品や周年ロゴを策定する予定。</li> </ul>	<p>開設10周年記念と敬老会をタイアップし、北広島高校書道部による書道パフォーマンスが行われた。</p> <p>記念品、周年ロゴ策定は行われず。</p>



# 令和6年度事業報告

## デイサービスセンターヴェール



【令和6年度を終了して（総括）】

計画に沿った事業運営が行われ、短期目標は概ね達成された。  
稼働率は80.0%の目標に対して71.7%となった。介護度が高く、多数回利用する利用者の終了が重なったことが稼働率低下の大きな要因となった。今年度も介護度の高い利用者、複数回利用者が終了となった後の補填（同等の収益となる新規契約）が追い付かなかったこと、定期ショートステイ利用者の対策を講じることが出来ず、収入目標にも届くことができなかった。次年度はサービス提供時間を1時間延長し、基本報酬単価の引き上げとサービスの質の向上につなげる。

【令和6年度稼働状況】

※注：      は入力しないでください。

1. 通所介護・介護予防通所介護相当サービス

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	25	26	650	527	81.1%	
5	25	27	675	587	87.0%	
6	25	25	625	487	77.9%	
7	25	27	675	491	72.7%	
8	25	27	675	459	68.0%	
9	25	25	625	467	74.7%	
10	25	27	675	502	74.4%	
11	25	26	650	410	63.1%	
12	25	26	650	369	56.8%	
1	25	26	650	392	60.3%	
2	25	24	600	445	74.2%	
3	25	26	650	453	69.7%	
合計			7,800	5,589	71.7%	

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	7,702 千円	決算額	△ 3,882 千円	対予算	△ 11,584 千円
---------	----------	-----	------------	-----	-------------

新規21件、終了24件（前年度新規17件、終了23件）と、新規利用契約を獲得出来なかったことが収支差額予算額未達成の最大の要因だが、新規利用契約者も隔週利用や月に数回利用、定期ショートステイ利用等のケースが多く、経営状況の改善には至らなかった。また、新規利用相談時、入浴利用のニーズに対し現場の受け入れ枠の問題でお断りするケースも多かった。枠の拡大には職員の高齢化や勤務希望等課題が多い。

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者が生活を営むうえで必要な身体機能の維持、なんらかの理由により使われることの少なくなった残存機能の引き出しを目的とした積極的な機能訓練、生活訓練の取り組みで、転倒、転落、機能低下による入院、体調不良の防止に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別機能訓練加算Ⅰ口及び運動器機能向上加算を算定</li> <li>・機能訓練指導職員を2名配置、個別機能訓練加算Ⅱを算定</li> </ul>	機能訓練指導職員による個別の機能訓練、介護職員による生活訓練を中心に取り組みを行う。個別機能訓練加算Ⅱも体制を整え算定した。
口腔機能が低下している、またはその恐れのある利用者に、個別で口腔機能の向上・維持を目的とした口腔清掃の指導や、摂食・嚥下機能に関する訓練等の取り組みで、嚥つまり、誤嚥性肺炎等の感染症による入院、体調不良の防止に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔機能向上加算Ⅰを算定</li> </ul>	対象利用者は2名（年度終了時点1名）で、看護職員による口腔ケア、指導が行われている。対象利用者の嚥下機能低下（直接原因は肺炎）による入院が1件となっている。
低栄養状態にある利用者、またはその恐れのある利用者に、栄養状態の改善を目的とした個別の栄養に関する食事相談等の栄養管理に取り組み、低栄養による入院、体調不良の改善と防止に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養改善加算を算定</li> </ul>	対象となる利用者、希望される利用者がおらず、期間中の算定はない
継続して「介護・看護職の腰痛予防対策」、「利用者の自立度を考慮した福祉用具の使用による移乗」を主旨としたノーリフティングケアに取り組み、利用者、家族、職員、すべての人にとって安全・快適なケアを実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作の習慣化（ボディメカニクスとパワーポジション）</li> <li>・スライディングシート・スライディンググローブの積極的な活用</li> <li>・重度化に備えた利用者の福祉用具活用体験</li> <li>・家族への福祉用具活用の啓発活動</li> </ul>	機能訓練専門委員会を中心に基本動作の確認、福祉用具の活用に取り組んでいる。利用者の福祉用具活用体験は実施出来ていない。
顧客満足度の向上を目的とした利用者及び家族への年2回のアンケートを実施する（各項目平均満足度95%以上、「とても満足している」75%以上）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の「ご利用者様満足度アンケートを実施</li> <li>・調査内容の速やかな提供サービスへの反映</li> <li>・事業所評価として開示（事業所内、ホームページへの掲示）</li> </ul>	2回のアンケートを実施。各項目平均満足度（「とても満足している」「まあまあ満足している」の合計）は99%、「とても満足している」の割合が79%（前回72%）とほぼ横ばいになっている。
終末期を迎えた場合であっても自宅での暮らしを望む利用者及びその家族に、安心、安眠で安全な介護サービスが提供される環境を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族、居宅支援事業所へのサービス内容の周知</li> <li>・利用者及び家族への延命処置に関する書面による意向確認</li> <li>・医療機関及び訪問診療、関係サービス提供事業所との連携</li> <li>・職員の意識、知識、技術の一層の向上を目的とした勉強会</li> </ul>	書面によるサービス内容の周知を行っている。在宅での看取りのケースはなく、今後はACPの取り組みから本人ニーズの事前の確認と家族、関係機関への発信に重点を置いていく。

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
本体事業所25名定員における稼働率80%（1日あたり20名稼働、うち要介護利用者17名）以上を維持する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用開拓のため、居宅介護事業所へのPR活動並びに事業内容の公開を継続、事業所としての信頼を高める</li> </ul>	稼働率は71.7%（前年度79.6%）と目標を下回った。上半期の平均稼働率は77%で推移するが、定期ショートステイ利用者の増加、11月より複数回利用者、介護度の高い利用者の長期入院、施設入所、死亡等が相次ぎ、その分を補填する新規利用契約を獲得出来なかった。
市内福祉従事者向け研修の開催、市内事業所交流会の運営に積極的な役割を果たし、タウンミーティング、子供や高齢者を対象とした各種イベント（ふれあいの集い、社会見学等）の運営にも積極的に関り、地域福祉の推進に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北広島市介護サービス連絡協議会（きたひろサービスネット）との連携</li> <li>・北広島市東部たすけあい会議との連携</li> </ul>	きっかけ（旧たすけあい会議）やふらっとカフェへの参加と運営で地域住民との交流を行った。また、地域貢献推進部主催のみんなDEシリーズにも複数回関わる事が出来た。
令和6年度制度改正及び報酬改定に伴う諸準備と新事業体系（新複合型サービス）の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新制度、新報酬体系の情報収集（研修等）</li> <li>・新制度、新報酬体系に適合したサービス、支援体制、職員配置の準備</li> <li>・新複合型サービス（通所・訪問複合型）の事業シミュレーション</li> <li>・新複合型サービスのニーズ調査</li> </ul>	年度途中で厚労省より令和6年度の新複合型サービス開始案は延期となった旨の発表があり、概要等は不明なまま。引き続き情報収集を行う。

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者のサービス利用中を想定した災害訓練、在宅時を想定した災害への備えについての講習等継続した取り組みを行う 様々な災害を想定した各高齢者支援センター及び居宅支援事業所との連携、情報共有、家族サポートの体制について、サービスネット研修等を通じて一層の強化を図る	・ 火災避難訓練	5月に火災想定、11月に地震からの火災想定で避難訓練を実施。同日に防火管理者による、在宅時の災害を想定した日頃の備え等についての利用者向け講習を行っている。 サービスネット研修は期間中の開催なし、各高齢者支援センター及び居宅支援事業所とは情報共有を密に行っているものの、災害に特化した家族サポート等の話までは出ていない。
	・ 火災避難講習	
	・ 災害（地震）避難訓練	
	・ 災害（地震）避難講習	
	・ 関係機関との連携	
継続して新型コロナウイルスやインフルエンザをはじめとした感染症の脅威から、利用者、職員及びその家族の生命と安全を守るための予防対策強化を図る	・ サービスネット研修	新型コロナウイルスの5類移行後に数件の罹患者は出たが、感染が広がることもなく収束している。引き続きスタンダードプリコーションの徹底と感染予防対策で感染症の予防に努めていく。
	・ 法人感染症予防対策委員会との連携	
	・ 感染症予防対策関係研修への参加	
	・ 利用者の食事等環境の整備	
	・ スタンダードプリコーションの徹底、習慣化	

### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
継続して職員ひとりひとりが協調性を持ち、かつ主体的な取り組みでやりがいを感じることに出来る職場環境を実現する	・ 職員からの提案には積極的に具体化を目指し全員が成功をサポートする	会議や面談、打ち合わせに限らず、日常的に現場職員が直接役職、管理職を問わず提案、相談、報告が行われている。同時に管理職から直接現場職員に相談、情報共有することも日常的に行われている。年度中に利用者への不適切な関わりがあったが、この職員関係と職場環境の成果として、迅速で的確な初動対応が出来た。
	・ 定期的な個別面談での提案の喚起と取り組みの振り返りを行い、ひとりひとりが具体的な目標を持てるようサポートする	
継続して役職や職種、年齢、経験を問わず意見の言い合える職員関係を実現する	・ 事業所特性を活かした毎日の細かい情報共有と職務連携	
認知症についての理解のもとで利用者主体の介護を行い、認知症の人の尊厳の保障を実現していく観点から、すべての職員の認知症の対応力向上をはかる	・ 認知症介護実践者研修の受講	実践者研修の受講は出来なかった。
国際協力としての技能移転を目的とする外国人技能実習生受け入れに向けた準備を進める	・ 関係研修への参加、派遣	法人としては外国人人材受け入れの体制が進展したが、研修参加や法人での協議等には参加出来なかった。
	・ 法人委員会での協議・検討	
	・ 事業所内での情報共有	

### 5. その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況



# 令和6年度事業報告

## ケアプランセンター―東部緑の苑



【令和6年度を終了して（総括）】

10月実地指導終了。大きな指摘事項なく終了。確認業務時に帳票類未整備見られ、業務の取り組み、改善などチーム・個々として課題が残る  
 新規利用紹介を断らないという目標を全員の協力で実施出来た。その結果チームとしてのまとまりが出来てきたことや各職員の仕事へのモチベーションが高まった。  
 障がいサービスとの併用や家族の精神疾患等複雑なケースが増えていく中で、チーム内で情報収集や相談等を行うなどのケアマネジメント力を向上させる取り組みが出来た。  
 特定事業所加算要件としてヤングケアラーや難病等高齢者分野以外の研修等を求められるため取り組みを継続する。今年度より必須となるBCP策定、研修も問題なく実施。  
 職員1名退職、担当振り分けにより負担増している。モバイルPC導入、訪問中も間接業務実施体制整える取り組み実施。次年度効果測定実施予定。

【令和6年度稼働状況】

※注：  は入力しないでください。

1.給付実績（要支援0.3件換算含む）

月	要介護	要支援	月間総定員（人）	合計数（人）	稼働率（%）	備考
4	153	11		153.6		
5	154	11		157.6		
6	167	13		171.3		
7	175	13		179.3		
8	181	13		185.3		
9	180	13		184.3		
10	180	13		184.3		
11	180	15		185		
12	182	17		187.6		
1	184	16		189.3		
2	187	16		192.3		
3	191	16		196.3		
合計				2,166		

2. 要介護認定調査

月	件数	稼働日数	月間総定員 (人)	延利用者数 (人)	稼働率 (%)	備考
4	13		0	13		
5	3		0	3		
6	16		0	16		
7	16		0	16		
8	10		0	10		
9	9		0	9		
10	11		0	11		
11	11		0	11		
12	15		0	15		
1	21		0	21		
2	13		0	13		
3	17		0	17		
合計			0	155		

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

令和6年度事業活動収支差額	4,769千 (対予算623千) 円

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
質の高いケアマネジメントの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の情報収集と更新</li> <li>・法令順守の徹底、業務自己点検の実践</li> <li>・看取り援助推進会議への参加、連携</li> <li>・ICT活用による業務効率化（タブレットの導入）</li> <li>・利用満足アンケート実施</li> </ul>	<p>随時情報収集しチーム内で共有している。業務自己点検は実施出来ていない。職員の参加。情報共有出来ている。モバイルPC（ポケットWi-Fi）導入、利用者宅での随時情報提供・空き時間の確保できている。効果測定については次年度実施。</p> <p>アンケート年度内実施、集計次年度6月予定</p>
医療との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域拠点病院との連携強化</li> <li>・訪問医療との連携により必要な人への医療サービス情報の提供</li> <li>・終末期や難病等医療ニーズの高い方への積極的な支援</li> <li>・地域医療機関との顔が見える関係性の構築</li> </ul>	<p>利用者の情報共有や新規利用者の紹介を頂いている。市内や近隣医療機関との連携が出来ている。</p> <p>終末期の利用者の紹介に積極的に対応している。</p> <p>訪問診療時に合わせて訪問などそれぞれ工夫をしている。</p>
チームとしての取り組みの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難事例等へのチームとしての対応、互いにフォローする体制構築</li> <li>・日常における情報交換</li> <li>・定期的なケース検討会の実施によるチーム支援と介護支援専門員としての資質向上</li> </ul>	<p>月1回の事例検討や毎日のミーティングの中で互いの利用者の情報共有や相談などを行いチームとしての取り組みの力が高まっている。</p>

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
希望する場所で最期まで暮らせる支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種と連携を図り最期まで自宅で暮らせる支援</li> <li>・看取り支援推進会議との連携</li> </ul>	<p>多事業所と連携をし利用者や家族が満足した最期を迎えられるような支援を目指している。</p>
認知症になっても住み慣れた地域で生活できる地域づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献推進部と連携し介護講座を実施</li> <li>・各高齢者支援センターや他事業所との連携で介護講座等を実施</li> </ul>	<p>未実施</p>

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
業務継続計画に基づいた利用者支援担当利用者の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時想定の実施訓練</li> <li>・担当する利用者の生活状況を把握更新し災害時にサポートできるよう情報を整理管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月各CM担当利用者優先（医療機器装着者・独居）を集計し、訪問訓練実施。</li> <li>・BCPを作成し優先度を鑑みた利用者一覧を作成。半年ごとに見直しを行っていく。</li> </ul>
関連機関との連絡体制構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害や感染症等に迅速で有効に対応できるよう、医療機関、介護施設、行政等との連絡体制を構築</li> </ul>	現状ではシステム作りが出来ていないので今後、各関係機関との調整を行う。

### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員間の意思疎通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気兼ねなく報告、連絡、相談ができる組織の形成</li> <li>・明るい活発な雰囲気づくり</li> <li>・法人内相談部門との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困りごとなども気軽に相談できる体制を今後も作っていく必要がある。</li> <li>・めーでる内事例検討会に参加している。（10月）</li> </ul>
職員育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所学習会開催、法人内外研修への参加</li> <li>・主任介護支援専門員資格取得</li> <li>・スーパービジョン実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内の事例検討や法人外研修などに各々積極的に参加している。</li> <li>・6年度ケアマネ部会主催ケース検討会6回参加。</li> <li>・本年度採用職員1名に対して3回スーパービジョン実施、担当事例だけでなく、マネジメントの視点のすり合わせなど実施。</li> </ul>
ワクワクする仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりが充実しやりがいを感じられる職場づくり</li> <li>・笑顔と挨拶の素敵な職場づくり</li> </ul>	

### 5. その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況

# 令和6年度事業報告

## 入所施設看護ステーション



【令和6年度を終了して】

- ・目標に掲げていた「医療ケア者の受け入れ拡大」として12月に入所施設で初めて胃ろう造設後の受け入れを行っている。医師が常駐していない知的障害者施設での医療ケアの受け入れをしている施設はほぼ少なく、リスクは高いものの、住み慣れた生活の場所で「生ききる支援」を行っている。
- ・通院数の減少～R5年度と比較し、共栄217件、とみがおか72件と大幅な通院数の減少に繋がっている。
- ・利用者にとって、医療は切っても切れない不可欠なものだが、医療行為に対してのトラウマや拒否行動に対して、意思決定支援を深め、苦手なことを「これならやってみようかな」という意思まで形成することが出来たケースがあった。

【令和6年度通院状況】

1. 共栄 通院数 ※延べ人数

月	内科	精神科	整形/外科	耳鼻科	泌尿器科	脳外科	歯科	婦人科/皮膚科/眼科	合計
4	8	1	8	3	0	1	28	4	53
5	4	0	8	4	1	0	18	5	40
6	2	10	6	6	0	0	34	0	58
7	3	8	7	2	0	0	31	8	59
8	5	8	7	1	0	0	24	7	52
9	9	1	5	0	1	0	15	7	38
10	7	1	4	3	2	1	12	2	32
11	2	1	1	2	1	0	24	5	36
12	10	2	2	7	2	0	11	11	45
R7.1	9	1	1	5	1	2	28	7	54
R7.2	5	1	1	3	3	0	27	2	42
R7.3	10	2	3	4	1	0	30	6	56
<b>合計</b>	<b>74</b>	<b>36</b>	<b>53</b>	<b>40</b>	<b>12</b>	<b>4</b>	<b>282</b>	<b>64</b>	<b>565</b>
R5年度	136	43	92	71	48	19	323	50	782

2. とみがおか 通院数

月	内科	精神科	整形/外科	耳鼻科	泌尿器科	脳外科	歯科	婦人科/皮膚科/眼科	合計
4	8	1	8	3	0	1	28	4	53
5	4	0	8	4	1	0	18	5	40
6	2	10	6	6	0	0	34	0	58
7	3	8	7	2	0	0	31	8	59
8	5	8	7	1	0	0	24	7	52
9	9	1	5	0	1	0	15	7	38
10	7	1	4	3	2	1	12	2	32
11	2	1	1	2	1	0	24	5	36
12	10	2	2	7	2	0	11	11	45
R7.1	8	5	1	3	0	0	17	2	36
R7.2	6	4	2	6	0	1	24	2	45
R7.3	2	5	3	0	0	1	20	4	35
合計	66	46	54	37	7	4	258	57	529
R5年度後期	82	48	14	61	16	6	316	58	601

【令和6年度予算見込】

※令和6年度を終えて事業活動予算と残金

令和6年度事業活動収支差額予算額

共栄医務予算	113,650円	支出131,585円	差額△17,935円
とみがおか医務予算	640,703円	支出421,361円	差額219,342円

医療器材の故障で支出が上回っている。保管には留意していく。

誤薬システムの服やくんより薬サポへの契約変更で300,000円程支出が減っている。

【令和6年度事業計画の進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
健康管理	通院の負担軽減 入院日数の短縮	※上記通院総数参考
排泄ケア	現行の排泄処置の見直し	・不要な排泄処置、内服の見直し継続
権利擁護	医療行為時の身体拘束	・身体拘束適正化について4例の身体拘束をなくすことが出来た。
医療安全管理	誤薬防止	・薬のインシデントが多く、確認不足が目立った。システムの見直し、ルールを測り同様事故は予防できている。

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域交流・貢献	看取り援助や排泄ケアを全国に発信し活動を行います。（各委員会と連携）	・地域貢献推進部の活動に積極的に参加。献血の参加。

3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
感染症発生の対応	他事業所の感染症発生時のサポート	・クラスター対応、医療機関と密に連携し、利用者の重症化を防止

### 3. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
人材の定着	・看護実習生受け入れの準備	・看護実習生指導者資格取得。

### 4. 看取り援助推進の取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
看取り援助	医療ケアの受け入れ拡大の促進	・12月に入所で胃ろうの受け入れを実践。365日稼働、24時間の相談体制を確保。看取り援助の同意を共栄、とみがおかでそれぞれ交わしている。

### 5. 職員育成の取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
看護職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内外への研修参加</li> <li>・毎月の看護ミーティングで勉強会を企画、実施（全員持ち回り）</li> <li>・ノーリフトケア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内外問わず研修は積極的に参加した。特養看護職員との合同研修も開催。全体で15回研修には参加。</li> <li>・全員が勉強会を企画、実施することで指導力、提案力の向上に繋がった。</li> <li>・2名のリフト検定合格。</li> </ul>

# 令和6年度事業報告

## 機能訓練センター



令和6年度 機能訓練センター 事業計画報告

【令和6年度を終了して 総括】

令和6年度で3回目となった福祉用具横丁については2日間で400名の地域の方、医療福祉職などに来館頂いた。また、道央知的障がい者福祉施設協会での専門職交流事業を開催し、10法人・30名の参加があった。横の繋がりの構築や現状の課題について共有し、配置が少ない専門職の孤立や不安、専門性を高めることを目的とし、令和7年度も実施が決まり交流会議が決まっている。機能訓練専門委員会では外部の移乗用リフト資格の取得を目指し、講座や練習会を行い、参加者6名全員の合格に繋げている。教育体制の確立により、法人内でのリフトに使用についても無事故で経過している。令和7年度には同資格の昇格試験を5名が受講予定。法人内リフト対応も増加、前年比49%アップとなり、高齢化・重度化対策に繋がっている。外部講師を招いた研修についてはICT、乳酸菌の勉強会の実施を行うなど法人内外より多くの職員が参加した。数年ぶりの国際福祉機器展へは4名の職員を派遣、道央知的障がい施設協会の支援研究会への職員派遣を行い外部との繋がりを多く持ち、また事業展開を行った。施設の環境整備として、とみがおか、共栄の福祉用具（特浴・リフト）の導入へ繋げ環境整備を行った。

1. 各事業者別 利用実績

事業所名	職員相談	利用者相談	訓練	身体評価 摂食評価	福祉用具貸出	定期利用の有無
とみがおか	56	44	10	45	790	有
共栄	58	102	116	47	2,225	有
就労センタージョブ	2	9	77	1	2	有
北広島デイセンター	16	9	0	5	84	有
北広島セルブ	6	15	60	7	12	有
北広島コラボ	51	46	497	2	1,120	有
グリーンパーク北ひろ	17	15	0	5	297	
フィットマン	1	0	0	0	0	有
つなぐ	2	6	0	0	1	有
東部緑の苑	12	1	0	1	36	
デイサービスセンターヴェール	8	6	0	6	169	
入所施設看護ステーション	10	0	0	0	0	
本部関係	15	0	0	0	0	
合計	254	253	760	119	4,736	

リフト・介護技術検定関係（練習含む）：191件 前年比49% ↑
福祉用具関係（修理・申請）：1,288件 前年比25% ↑
コラム発信：36件
外部、地域への相談対応（外部講師含む）372件 前年比58% ↑
実習生受け入れ・講義：5件
入館者数（見学・イベント含む）：4,937件 前年比38% ↑
出前講座・ケース会議等への参加：172件 前年比34% ↑

※事業活動収支差額予算の具体的な取組み

令和6年度事業活動収支差額予算額				893,394円
	予算額	支出額	残額	備考
雑費	241,260	163,733	77,527	福祉用具横丁企画費他
事務消耗費	51,183	35,304	15,879	
職員被服費	0	0	0	
消耗器具備品費	299,489	183,643	115,846	
保健衛生費	11,854	7,906	3,948	
研修研究費	233,820	40,767	193,053	ノーリフトケアコーディネーター研修費他
日用品費	55,788	33,662	22,126	
雑収入			97,550	福祉用具メーカー主催の講師謝礼・福祉用具横丁利益
計	893,394	465,015	525,929	

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
『身体機能』『ノーリフトケア』『ステージに合わせたライフサポート』を基本に各事業所との調整をしていく。	各事業所の利用者と職員が健康で生活出来るように、助言とサポートをする。権利擁護の視点からのサポートを行う。	出前講座、ケース会議への参加については今年度は172件と増加し、前年比34%アップしている。車いす安全整備士の資格研修への派遣が出来ず、次年度に取得予定である。
ノーリフトケア・福祉用具について理解しながら、介助時の利用者・職員双方の心身への負担軽減に努めていく。	各事業所からの相談対応を行い、必要に応じて福祉用具の普及と、介助時の利用者と職員双方の心身への負担軽減に努める。	安全に支援を行うこと、ケアの質を担保することへの理解を求めた結果、デモ数は4736件となった。修理や申請関連についても1288件と前年より25%アップしている。双方への負担軽減の意識も広がってきている。

法人職員の身体を守り、法人を利用される方に安心してケアを提供するために、法人の統一の下にノーリフトケアの導入を図る。	利用者と職員の腰痛対策と事業所職員の訓練技術の統一化を目指すと同時に、普及事業として進めていく。	外部の資格制度を活用し5名のリフトインストラクター合格者を輩出している。その他、1名がリフトインストラクター昇級試験に合格している。移乗用リフト導入以降、リフト使用については無事故で経過している。各事業所に対してノーリフト計画への助言を行うなど、計画的に推進している。
適切な評価と根拠を基に迅速な相談対応を行う。	各事業所と連携し、機能評価、運動の提案、シーティング・ポジショニングを計画していく。	職員相談254件・利用者相談253件・評価関係119件を対応し、実施訓練760件と昨年度と多少の推移はあるものの、業務は引き続き拡大中。
幼少期から終末期に至るまでのライフサイクルに合わせた支援の提案・適正化を推進していく。	現状を評価して根拠のある支援を提案していく。権利擁護の視点からの提案も行う。介護技術検定、研修の実施。	看取り期への介入時には、日々変化する機能変化の中で、利用者の安全と安楽さの追求と職員の心身負担の軽減を図りながら介入している。若年利用者では自立生活の不安があり、調理訓練を行いながら成功体験を積み重ね、ライフサイクルに合わせた訓練等を事業所と協働で進めた。

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
施設の地域開放を行い、開けた機能訓練センターを目指す。	地域住民に向けた出前講座の実施。 プレイルームの開放。	来館者も4937名と昨年より38%アップしている。またSNSでノーリフトケアを進めていることを知って就職を希望したという声もあり、今後の発信頻度についても検討していく。
日本ノーリフトケア協会との連携	日本ノーリフト協会との連携と協会会員事業所との連携。 (北海道全域)	北海道支部長との連携し、全国の情報や道の活動状況などを共有し普及を推進中である。
ノーリフトケアの普及事業	月1回のノーリフトケアのコラムの発信。 各事業所職員へのリフト検定資格の普及。 法人職員への腰痛予防対策の発信。	月に1度以上のコラム発信を継続し実施している。法人内リフト検定も進んでおり、昨年と比較して49%アップしている。その他にも企業とタイアップしたICTの勉強会については法人内だけでなく、他法人からの参加者も訪れた。

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者サービス中を想定した火災訓練と災害訓練の取り組みをしていく。 法人及び地域の災害時において避難場所としての準備。	災害訓練の実施。 地域の災害時の避難場所としての準備を進めている。	北広島コラボとの合同災害訓練を実施(年回)。終了後、実場面を想定した協議も実施している。

### 3. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員自身での目標と事業所での目標に向かい、法人に貢献していき自身の達成感に繋げていく。	日々の業務の振り返りを行い、職員の提案事項形に出来るように具現化していく。	福祉用具横丁や日々の業務改善の提案を各職員が行うことで負担軽減に繋がり、結果互いを認め合え、職場への満足感や達成感を感じながら働くことが出来ている。
朝夕のミーティングを主体としながらチームとしての意見交換を積極的に進めていく。	事業所の専門性を活かした日々の細かい情報共有の実施。	意見交換の活発化が定着化し、令和7年度の機能訓練専門委員長を主任で行い、係長がフォローする体制で進めていく。
人材育成・人材確保	機能訓練専門委員活動を通し、委員の育成を行う。 ノーリフトケアコーディネーターの資格取得者を増やすことで、ノーリフトケア推進の担い手を拡大し、リーダーを育成する。 研修会企画・実施。 福祉機器展の企画・開催を通して福祉用具の理解を進める。	外部研修コーディネーターについては、4名取得。機能訓練専門委員からはリフトインストラクター初級5名取得。昇格については中級へ昇格者1名。事前対策講座を行い、参加者全員合格。福祉用具横丁では、福祉用具業者や法人外の職員、地域の方との交流と知識を深めることに繋がり、2日間で400名の来場。新規業者からの参加希望もあり、例年以上の来場に繋がった。

# 令和6年度事業報告

## 利用相談センター



【令和6年度を終了して】

昨年度と比べ、法人全体で新規契約者数は減少していますが、各ケースごとに自宅訪問や関係者会議へ参加するなど、契約前に不安を取り除き安心して利用できるよう丁寧に進めています。平時から、短期入所調整などを通して居住系サービス（入居・入所）の利用希望等ニーズの把握に努め、グリーンパーク北ひろ（2名）や共栄（1名）の入居（所）者選考委員会の際には、家庭の状況や意向調査結果等を事業所へ、選考の根拠となるようにフィードバックしています。見学対応については、団体、個人ともに、目的やニーズから法人内サービスを包括的にコーディネートして対応しています。今後は見学後にアンケートを実施し、結果を事業所と共有しながら更なるサービスの質向上に繋げていけるよう進めていきます。困難ケースへの対応や、利用希望者に対しては、法人内事業所と連携してケース検討するだけでなく、適宜他法人の社会資源も活用するなどして対応を進めています。訪問活動については、北広島市近郊の市町村のニーズや社会資源の調査、ネットワーク構築を目的として実施しています。訪問活動がきっかけとなり、当法人への見学依頼や、利用希望の問い合わせをいただく事も増えてきているため、令和7年度においても継続して実施していく予定です。

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用契約業務	家庭訪問をして家庭状況などの利用者を取り巻く環境を確認の上で契約を行います。	利用契約前に面談や自宅訪問を重ね、ご本人のニーズや、希望を聞き取る場を設けるなど丁寧に対応しています。また、相談支援事業所や、学校など、他機関とも連携しながら、契約までのプロセスを大切にしています。今後も、将来のビジョンまで含めて、ご本人、ご家族の想いを汲み取りながら事業所と共有していけるよう進めていきます。
利用ニーズの把握	養護学校現場実習、私的実習の受け入れについて事業所と連携して進めていきます。	私的体験利用の申込書を、通所系・居住系各事業所毎に作成し、令和7年度の実習より共通ツールとして運用できるように整えています。
障がい福祉サービス申請代行業務	施設入所者のサービス更新、変更、障がい支援区分の更新申請、法人内での施設間異動、グループホーム利用者の居宅等のサービスを本人からの依頼に基づき申請を代行していきます。	障がい福祉サービス、給付金、税申告等、多岐にわたる申請を含め、滞りなく行う事が出来ています。今後においても、適宜事業所職員とも連携しながら、進めていきます。また、必要に応じて事業所職員へ、制度や仕組みについてフィードバックする場を設けて、相互に知識やスキルの向上が図れるように連携していきます。
訪問活動	養護学校関係、相談支援事業所、ご家庭へ訪問しニーズの調査を実施していきます。	地域性の把握や、福祉ニーズ調査のため、北広島市近郊の事業所（相談支援事業所、入所施設、通所施設、養護学校等）を訪問しています。北広島市外のニーズや地域課題も含めて、法人内各事業所に共有しながら、ネットワークづくりを進めていきます。

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
サービス調整会議	本人の状況、契約後のニーズの変化、ライフステージに応じた支援が必要な場合に法人全体で話し合う場を設けます。また、複雑化、多様化するニーズに応じていけるように、マネジメントしていきます。	多様化、複雑化するニーズに合わせて法人内事業所と受け入れに向けて協議検討しながら、ケースを進めています。法人内事業所だけではなく、必要に応じて相談支援事業所など、法人外の資源も活用しながら対応しています。また、契約前のケースについては、自宅訪問して初期ニーズの確認や、現状のアセスメントをし、事業所にフィードバックする事で法人内サービスの利用へと繋げています。

入所者選考委員会	入所対象者決定の公平性、客観性を確保するとともに、施設入所支援の必要性が高い方が適切に施設入所できるようにしていきます。	グリーンパーク北ひろ2名、共栄1名の新規入居（所）に際して、入居（所）者選考委員会を開催しています。平時から保護者や相談支援事業所、通所事業所等と連携を取り、意向やニーズを待機者リストに反映している為、選考時の根拠として対象事業所に情報提供しています。また、待機者リストについては、5月、11月と法人内事業所にサイボウズにて発信し、待機者数だけでなく、各ケースの状況についても相互に把握できる共通ツールとして整えています。
苦情解決事業 事務局業務	苦情解決事業関係者会議の事務局として、年2回の定例会議が円滑に実施できるように準備します。	定例会議を2回、臨時会議を1回開催しています。各会議には、第三者委員の調整含め、事務局として事前準備の段階から携わっています。

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害時の支援	災害時の連絡調整、協力体制を整えていきます。	BCP机上訓練（感染症編）を8月に実施しており、予防や有事の際の対応方法を場面ごとに確認しています。感染症発生時には、短期入所事業をはじめ、各事業所との連携や、職員の応援派遣なども含め協力しながら業務を進めていきます。

### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
楽しい職場づくり	職員が、企画・立案・実行することで自己達成感を感じられ、仕事に対する熱意を持てるようにしていきます。	訪問活動を通し、他法人の見学受付から対応までのプロセスを知るきっかけに繋がったり、中身を見直すきっかけとなっています。今後は、見学後にアンケートを実施して事業所にフィードバックしていくなど、より満足度の高いものとなるように取り組んでいきます。
働き方・研修	個々の職員のスキルアップや研修参加を計画的に実行していきます。 職員育成について知識を深め、働きやすい環境となるよう職員間のサポートを進めます。	目的別に法人内外研修に参加して、職員個々のスキルアップを図っています。研修後、部署内でフィードバックの機会を持つことで、部署としての資質向上に取り組んでいます。また、法人外研修参加時には、他法人職員と、職員育成や、働きやすい職場づくりについて情報交換をして、業務に反映しています。
		少人数の部署というメリットを活かし、相互に業務を確認し合い、引継ぎ・業務調整を行っています。公休日の業務も他職員で補い合うなど、働きやすい職場づくりに繋がっています。

# 令和6年度事業報告

## 施設危機管理部



【令和6年度を終了して（総括）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人設備に関しては築年数の経過した事業所の設備故障が多くなってきている。業者修理が増え修理費用もかなり増加してきていることを踏まえ、今後も計画的な修繕を実施していく。</li> <li>また、突発的な故障や修理調整が増えている。用務係の対応能力向上については、電気工事士資格保有者を2名とし、自動車整備士資格等含め専門的に対応することで、経費削減と修理日数の短縮が向上した。設備業者に対応可能職員も増員することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害・感染ともBCP計画が義務化されるが各事業所の作成について委員会で確認済。</li> <li>・特に感染症については、発症時ほぼ各事業所での対応が可能になる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントについて事業所間の提出や対応の格差を是正し、分析できるよう委員長含め委員会で対応してきたが、事故対応マニュアルによる全事業所同一対応は現時点ではできていない。</li> <li>・管理職が事故やインシデント等の報告が率先してできることを、今後も進めていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全運転に関しては、今年度もドライバーズチェックを実施し分析をし事故防止を実施。さらに、事故対応の専門家に研修動画作成しオンデマンド研修を実施。</li> <li>・さらに、ながら運転（携帯電話等）の禁止の全体周知実施。</li> <li>・結果、交通事故件数については、令和5年度が27件で令和6年が11件であり、前年比－16件となる。</li> </ul>

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
1 安定した設備稼働	法定点検および自主点検を含めた対応の実施。	・法人全体のエアコンについて、メンテナンス契約を締結。東部緑の苑についてエアコンの大規模修繕の計画により修繕を実施。
	業者との連携による早急な対応	共栄浄化槽、グリーンパークボイラー等経年劣化により緊急修理実施。金額を抑えるため、用務対応できるところは部品のみ購入し対応。共栄の暖房等ボイラーについても、点検結果をもとに次年度への対応を検討。
	用務係の技術の標準化および向上 それによる、業者修理や購入による経費の削減を向上する。	・内部で役割を設定し対応後の確認を主任中心で実施。また、車輛等の整備については資格のある主任がマニュアルを作成し対応。建物についても、クロスやトイレつまり等、対応可能職員が増加。

	点検、修理に関する業者対応および管理業務担当者の複数化	・マネージャーからチーフへの引継ぎを積極的に実施。
	・事業所ごみ収集変更によるスムーズな廃棄	・移行済み。
2将来的な大規模修繕予計画の策定	施設の老朽化に伴う大規模修繕計画の可視化	・現時点で調査をし、予算と検討しながら優先順位を整理している。
	・とみがおか ①誘導灯新規改修	①誘導灯新規改修
	・共栄 ①誘導灯新規改修 ②キュービクル変圧器取替	①誘導灯入替終了 ②キュービクル変圧器取替
	・グリーンパーク北ひろ ①自動火災報知設備交換	①次年度実施
	・北広島セルプ ①エアコン増設検討	①エアコン増設実施
3エネルギーに考慮した設備入れ替え。	・蛍光灯の市場在庫を考慮しながら必要箇所はLEDに変更していく。	すべての事業所実施済み。
	・東部緑の苑全館、北広島デイセンターヴェール照明の一部LED化調査。情報少ないため継続していく。	
	・公用車の入替時には、適正サイズおよび必要台数の確認、低燃費を考慮する。	・現時点ではダウンサイジングはないがリース車両を調整し1台減車実施。
	・公共料金を安全に良い条件で契約できるよう見直す	・北海道電力の高圧電力長期割引契約が終了年度。値上げ提示を精査しできる限り値上げ幅を圧縮した契約を実施。電力安定供給のため、割引率の高い業者ではなく、実績のある北海道電力と再契約。

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
1北広島市との連携による災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北広島コラボおよびグループホームがすみ障がい者福祉避難所指定となるため、受け入れや備品等を北広島市と協議していく。また受け入れマニュアルを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規2事業所は認可確認。</li> <li>・今後、備品等の話があれば順次対応。</li> <li>・北広島市からの物品等の返答後に対応を整理し、マニュアルを今後作成。</li> </ul>
2災害時、町内会との連携および本部の活用の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災としての、法人本部の活用を、北広島市危機管理課と相談していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所危機管理課と話していくこととしているが、現時点では進んでいない</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献推進部が進めている地域防災に協力し、町内会からの防災協力や研修要望があれば、対応実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災教室への参加実施</li> </ul>

## 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
1非常時の安全と生活の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用発電機の定期的メンテナンス。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用発電機の定期的メンテナンス。</li> <li>・今年度、災害および感染症BCMが義務化されるため、BCP担当者による各事業所の対応手順の標準化と対応レベルの標準化の再確認を実施。また監査対応を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害担当委員会で対応し計画の見直しと確認を実施。訓練実施記録の必要性を災害委員長から各事業所へ周知している。</li> </ul>

2 災害時の連携協力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の連携協定の継続と他法人との情報交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携協定は継続。</li> <li>・他法人との情報交換は未実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道災害派遣チームD-WATの加入。登録研修完了。依頼時には派遣する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練については今年度必須がないため未実施。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉避難所が法人2事業所増えたため、受け入れマニュアルの作成と物品について、北広島市と確認と対応していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2事業所認可。物資については北広島市からの回答は無し。</li> <li>・東部緑の苑避難物品の期限切れはすでに報告済みだが返答無し。北広島市からの物品等の回答後に対応を整理し、マニュアルを今後作成する。</li> </ul>
3.災害および故障時のICT対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害および故障時の対応するためのサーバー情報の一部クラウド化についての検討と移行準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集中。経費がかなり掛かるので費用対効果含め検討継続。</li> </ul>

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	4月～9月進捗状況
1安全に働ける職場 交通事故をより減少させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライバーズチェックの分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析結果を副安全運転管理者とも共有し、全体に周知。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故分析による職員への注意喚起および定期的な呼びかけ（副安全運転管理者も実施）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度の交通事故状況を分析し、副安全運転管理者の分析コメントを入れ作成した注意喚起文章を全体に発信している。</li> <li>また、交通安全運動の時期にコメントをいれて全体発信もしている。</li> <li>事故件数は11件で前年から16件減少している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部事故対応専門官による事故研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人身事故が連続して発生しているので全体に注意喚起をしている。</li> <li>・副安全運転管理者が中心となり、専門家と研修動画を作成。</li> <li>法人全体にオンデマンド研修を実施。</li> </ul>

<p>2安心して働ける職場</p> <p>リスクマネジメントにより自己分析をしっかりと行い、利用者様、職員双方のリスクを減らす</p>	<p>・法人リスク委員会によるリスクマネジメントの再構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク委員会によりインシデント共有をしていたが、提出状況に不備があり、年2回の集計が年度末のみとなる。</li> <li>・リスク委員の意見交換は以前より多くなっている。</li> <li>・重大事故については、事故対応マニュアルにより、法人事故対応委員会を開催し対応している。</li> </ul>
<p>3.法人加入保険の整理と効果的活用</p>	<p>・保険内容を確認し必要時に的確に対応できるよう保険内容を精査する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車保険については、事故件数の減少及び保険使用の調整を実施し、次件度は最大割引率になる。</li> <li>・代理店と連携し保険内容の知識向上を実施。保険対象可能判断能力を向上させた。</li> </ul>
	<p>・今後想定されるあらゆるリスクに対応できるよう、保険内容を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントや労働紛争に対する保険を人事部に提案実施。</li> <li>・サイバー攻撃および個人情報の流失に対応した保険に新規加入した。</li> </ul>

# 令和6年度事業報告

## 人事総務部



【令和6年度を終了して】

新卒内定者が3名と順調に進み、インターンシップの実施も本格的に着手をし更なる採用者確保に努めていきたい。減員補充のための中途採用については、職員による紹介やハローワークなどにより適宜確保出来ている。令和7年度新卒内定者は8名、令和8年度新卒内々定者3名と、順調に内定者の確保ができています。次年度以降も採用者確保が困難になることが予測されるため、インターンシップの内容の充実や人材の確保など、早期から取り組んでいく必要がある。

【令和6年度事業計画 進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開
2. 地域福祉の推進を図る取り組み
4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
採用促進	新卒採用パンフレットの更新	若手職員の意見も取り入れながら、学生に分かりやすい内容に
採用促進	SNSなどの更新	Super7の一員として、SNSを積極的に更新し法人の魅力を発信 ホームページのリニューアルを検討中
採用促進	新卒採用者10名を確保	令和7年度新卒採用者8名 (令和8年度新卒内々定者3名)
採用促進	インターンシップの実施	8名の受入れ
採用促進	中途採用	正職員22名・嘱託職員3名 パートタイム嘱託31名 ※フレキシブルスタッフ14名は含まない
採用促進	外国人採用	フレキシブルスタッフ 22名採用 共栄6名・グリーンパーク6名 東部4名・とみがおか6名
人材の定着	法人全体の離職率 10%以内を目指す（パート職は除く） 離職者目標 障がい24名以下・高齢7名以下	障がい 27名 11.5% (27名/234名) 高齢 5名 7.2% (5名/69名) 法人全体 32名 8.2% (32名/388名) ※パートタイム嘱託 障害8名・高齢2名
人事評価制度	人事評価制度の検証	評価制度の研修を重ね、プロジェクトチームにおいて次年度改定に向けた議論を進めている
人材育成の強化	外国人労働者のフォローアップ	サポートチームを中心として生活面を主に継続的にサポート

3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
ICTの取組強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種人事手続きに関して可能なものは電子申請を進め、業務効率向上につなげる</li> <li>・在宅勤務に必要な機器などの取扱いについて検討を進め勤務環境の充実を図る</li> </ul>	健康保険や厚生保険などの社会保険の手続き、共済会はほぼ電子申請済、一部紙媒体必須の手続きもまだ多い

【令和6年度を終了して】

昨年と比較して少ない人員による年度決算作業、新年度（報酬改正など）の対応などが重なった中、強いチームワークで終えたことは各人大きな自信になった。次年度以降業務の見直し、電子化(電帳法など)や郵送料の値上対応など関係業者からの情報収集を行い業者選定を進めている。併せて下半期には会計監査人による中期監査、自治体による実地指導の対応を行い指摘事項に対しての処理や修正を行った。経理規程についても各人読み込み修正箇所や追加事項を意見交換し検討した。

【令和6年度事業計画 進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
迅速で正確な 会計処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な会計処理の実践</li> <li>・帳票類の見直し</li> <li>・適切なエビデンスの保管</li> <li>・顧問税理士による監査内容の充実</li> </ul>	スケジュールを意識した業務を遂行し、遅滞ない処理に努めた 定期的な税理士監査において、健全な会計処理と評価 さらに今年度より対応している監査法人と連携を取りより厳格な会計処理を進めている
業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容の見直し</li> <li>既存マニュアル刷新による時間効率化</li> </ul>	将来的な電子化や法律対応も含め業務の効率化を模索し、業者選定を進めている。法人全体のシステムの連携等を加味して進めていく
事業所との 信頼関係強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徹底した数値管理による月次見込の分析と適切な情報提供</li> <li>・事業所会議、事業所行事への参加</li> <li>・配置基準や加算要件に関する確認</li> <li>・日常の情報交換とコミュニケーション</li> </ul>	関係強化・コミュニケーションは図れているが、数値管理や情報提供など経理担当者個人の対応能力に差がある 請求事務に関わる部分では来年度へ向け知識・理解力のアップを部署として目指す

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域活動	各種行事への参加	特定の者のみの参加にとどまり、全体での積極的な取り組みにはならなかった

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
日常業務	職員が休まざる得ない状況に備えて、書類保管のルール化	業務引継ぎ方法や各自書類の整理などを確立し、担当者不在時に誰でも把握出来る体制に 担当職員不在時の引継ぎの徹底を行った 未だに書類が多い状況の為次年度以降改善を図る

### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
安心して働ける 基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金の状況のタイムリーな伝達</li> <li>・必要な物資を必要な時に提供出来る体制を日常から意識して業務を遂行</li> </ul>	<p>各事業所の資金状況を把握し、適切な資金管理に努める</p> <p>感染物品や事務用品など管理し、安定的に供給</p> <p>クマゲラ管理から事業所毎の発注に切り替え、柔軟な対応を取ることが可能となった。</p> <p>次年度以降も資金状況について、資金ショートを未然に防げる対応を行う</p>
ワクワクする仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりが充実しやり甲斐を感じられる職場づくり</li> <li>・笑顔と挨拶の素敵な職場づくり</li> </ul>	<p>業務に集中しながらも、ひとりひとりが心地よい職場づくりに努めた</p> <p>業務配分の調整を行い、一人の職員に対する業務過多が起きないように部署内で連携・調整を行っている</p>

【令和6年度を終了して】

「看取り」に関わらず、“措置から契約へ”の考え方に影響を与えながら進行中の本活動です。障害者支援施設では利用者家族の多くに「施設に全部任せた」という措置の感覚が残っているようです。家族勉強会を重ね、事業所が看取りまでを援助するには、利用者家族にも役割と責任があることを伝えていますが、すでに疎遠の親たちも多く、相談することさえ困難になっている支援現場です。

今年度、打開策の一つとして、配置医師に懇願し、障害者支援施設で看取り介護期に至らない年齢・状態の利用者用の約束ツール（意思表示書）を整えました。しかし、支援現場の実態を鑑みて、使用を踏みとどめています。社会的にも注目されている「障がい者のエンド・オブ・ライフを支える活動」であり、先駆者としての「丁寧さとモラル」が求められます。制度化のためにも、事故を起こさないためにも、職員・家族・関係者の理解・力量を評価しながら今後の活用へと進めます。

特養は、コロナ禍、事故対応等が落ち着き、本来の活動ができるようになりました。看取り介護加算算定要件を遵守して毎年30名程の看取り介護を達成する力に加え、あらためて「望みを叶えて生ききる」「家族と一緒に」などの議論、工夫へと動き出しました。看取り援助の手本として、本活動を牽引する役割に期待しています。

【令和6年度事業計画 進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
家族との協働	家族との関係性の強化 看取りのススメ意向確認 いのちの相談ができる職員育成 家族勉強会、法人内外への情報提供	「ご一緒に」の活動で家族・職員が明るくなった 成果例：障害者支援施設共栄の個別面談に8割以上の家族が参加 職員勉強会：事業所要請を受け通年開催 家族勉強会：障害者支援施設、グループホーム 各2回/年開催 法人外からの要請には都度情報提供中
目標	取り組み・行動計画	進捗状況
特養看取り援助「内容」の向上	家族・職員が楽しめる看取り援助の提案とサポート 家族勉強会での家族の知識向上、職員連携をサポート	特養看取り援助委員会にアドバイス参加 コロナ禍に停滞した「望みを叶えて生ききる」の再考を提案 家族と一緒に満足を追求する意義をサポート中

## 2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
医療関係者との連携	障害者支援施設の看取り援助を医学界に発表 (第47回 日本死の臨床研究会年次大会)	「知的障がい者のエンド・オブ・ライフ」についての情報・関わりが少ない医学界に活動報告ができた功績は大きい 生活感あふれる看取り援助の発表は刺激的で好評であり、知的障がい者支援の認知度を上げた

## 4. 魅力ある法人づくり

自信を持って看取り援助ができる	委員会活動、研修・現場介入で職員をサポート	p
配置医師と共に生活を豊にする	配置医師連携による健康管理の安定 不用意な入院を減らし稼働率を上げる	配置医師制度導入で障害者支援施設も看取り援助体制が進み、支援の継続が可能になっている

# 令和6年度事業報告

## 地域貢献推進部



【令和6年度を終了して（総括）】

法人本部を中心部に移転して14年目。とりわけ東部地区の市民には馴染みの薄い障がい福祉事業が主であるが、理念に基づく反復継続した各種の活動が市民認知度を確実に上げてきている。

当部の大きな役割は、法人が地域課題への取組や制度にない狭間を、地域活動という観点で事業を進めることで、市民との距離を縮める役割であり、頼って貰える存在になるためのPR活動が目的である。これらの活動は、法人理念を率先垂範することや地域協働による市民との共同歩調にも繋がって来ており、今後も継続することでさらに広がりも期待でき将来的に間接的な財務評価に繋がると確信している。このことから、多くの収益の見込みは出来ないものの収益事業のキッチンカー事業において令和7年度、新たな取引に繋がる団体も出てきた。

【令和6年度予算】

※事業活動収支差額予算の結果、課題、具体的な取組み等

収支差額予算額	941 千円	決算額	125 千円	対予算	△ 816 千円
---------	--------	-----	--------	-----	----------

出店は主催者団体が公的な団体であるか、また出店者に反社関係が多いかを判断して出店した。6年度は、社福をメインとしての出店として、市観光協会事業、学校からの出店依頼での事業とした。利益率は低いものの食品ロスが少ないことや数量が確定する買取り出店が少なく売上に影響があった。車内でご飯ものを提供できるメニューが出来たことは出店の幅を広げられ、7年度の新規にも繋がった。

FSEとの賃貸借契約は評価額の上昇をもとに今後の値上げ交渉する際の基礎とする。

【令和6年度事業計画進捗状況】

1. 幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域貢献推進部の取組すべてが、幸福を追求する事業のため下記2～5に記載します。		

2. 地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
共生型事業の推進	ほととの運営サポート	利用者数は回復傾向にあり10,000を超える来場実績。 子ども対象の事業を星槎道都の学生により定期開催するが高齢者の参加が多い。学生が企画に携わることで今後に期待。
市民への情報提供と法人理解	市民公開講座「みんなの相談室」暮らしに役立つセミナーの開催	・相続税講座を税理士に、相続登記の義務化講座を司法書士、葬儀事情を葬儀社、遺言等を行政書士に依頼し終活に役立つ講座を実施した。少ないながらも活発に質問がある。
市民への情報提供と法人理解	市民公開講座「みんなde介護」の開催 介護の実践を学ぼう（出前講座）	法人での取組を市民に提供。排便が健康のバロメーターであること健康のための酒の肴について老人クラブに講演と試食、レクレーションの実施をした。次年度も派遣の依頼を受けるなど地域との関係性の向上に繋がっている。
暮らしの中にスポーツを	「みんなdeスポーツ」。アダプテッド・スポーツの普及推進。講習会や大会の企画 ・健康づくりと仲間づくり ・誰もが楽しめる市民スポーツの普及 ・障がい者の生涯学習	事業所間で大会実施。地域団体から指導の依頼もある。市が進める推進計画に則り実施。大会への運営や参加協力実施。 ・注目を浴びるeスポーツに関してキャリアパスセミナーを開催し反応もよく、活動を取り入れた事業所も出現。 ・感染症で出来なかったボッチャ交流を市内外の行政を含む社福法人の大会として開催し、次年度以降にも繋がるものとなった。 ・人事総務部の事業計画に掲げた法人内のボッチャ大会の開催も実現させた。

食育学習、孤食対策。社会問題の解決。	「みんなde食堂」の開催 ・多世代で食べよう ・食育（食ロス）	市消費者協会、企業からの食材提供を受け、子どもも大人も対象とした食堂を3回開催した。フードドライブの商品は食ロス問題として食育にも繋がっている。カンパ箱も設置し支出削減とした。 ・市民から子ども食堂等子どもの事業にという主旨で多額の寄付もいただいた。
法人敷地の開放	「みんなdeワクワク」の開催	夏休中の親子昆虫採集を実施し生き物の命について講話。駐車場でのフォークアートは市内行事と重なり日程合わず中止。
非常時の助け合い。法人の役割	近隣市民と協働して「みんなde訓練」の開催	隣接する町内会と協働して9月と3月に炊出し訓練を実施。訓練への参加を申し出る市民や町内会もあり継続実施。管理職の地域との交流の場も兼ね参加した。この事業を推進するにあたり市民ボランティアを申し出る方が現れ、毎回各種の事業にご協力をいただいている。
まちのデザイン	まちづくり推進とボランティア推進 ・まちのしあわせづくり ・地域行事への協力 ・ボランティア派遣 ・ボランティア受入	・市や観光協会事業への物品や人的な協力を実施。マンパワーは外部からの評価も高く頼りにされる法人との位置づけ。 ・社会福祉協議会からの児童生徒への車いす体験講師も継続して依頼される。 ・また行政を含む任意団体「Fヴィレッジとゆかいな仲間たち」事業に参画しコアメンバーとしてまちの魅力アップに繋がった。10名の管理職が当日の手伝いに関わり地域づくりを実体験した。

### 3. 災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域との協働 みんなde訓練 ・災害時の炊出しを町内会会員と展開	(再掲) 「みんなde訓練」(炊出し)の実施	9月と3月、レスキューキッチンを借用して汁物調理を子どもを含む町内会会員を中心とした市民と実施。レスキューキッチンは法人としても有効活用できることから引続き共同募金会に助成申請を行う。

#### 4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域とWIN-WINな関係の構築を図る	地域との繋がり促進事業	<p>・まちのデザインにも掲載したが、地域とのつながりがより強固な関係を構築されて来ている。大学2校との間で締結された包括連携から新たな事業を展開する「五者協議」の発足や誰でも親しめるアダプテッド・スポーツの普及推進活動など、本業となる財務評価に直接的な数字は現れないものの、のちに本業への間接的効果が期待できる非財務評価活動を確実に上げることができると言える活動となっている。</p>
食を核としたコミュニティ食堂の運営	コミュニティ食堂の運営	<p>子どもも大人もみんなが利用できる食堂は実施したが常勤体制が取れず常設的な食堂の開設とはならなかったが、この会場を利用して学習会の場、また、障がい当事者の方たちの学習、交流会の場として活用することができた。また、月1回市民の要望に応じたそばサークル場としてコミュニティー活動に寄与している。</p>